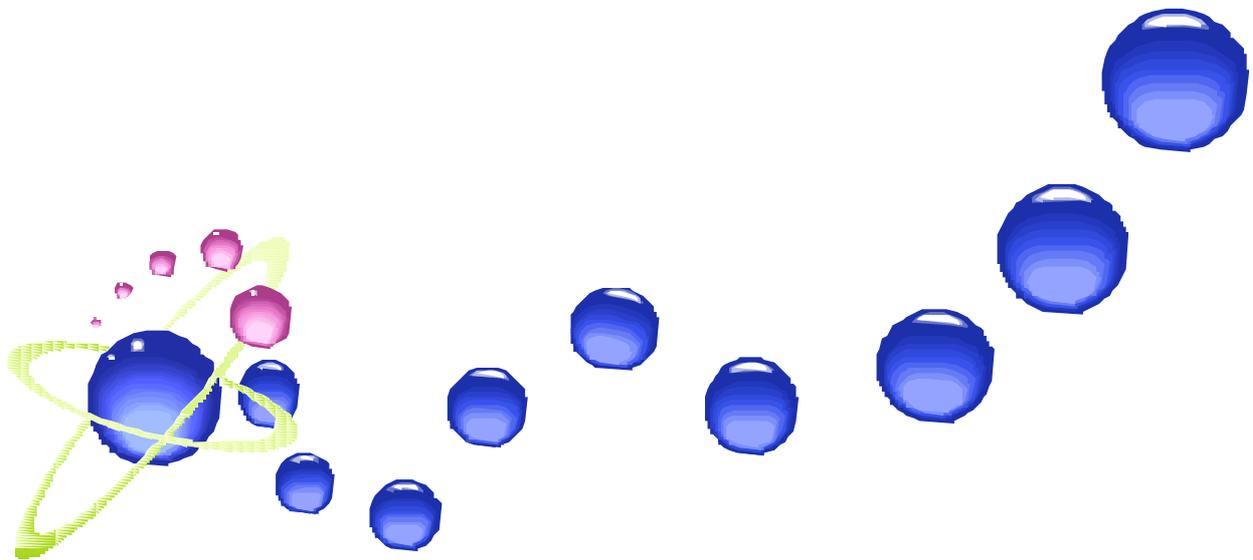


# 支 援 を つ な ぐ

～早期からの継続した支援のために～

実 践 編



平成20年3月

山 口 県 教 育 委 員 会

## はじめに

学校教育法の一部が改正され、平成19年4月から特別支援教育が制度的にもスタートしました。本県におきましても、「山口県特別支援教育ビジョン実行計画(第1期)」に基づき、総合支援学校への移行、特別支援教育センターの設置等、本年4月から特別支援教育を本格的に実施することとしております。

また、各学校におきましても、校内委員会の設置、校内コーディネーターの指名、個別の教育支援計画の作成等、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援を行うため、校内体制の整備に積極的に取り組み、大きな成果が上がっています。

このような中で、昨年実施した特別支援教育体制整備状況等の調査結果によりますと、学校用調査において、特別支援教育を学校で推進する上で必要なこととして、6割以上の学校が「教員の資質向上」をあげており、必要な情報や研修内容として、約8割の学校が「発達障害等の指導方法や指導事例」をあげています。また、今後の特別支援教育推進に当たって大切なこととして、約7割の教員が「校内支援体制の整備充実」をあげ、資質向上のために必要な研修内容として、約8割の教員が「具体的な指導方法に関すること」をあげています。

そこで、昨年度も教職員対象の研修用テキスト「支援をつなぐ～早期からの継続した支援のために～」を作成し、幼・小・中・高等学校の全教職員に配布しましたが、今年度は、サブセンター・柔軟な支援教室モデル事業の成果、地域コーディネーターによる巡回相談等における具体的な事例をもとに、発達障害の特徴別の指導方法、授業の中での指導の実践例、校内体制による支援の実践例などを内容とする実践編として編集しています。

今後は、各学校や地域における相談支援体制の充実とともに、発達障害等についての教員の指導力の一層の向上が重要となりますので、校内研修や学級等での指導方法を検討する際、本テキストを積極的に活用し、障害のある幼児児童生徒一人ひとりの実態に即した適切な指導及び必要な支援の充実に努めていただきたいと思います。

終わりになりましたが、本テキストの編集に際し、監修、資料提供をいただきました金原洋治、田原卓浩、吉田一成、松田信夫、松岡勝彦の各先生方、宇部市立岬小学校、萩市立明倫小学校、地域コーディネーターの皆様にご心から感謝を申し上げます。

平成20年3月

山口県教育委員会

教育長 藤井俊彦

# 目次

I	特別支援教育の動向	-----	1
II	本県の特別支援教育	-----	2
1	総合支援学校	-----	2
2	地域における相談支援体制の整備	-----	3
3	校内支援体制の整備状況	-----	4
III	事例検討会の進め方	-----	7
IV	実践事例	-----	9
1	幼稚園		
(1)	集団での活動が苦手な幼児	-----	10
(2)	休み時間や遊びの場面でトラブルの多い幼児	-----	13
(3)	課題に集中することが難しい幼児	-----	16
	*解説	-----	19
2	小学校		
(1)	書くことが苦手な児童<3年生>	-----	20
(2)	通常の学級における複数の児童<5年生>	-----	23
(3)	対人関係に課題のある児童<5年生>	-----	26
3	中学校		
(1)	集中して取り組むことが難しい生徒<1年生>	-----	28
(2)	時間制約の中で活動することが苦手な生徒<1年生>	-----	31
(3)	一斉の指示を聞くことが難しい生徒<2年生>	-----	34
4	高等学校		
(1)	こだわりが強く、周囲への配慮が苦手な生徒<3年生>	-----	37
(2)	パニックを起こしやすい生徒<1年生>	-----	39
(3)	発達障害等の生徒が複数名在籍する高等学校における支援	-----	41
	*高等学校段階等における主な発達障害の特徴(例)	-----	43
V	校内支援体制の充実		
1	校内支援体制の機能の充実	-----	47
2	校種間の連携	-----	50
3	保護者や地域への理解・啓発ーリーフレットの活用等ー	-----	53
VI	ワンポイント事例		
1	人の話を聞くことが苦手	-----	54
2	話をすることが苦手	-----	55
3	読むことがうまくできない	-----	56
4	書くことがうまくできない	-----	57
5	計算がうまくできない	-----	58
6	文章題につまずきやすい	-----	59
7	集中し続けることが難しい	-----	60
VII	ふれあい教育センターの取組例		
1	専門家チーム(リエゾン・コンサルテーション・スタッフ:LCS)	-----	61
2	臨床心理士の参画による相談支援	-----	64

# I 特別支援教育の動向

山 口 県 の 取 組	国 の 動 向
<p>平成13・14年度文部科学省委嘱事業 ○学習障害児に対する指導体制の充実事業 ＜光市で実施＞</p>	<p>平成13年1月 ◆「21世紀の特殊教育の在り方について～一人一人のニーズに応じた特別な支援の在り方について～（最終報告）」 *文科省調査研究協力者会議</p>
<p>平成13・14年度文部科学省委嘱事業 ○障害のある子どものための教育相談体系化推進事業 ＜萩市で実施＞</p>	<p>平成14年12月＜障害者施策推進本部＞ ◆「障害者基本計画」重点施策5か年計画 ・盲・聾・養護学校での「個別の教育支援計画」の平成17年度までの策定 ・盲・聾・養護学校に関する地域におけるセンター的役割を果たす学校についての制度的な検討</p>
<p>平成14・15年度文部科学省委嘱事業 ○盲・聾・養護学校専門性向上推進モデル事業 ＜山口養護学校で実施＞</p>	<p>平成15年3月 ◆「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」 *文科省調査研究協力者会議</p>
<p>平成15・16年度文部科学省委嘱事業 ○特別支援教育推進体制モデル事業 ＜周南・萩地域で実施＞</p>	<p>平成16年1月 ◆「小・中学校におけるLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン(試案)」(文科省)</p>
<p>平成17・18年度文部科学省委嘱事業 ○特別支援教育体制推進事業 ＜平成17年度 周南・萩地域で実施＞ ＜平成18年度 県内全域で実施＞</p>	<p>平成17年12月 ◆「特別支援教育を推進するための制度の在り方について(答申)」 *中央教育審議会</p>
<p>平成18年3月 ■山口県特別支援教育ビジョン策定 ・特別支援教育の施策推進の基本方針</p>	<p>平成18年4月施行 ◆「学校教育法施行規則」の改正 ・LD、ADHDを通級指導教室の対象に</p>
<p>平成18年10月 ■山口県特別支援教育ビジョン実行計画作成 ・施策を計画的に推進するための計画</p>	
<p>平成19年度文部科学省委嘱・委託事業 ○特別支援教育体制推進事業 ＜県内全域で実施＞ ○発達障害早期総合支援モデル事業 ＜萩市、宇部市で実施＞ ○職業自立を推進するための実践研究事業 ＜山口・防府地域、宇部・下関地域で実施＞</p>	<p>平成19年4月施行 ◆「特別支援教育の推進のための学校教育法等の一部改正」 ・特別支援学校制度の創設 ・特別支援学校のセンター的機能 ・幼・小・中・高等学校等における特別支援教育の推進  *「特殊学級」→「特別支援学級」 ◆教育職員免許法の一部改正</p>

## Ⅱ 本県の特別支援教育

### 平成20年4月「山口県特別支援教育」が本格的にスタート

#### ○「総合支援学校」への移行

- ・原則5障害を対象、地域の学校への通学を可能とする総合支援学校
- ・産業科の拡充等、高等部での多様な進路希望に対応



#### ○地域の相談支援の充実

- ・特別支援教育センター（地域の中核となる総合支援学校7校に設置）
- ・サブセンター（地域の核となる小・中学校の通級指導教室等に設置）
- ・視覚・聴覚障害教育センター（下関南（旧盲学校）・山口南（旧聾学校）総合支援学校に設置）
- ・ふれあい教育センター<やまぐち総合教育支援センター>（発達障害の相談支援の機能の充実）

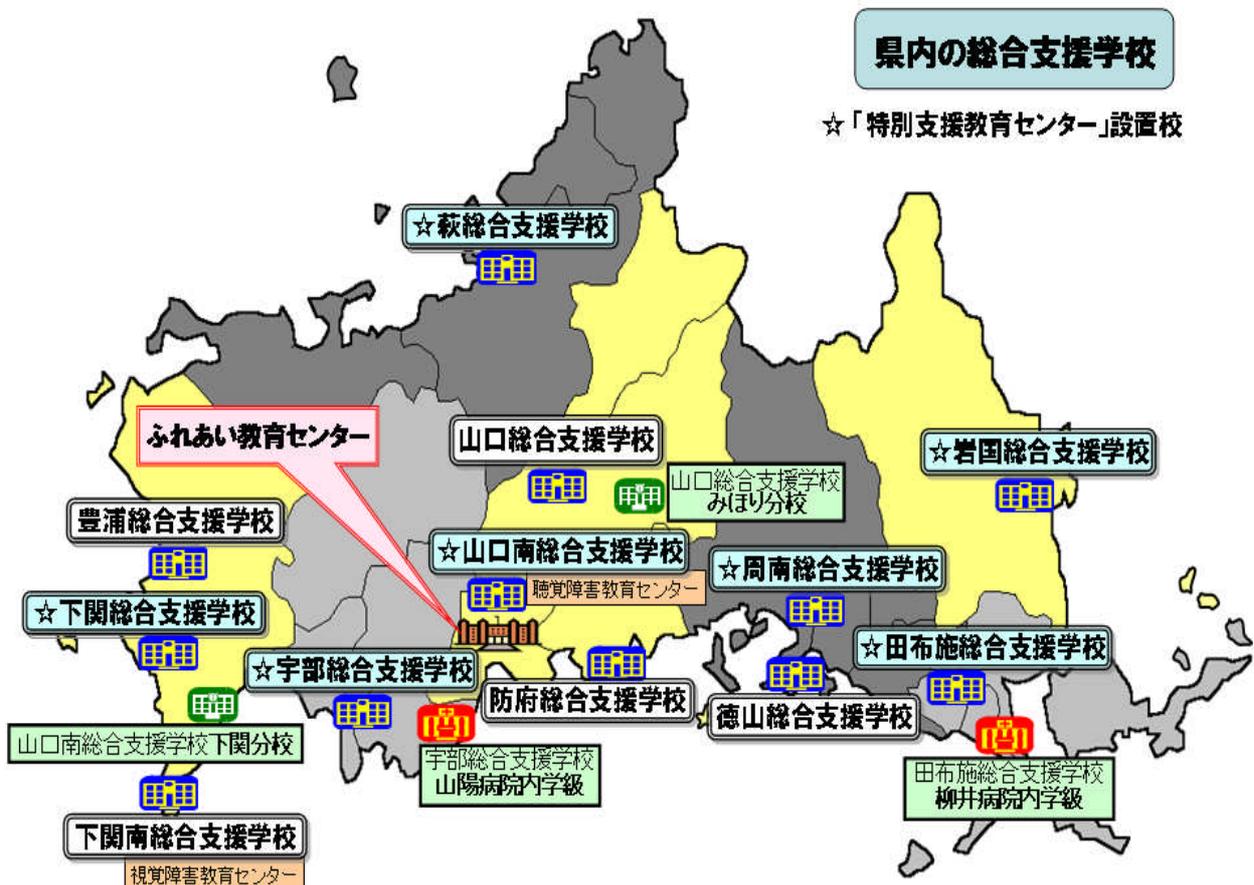
本県の実情に即した特別支援教育を推進するための施策推進の基本方針となる「山口県特別支援教育ビジョン」を平成18年3月に策定しました。ビジョンの構想期間は、平成18年（2006年）度から平成27年（2015年）度までの10年間で、第1期（平成18～22年度）と第2期（平成23～27年度）に区分して実行計画を作成し、ビジョンの実現に向けて、施策を具体的かつ計画的に進めていきます。

#### 第1期実行計画<H18.10作成>

- ① 期間 平成18～22年度（5年間）
- ② 中期目標 「地域で支え、育ち合う特別支援教育の推進」

### 1 総合支援学校

平成20年4月1日から、県内の全ての県立特別支援学校は、下図のように、校名が総合支援学校に変更になります。



## 2 地域における相談支援体制の整備

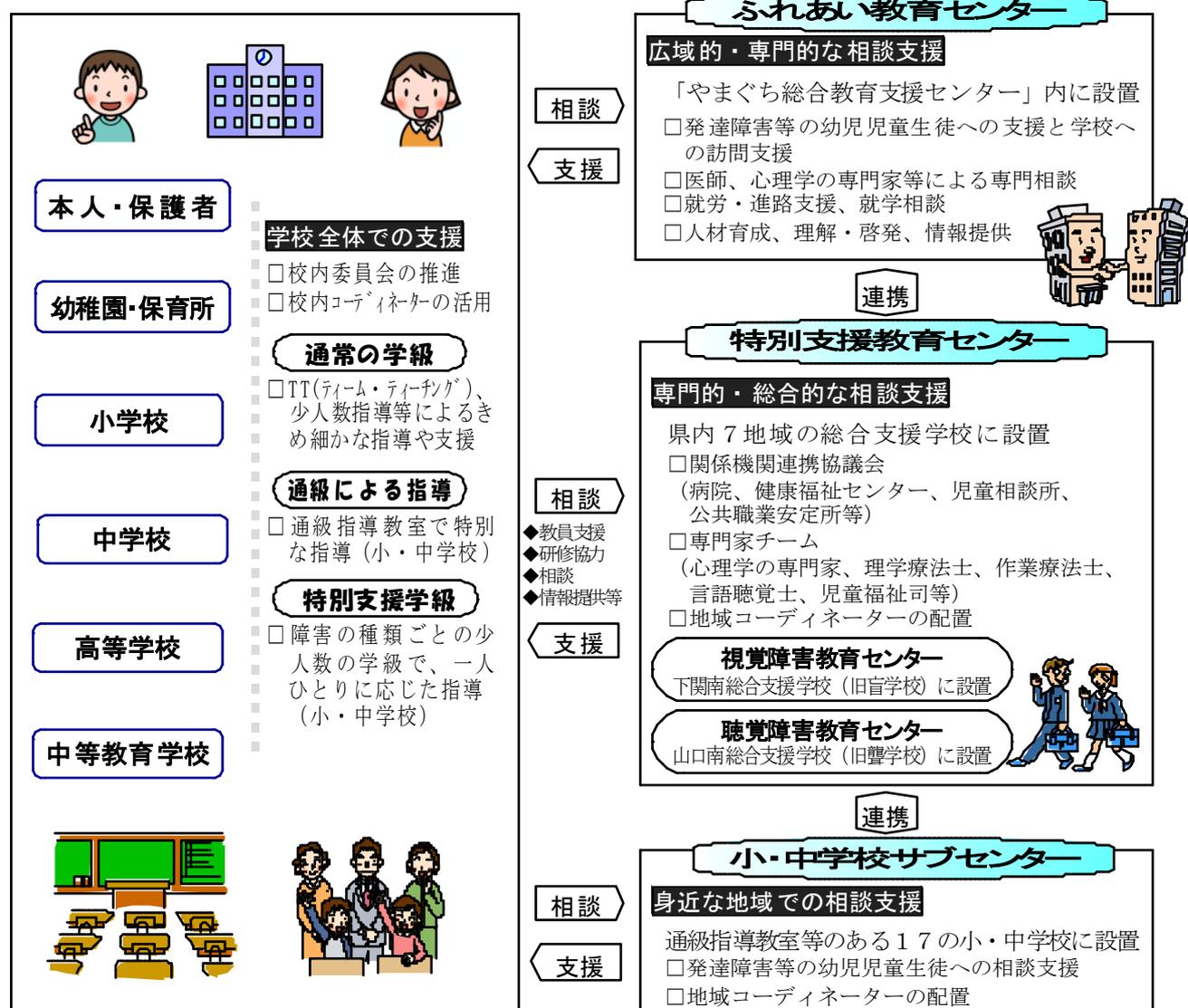
特別支援教育は、学習障害等の教育上の特別な支援の必要な幼児児童生徒が在籍する、全ての幼稚園、小学校、中学校、高等学校等においても、実施しなければなりません。（\*注：学校教育法）

本県では、全ての小・中・高等学校等において、校内委員会の設置、校内コーディネーターの指名等の校内の支援体制が整備されています。

担任や保護者から特別な支援が必要な幼児児童生徒についての相談を受け、全校体制での支援が必要と判断した場合、校長、教頭、担任、特別支援学級担任、養護教諭等で構成される校内委員会を開催し、校内コーディネーターを中心に協議を進めます。

必要に応じて、小・中学校に設置されているサブセンターや県内7校の総合支援学校に設置されている特別支援教育センターに依頼し、地域コーディネーターの協力を求めることができます。また、専門家の助言が必要な場合は、心理学の専門家、理学療法士等で構成される専門家チームに相談することもできます。

### 「地域で支え、育ち合う特別支援教育」の推進



### ●学校教育法 第81条第1項●

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校においては、・・・中略・・・、教育上特別の支援を必要とする児童、生徒及び幼児に対し、文部科学大臣の定めるところにより、障害による学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行うものとする。

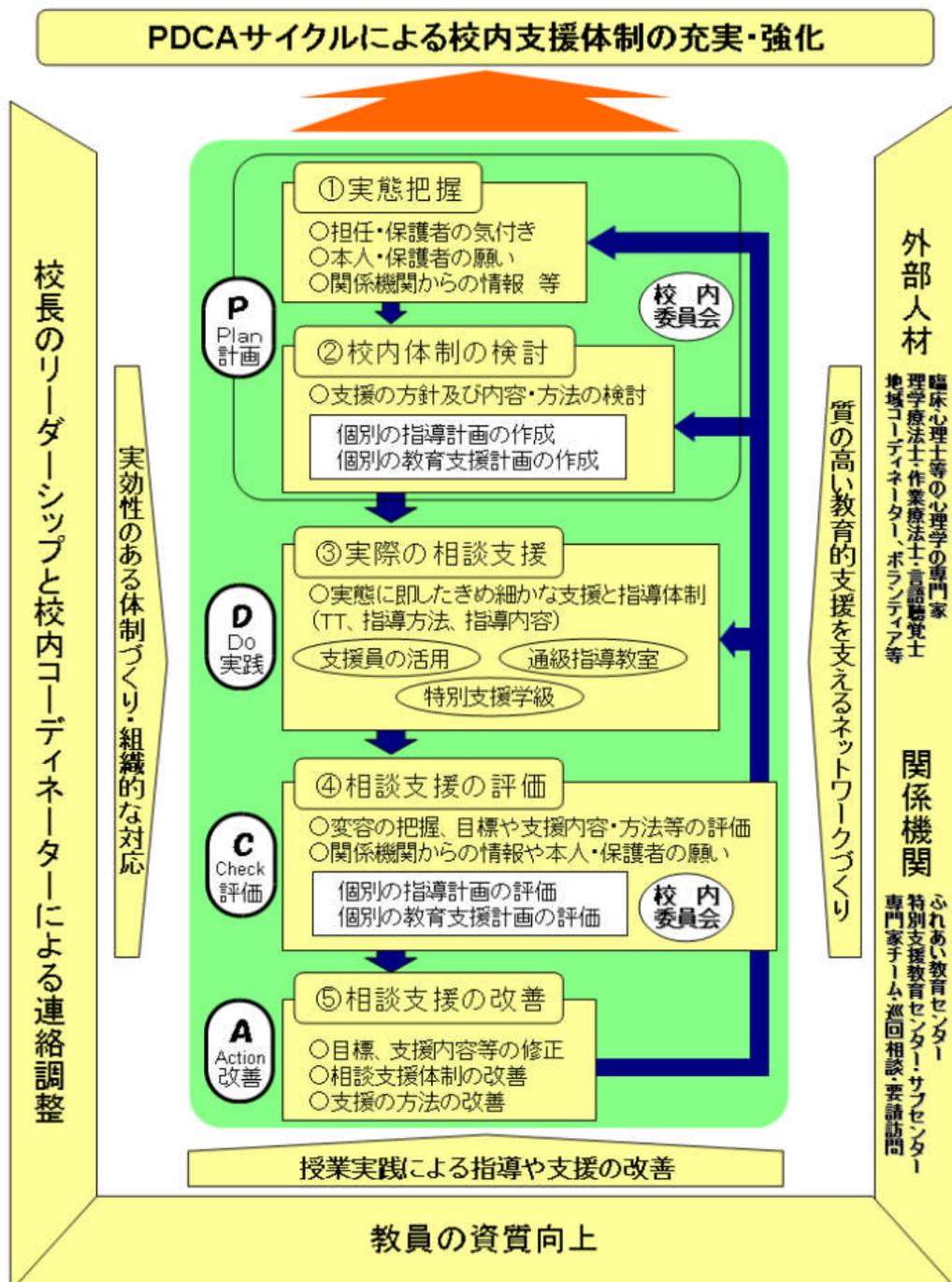
### 3 校内支援体制の整備状況

発達障害等の幼児児童生徒に適切な指導及び必要な支援を行うためには、全教職員が障害の特性や支援等について共通理解し、全校体制による指導や支援を行うことが重要です。

また、校内委員会で支援の在り方を検討し、全教職員が共通理解することで、いつでも、どこでも、だれでも対応できる体制をつくることが重要です。さらに、学校におけるきめ細かな支援には、保護者や関係機関との連携も大切です。

校内支援体制の整備のためには、PDCAサイクルに沿って支援体制や方法等について見直しを適宜行いながら、指導や支援の充実に向けた取組を進めていくことが必要です。

各学校が自校の実状を踏まえながら、PDCAサイクルの各段階の取組を見直し、改善を図ることが校内支援体制の機能を強化し、そのことが幼児児童生徒一人ひとりを大切にす教育の実現につながります。



## PDCAサイクルからみた体制整備状況

平成19年9月に実施した、本県における幼・小・中・高等学校等での校内支援体制の整備状況の調査結果から、取組状況は以下のようになります。

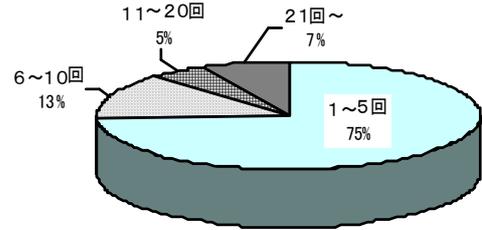
### ① 実態把握

- 発達障害等の児童生徒の実態把握は全ての学校で実施されていますが、専門家の参画による事例検討により、的確な支援の必要性を感じている学校も多いようです。

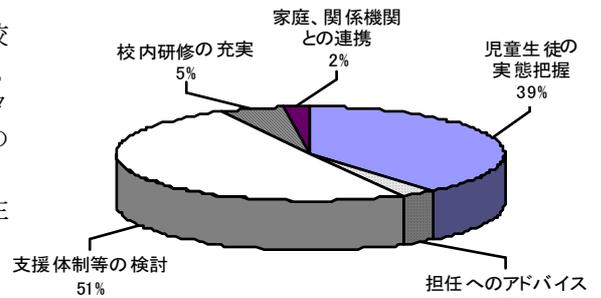
発達障害に関する実態把握の実施

校種	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	計
校数	57	332	166	77	632
実施校	54	332	166	77	628
実施率	93%	100%	100%	100%	99%

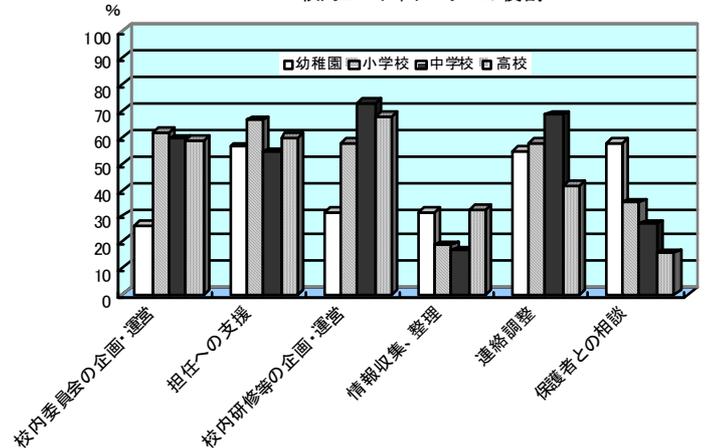
校内委員会の年間開催回数



校内委員会の役割



校内コーディネーターの役割



### ② 校内体制の検討

#### ア) 校内委員会

校内委員会では、幼児児童生徒の実態把握、指導や支援の方法など、全校体制での支援について検討します。

- 全小・中・高校で校内委員会又は同等の機能をもった委員会が設置されました。幼稚園も、平成19年度内に全園に設置予定です。
- 約7割の学校が、毎学期1回程度開催しています。また、約1/4の学校は年間6回以上開催し、計画的に校内支援体制等の検討を進めている状況がうかがえます。
- 校長、教頭、教務主任、担任、校内コーディネーター、養護教諭、生徒指導、教育相談、特別支援学級の担当者等が主な構成メンバーです。
- 校内支援体制の検討や幼児児童生徒の実態把握が主な役割としてあげられています。

#### イ) 校内コーディネーター

校内の連絡調整を行う校内コーディネーターの役割を明確にしておくことが大切です。

- 全小・中・高校等で校内コーディネーターが指名されています。幼稚園においても指名が進んでいます。
- 役割として、「担任への支援」、「校内研修や事例検討等の企画・運営」、「連絡調整」、「校内委員会の企画・運営」があがっています。

#### ウ) 個別の指導計画、個別の教育支援計画

- 幼稚園で約4割、小・中学校で約8割（個別の教育支援計画は約7割）、高等学校で約1割の学校が、個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成しています。
- 小・中学校の通常の学級での作成率は小学校が約4割、中学校が約3割となっています。

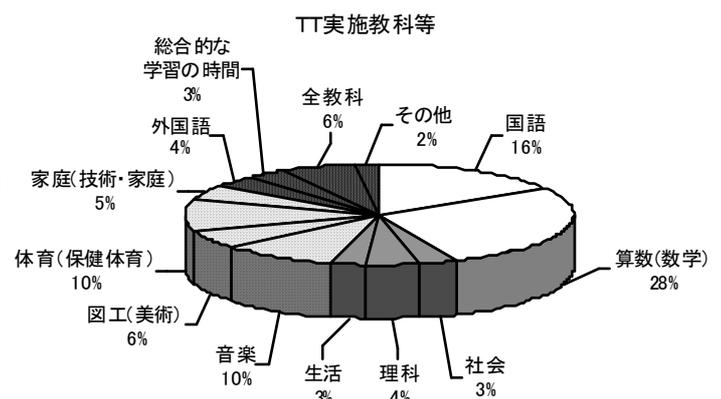
#### エ) 管理職のリーダーシップ

校内体制を整備し充実させていくためには、管理職の特別支援教育についての理解とリーダーシップが欠かせません。

ほとんどの管理職が発達障害等の指導や支援に関心があると回答しており、通常の学級において発達障害のある幼児児童生徒に対して特別な指導や支援が必要だと考えています。

### ③ 実際の相談支援

一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援のため



に、特別支援学級、通級指導教室、T Tの活動等、各校の実状を踏まえた組織的な対応が重要です。

- 約半数の幼・小・中学校でT T指導を活用した支援が実施されています。
- T T指導の実施学年について、小学校は1～4年が約5割、5～6年が約4割、中学校は1年が約7割、2年が約6割、3年が約5割となっています。また、実施教科は、国語、算数(数学)の割合が最も高く、次に音楽、図工(美術)、体育の割合が高くなっています。
- 発達障害等の児童生徒の指導を学級とは別の場所で行う取出し指導が小学校で約4割、中学校で約2割、幼稚園・高等学校の約1割で行われています。

#### ④ 相談支援の評価

指導や支援を定期的に振り返ることが大切です。「いつ、だれが、どこで、どのように支援したか。」「そのときの幼児児童生徒の様子はどうか。」「指導開始時からどのように変容したか。」等について評価します。

- 発達障害等の幼児児童生徒の校内支援体制について、小学校の約8割、幼稚園・中学校の約7割、高等学校の約3割で、定期的に検討が行われています。
- 事例検討会が小学校の9割、中学校の約7割、幼稚園の約5割、高等学校の約4割で実施されています。

#### ⑤ 理解・啓発

個別の指導計画や個別の教育支援計画を見直しなが、指導や支援を改善していくことが大切です。

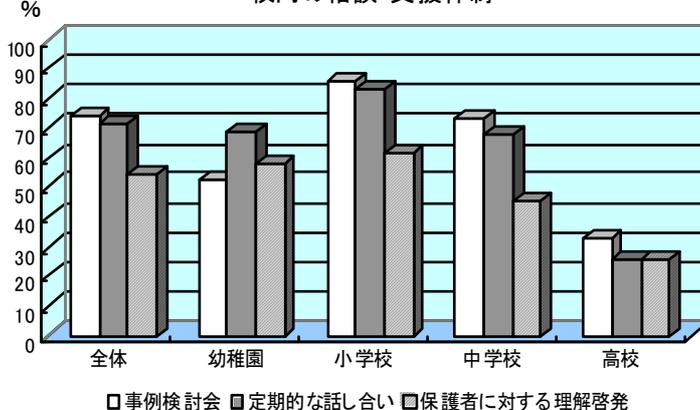
- 小・中・高等学校の全教員、幼稚園の約8割の教員が特別支援教育についての研修を受講しています。
- 必要な情報や研修内容として、「指導方法、指導事例」が最も多くあげられており、次いで「心理検査等の実態把握」、「障害の基礎的知識」が多くあげられています。
- 支援に当たっては、家庭との連携が重要であり、全体の約3割の学校で、保護者に対する理解・啓発のための講演会・研修会等が実施されています。また、学校便りや学校保健委員会を活用した理解・啓発活動も行われています。

#### 〈まとめ〉

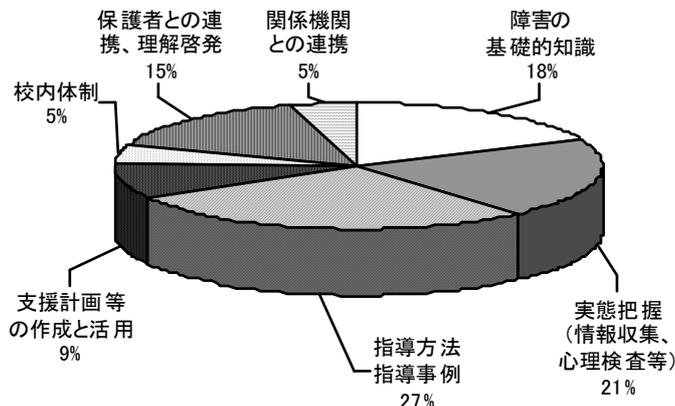
本県では、校内委員会の設置や校内コーディネーターの指名、全教職員が参加する研修の実施等、全ての学校で校内体制はほぼ整備されています。

今後は、個別の教育支援計画の作成と活用によるきめ細かで継続した支援、特別支援学級、通級指導教室、補助員等の活用による学校の実情に応じた柔軟な支援、心理学の専門家やボランティア等の外部人材の参画による校内の支援体制づくりなどを進めることが大切です。

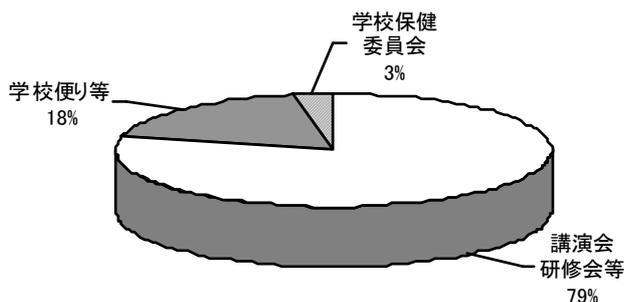
校内の相談・支援体制



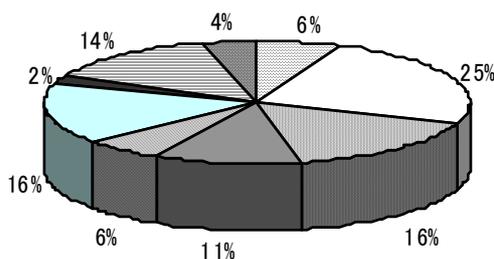
特別支援教育推進に必要な情報や研修内容



保護者に対する理解・啓発の方法



今後の特別支援教育の推進に当たって大切だと思うこと。



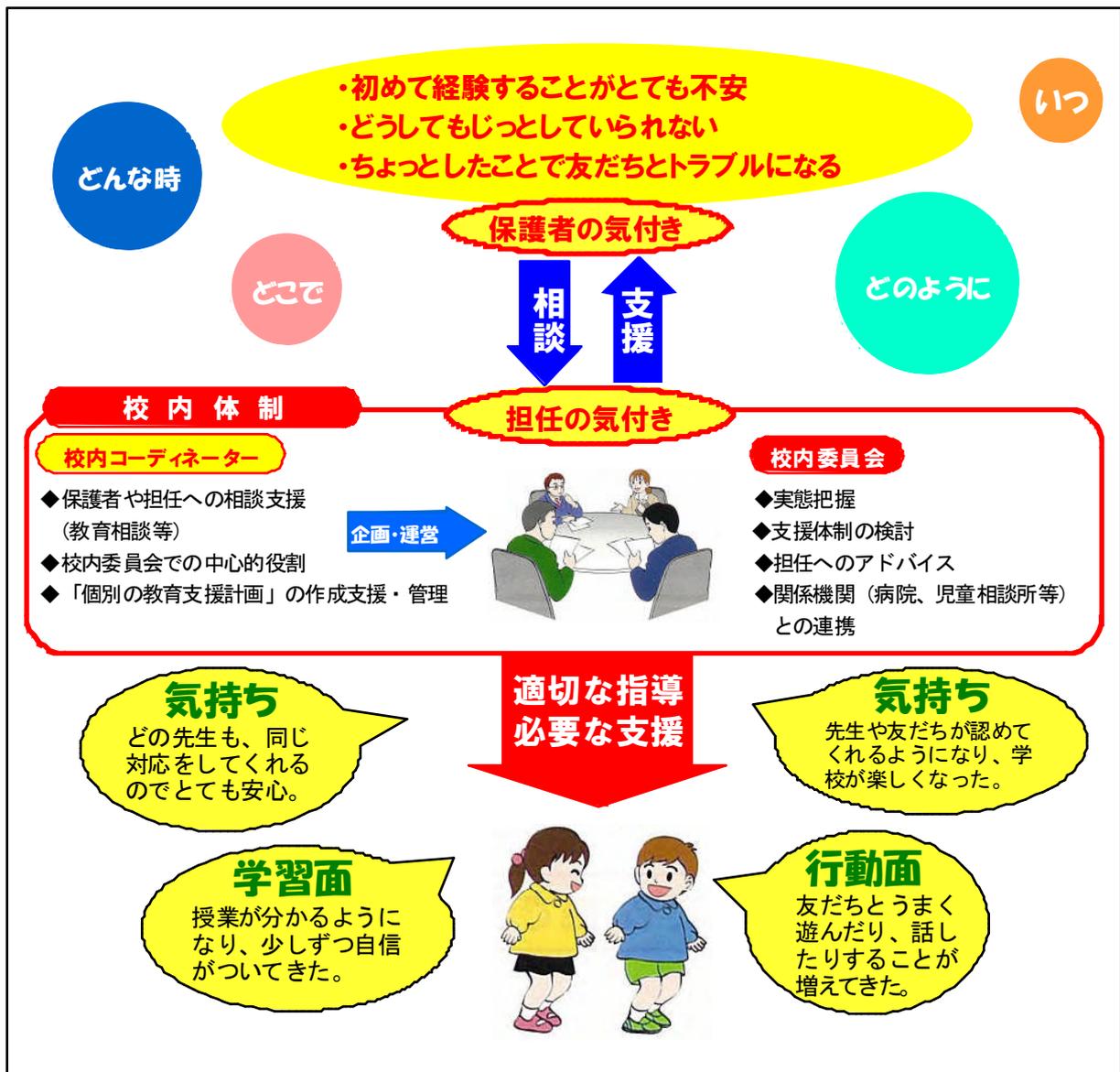
- 校長のリーダーシップ
- 校内支援体制の整備充実
- 教職員の理解啓発
- 個に応じた指導力の向上
- 児童生徒の理解啓発
- 保護者の理解啓発
- 教育委員会との連携
- 専門機関との連携
- 特別支援学校との連携

### Ⅲ 事例検討会の進め方

## 校内における支援の流れ

発達障害は、「発見されにくい」「認められにくい」「理解されにくい」などの特徴があるため、指導や支援が遅れることがあります。また、学習上のつまずきや生活上の問題を本人の努力不足や保護者の養育上の問題として誤解されることもあります。

このため、幼児児童生徒一人ひとりの得意なこと、苦手なことなどの特徴についての保護者や担任の気づきをもとに、実態を的確に把握し、そのもてる力を十分発揮できるように適切な指導及び必要な支援を行うことが重要です。



## 事例検討会(校内)の目的・留意点・実践例

特別な教育的支援を必要としている幼児児童生徒について、実態や課題等を踏まえ、全教職員が支援についての共通理解を図り、全校で支援を進めることが大切です。その際、校内で事例検討会を実施することにより、多面的な幼児児童生徒の理解に基づくきめ細かな支援を行うことができます。

また、学校だけでは対応が困難な場合は、心理学の専門家等が参加して行う場合があります。

### 【事例検討会の目的】

- ・ 幼児児童生徒の多面的な理解
- ・ これまでの支援等についての評価、支援の方針の修正



### 【事例検討会の協議手順】

#### ①事例提示・・・対象幼児児童生徒についての確認

- ・ 学習面、心理・社会面、進路面、健康面についての「いいところ」「気になるところ」
- ・ 現時点での目標、これまでの援助の方針と具体的な対応

#### ②特徴的な行動の背景や支援の検討

#### ③グループ協議

#### ④アイデア・意見の整理と支援に向けての行動計画の作成

- ・ 学習面、言語・運動面、心理・社会面、生活・進路面、健康面、保護者や関係機関との連携等について、「いつ」「誰が誰に対して」「どのような支援を行うか」の決定



### 【事例検討会を進める上での留意点】

#### ◆幼児児童生徒を理解するために

- ・ 幼児児童生徒の学習や行動について、簡単なレポートを作成する。
- ・ 参加者は、事前に、確認したいこと、気になること等をメモしておく。
- ・ 好ましい結果に結びついた支援を参考にして、協力できる事項を考える姿勢で参加する。
- ・ 長所に焦点をあてた幼児児童生徒理解を進める。



#### ◆指導方針の修正

- ・ 幼児児童生徒の示す問題行動等の原因や背景についての仮説を立て、見通しをもつ。
- ・ これまでの支援を振り返り、今後の支援をよりよいものにしていく。

### 【事例検討会で共通理解した事例】

＜授業中の友だちとのトラブル、教室から飛び出した場合の担任としての対応は？＞

- ・ 学級全体を落ち着かせるための指示等
- ・ 当該児童生徒を含め安全の確保
- ・ 課題の提示と自習
- ・ 他教員への援助要請(校内連絡網による管理職への連絡)
- ・ 別室等における関係児童生徒からの状況把握
- ・ 必要に応じて保護者へ連絡



＜他の児童生徒が、「〇〇君だけずるい」といった場合の対応は？＞

- ・ 学年、発達段階に応じて、きちんと説明する。
- ・ 他の児童生徒にどのように話すか等について、保護者との連携を図る。
- ・ 当該児童生徒だけでなく、他の児童生徒へも、同じ気持ちで接していることを話す。
- ・ 言葉だけの説明ではなく、日頃から児童生徒に接する際の教員の姿勢が大切である。

## IV 実践事例

### 【発達障害】

ここでは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校で実践された発達障害の幼児児童生徒への支援の事例を紹介しています。

発達障害とは、特定の障害を指すものではなく、「学習障害」、「注意欠陥多動性障害」、「高機能自閉症」、「アスペルガー症候群」等の総称です。

発達障害は、一人ひとりの発達段階や障害の程度等の実態は多様で、それまでの育ちや環境等によっても、成長の過程は異なり、二次的に引き起こされた問題の表れ方も様々です。

したがって、支援を行う場合も、同じ方法が役立つこともあれば、うまくいかないこともあります。

詳しくは、「支援をつなぐ」(H19. 3山口県教委)を参照してください。

また、発達障害は比較的新しい概念であり、これまでに指導方法、内容の十分な蓄積がありません。今後、各学校では、事例を蓄積していくことが大切であり、校内委員会等で、ここで紹介している事例を参考にしながら、どのように支援するのか検討を進めてください。

その際、「Ⅲ 事例検討会の進め方」(P7)を参考にしてください。

### 【校内体制の機能】

本県のすべての小・中・高等学校では、校内委員会の設置、校内コーディネーターの指名等の校内の支援体制が整備されていますので、今後は、この体制がうまく機能して、実効性のあるものとする必要があります。

そのためにも、事例検討は重要であり、事例を蓄積していくことで、全教員が、発達障害、具体的な指導や支援の在り方、保護者や関係機関との連携等への理解を深めることにつながります。

### 【専門的な助言】

全校体制で支援を行う必要がある場合、校長、教頭、担任、特別支援学級担任、養護教諭等で構成される校内委員会を開催し、校内コーディネーターを中心に協議を進め、指導や支援の方針、支援体制等を決めます。

しかしながら、児童生徒が示す行動の原因が理解できない、医療、福祉等の関係機関との連携が必要かもしれない等の困難な事例では、専門家からの助言・援助が必要になることもあります。

その際、必要に応じて、小・中学校に設置されているサブセンターや県内7校の総合支援学校に設置されている特別支援教育センターに依頼し、地域コーディネーター等の協力を求めることもできます。

また、専門家の助言が必要な場合は、心理学の専門家、理学療法士等で構成される専門家チームに相談することもできます。

# 1 幼稚園

## (1) 集団での活動が苦手な幼児

### 〔要約〕

活動への見通しがもちにくく、集団での活動が苦手な幼児が在籍する学級における授業研究をとおした支援の事例である。その日の活動の流れをカード化することにより、スムーズに次の活動に移ることができるようになってきた。また、一日の生活の流れが日頃と異なる場合、見通しがもてるように、事前に、絵や写真を使って、繰り返し説明したことが効果的だった。

### ア 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



- ・朝の支度や降園準備など、決められたやり方や手順を守ることが難しいが、一度理解した手順は確実にこなそうとする。
- ・運動会や学芸会、遠足等、日常生活とは異なる行事への参加を苦手とする。
- ・集団生活の場面で、突然歩き回ったり外に出ようとすることが多い。
- ・手遊びや歌遊び等、興味関心があることには集中して取り組むことができる。
- ・ラジカセの操作が大好きで、気に入った音楽を聞くことに集中するが、ラジカセをなかなか手元から離すことができない。

### イ 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

- ・一つの活動が長時間にならないように、短いサイクルで取り組ませる。
- ・活動をスモールステップに分け、一つひとつ確実に達成できるように支援する。
- ・活動に入る前には、あらかじめよく説明をする。説明の時は絵カードや写真等を利用して注意を促す。
- ・日々の生活の中でいくつかの約束事を決めておき、繰り返し確実に実行させるようにする。

### ウ 保育実践

○活動名 ダンス「ゼッコウチョー」

○活動のねらい 曲に合わせて体を動かす活動を楽しむことをとおして、意欲的に伸び伸びと踊ることができる。

○活動の流れ（概略）

時刻	活動	教師の援助	A児に対する援助
9:00	○登園する。	○一人ひとりの表情を見ながら、明るく、笑顔で出迎える。 ○身支度ができていなかったり、とまどっていたりする場合は声をかけ、一緒に身支度をする。 ○身支度が終わった者からトイレに行ってから席に着くように伝え、全員がそろったら、本日の活動を話す。	○身支度の流れをカード化し、ひとつずつ確認をしながら、自分でできることはさせるようにする。 ○別の保育室で、補助教員とダンスのビデオを見たり、フープで遊んだりすることで、運動会に向けての抵抗感を少なくしていく。
10:00	○園庭に出る。	○踊る場所を知らせ、自由に踊るように伝えるとともに、教師が楽しく踊ってみせる。	○補助教員と一緒にみんなの中に入り、活動の説明にあわせてダンスの静止画を見せて注意を促す。

	○ダンスを踊る。	○意欲をもって伸び伸びと踊ることができるよう以下の援助を行う。 ・1回ごとに踊りを終えて区切りをつける。 ・体の動かし方、動きの大きさ、表情等、がんばったこと、できたことをしっかりと称賛する。 ・個別に励ましたり、アドバイスしたりしてから、2回目の踊りを開始する。	○補助教員とテラスに出る。 ○本児が他の園児の動きを見て体を動かし始めたら、補助教員は、しっかりと称賛し、みんなのところに行くように誘う。 ○集団に入ることを強く拒む場合は、テラスで補助教員と踊る。 ○カセットデッキのそばに行きたがることが予想されるので、テラスに出たときに次のことを約束しておき、守れたらしっかりと称賛する。 ・曲が2回終わったらカセットデッキのところに行ってもよい。 ・カセットデッキには触らず、音楽を聴くだけにする。
10:30	○休息をとる。	○練習後は年長の練習を見たり、好きな遊びをしたりして過ごさせる。	
11:00	○降園準備をする。	○身支度が終わった者から席に着くように伝える。 ○手遊びや歌遊びをしながら、全員がそろそろまで待たせる。	○カードを利用して、身支度が終わったら大好きな手遊びや歌遊びに参加できることを伝え、見通しをもたせる。 ○そばにいる補助教員は、手遊びや歌遊びのリストを適宜見せる（順番を確認する）ことで、活動の終わりを意識させ、次の活動（絵本）へスムーズに移ることができるようにする。
	○絵本を見る。	○全員がそろったら、リクエストの多い絵本を一度読み聞かせ、終わりのあいさつをする。	○絵本の読み聞かせに参加することが難しい場合は、別の保育室で、補助教員とダンスのビデオを見たり、今日がんばったことを振り返ったりする。
11:30	○降園する。	○本日の活動を一緒に振り返り、楽しかったことを話し、一人ひとりを笑顔で見送る。	○がんばったこと等を保護者に伝えて見送る。

## エ 保育後の協議



### <保育者の自評>

- ◇登降園時の一定の決まった流れを細分化し、カードにして示したことで、本児にも何をすべきかが分かりやすいため、園での生活をスムーズにスタートすることができた。
- ◇登園してすぐに集団の中に入らずに、本児の落ち着く場所で、ビデオで活動の予告を行ったり、フープを使って遊んだりすることで、集団に対する抵抗感を軽減することができた。
- ◇本児のペースを尊重し、体を動かすたびに称賛することで、称賛を期待して体を動かしたり、教員の動きを模倣したりしようとするなど、踊ることに興味を示すことができた。
- ◆集団の中で踊ることには抵抗があったようなので、最後までテラスの近くで活動をするようになったが、本児の様子を見て教員と一緒に集団の中に入り、難しいようであれば再び少し離れる等、集団での活動をもう少し試みてもよかった。
- ◆すぐ目の前に大好きなラジカセがあったため、本児が落ち着かず、ラジカセを使うときの約束事を十分に説明することができなかった。場の設定や事前の指導について検討する必要がある。

### <支援内容・方法の検討の概要>

- ◇カードの利用にも慣れ、次に自分がすべきことを予測しながら身支度をしている様子うかがえた。学級全体でも使うなど、カードを今後も効果的に活用するとよい。
- ◇本児が落ち着く場所で、好きな人と過ごす活動を一日の最初に設定することで、安心して取り組むことができていた。踊っているときに、みんなの方を何度か見ていたが、集団での活動に誘うチャンスであったように思う。担任と補助教員との事前打ち合わせの中で、本児にチャレンジさせたい場面を明確にしておくとい。
- ◆大好きな手遊びや歌遊びを活動の終わりに設定することで、本児は最後まで楽しく取り組んでいた。集団への参加を促すのであれば、絵本の読み聞かせの後に教員と園児、あるいは園児同士による手遊びや歌遊びを行うことも効果的であると思う。
- ◆降園前の振り返り活動で、本児ががんばったことを全員の前で紹介するようにしてはどうだろうか。その積み重ねが他の幼児が本児を理解していく一助となる。
- ◆ラジカセの操作にこだわる傾向があるが、それを生かして、約束を3回守ったら5分間自由にラジカセを操作できるなど、自分が「何をどれだけがんばったら、〇〇をすることができる」というルールをつくっていくとよい。



## オ フォローアップ

### <支援の内容・方法の工夫>

#### ①カードの活用

- ・登降園の準備だけでなく、他の活動の際にも、その流れや内容をカード化したり図式化したりするなどして、視覚的に分かりやすい形で示すことにより、見通しをもって活動できるようにし、積極的に学習に取り組むことができるようにする。
- ・登降園の準備の際利用しているカードについては、自分でどのカードの内容を行うか、あるいはどのような順番で行うかなどを自己選択させる場面を増やしていくことを検討する。

#### ②集団活動の工夫

- ・大好きな手遊びや歌遊びだけでなく、さまざまな活動において仲の良い園児とペアを組んだり、小集団を編成したりするなどして園児相互のかかわりあいの機会を設定する。
- ・ラジカセやビデオの操作など、集団の中で役割をもたせることで、集団の中での自己存在感や有用感を育てるようにする。また、担任は毎時間必ず本児を称賛するよう心がける。

### <幼児の状況>

- ▽本児は、毎日繰り返される活動について、自信をもって自分から取り組む様子が見られるようになった。現在は保護者の協力を得て、絵や写真を利用した予定の把握やチェックリストの活用を始めている。
- ▽行事等への参加は、事前の十分な説明と、個別の支援を必要とするが、体をよく動かすようなやり取り遊びを日頃の生活の中で継続することにより、教員がタイミングよく促せば、集団での遊びに参加できるようになってきている。



## (2) 休み時間や遊びの場面でトラブルの多い幼児

### 〔要約〕

友達と一緒に遊ぶことが難しい、自己主張が強い、友達とけんかになりやすいなど、対人関係に課題のある幼児が在籍するクラスにおける支援の事例である。担任が誘って集団での活動の楽しさを体験できるようにするとともに、協力して準備や片付けをする活動の経験により、友達に誘われて一緒に遊ぶ場面も見られるようになってきた。担任が友達との仲立ちをし、一緒に遊びたい気持ちを伝える言葉を身に付けるように支援したことが効果的だった。

### ア 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



- ・友達と一緒に遊ぶことが少なく、みんなの横で一人で本を読んだりパズルで遊んだりする。
- ・担任の促しがあれば、集団に入ろうとすることができる。
- ・ジャンケンの勝ち負けなど、ゲームのルールを理解することができる。
- ・他の園児の道具やおもちゃを取り上げたり、取り返そうとした園児に大きな声を出したり、突き飛ばしたりすることがある。
- ・言い出したら聞かない面があり、担任や友達に注意を受けることで、さらに興奮してしまうことがある。

### イ 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

- ・担任が遊びに誘って楽しさを実体験できるようにする。
- ・役割や順番を守り、簡単なルールが理解できるような活動を意図的に取り上げるようにする。
- ・注意や指示は担任が行うことを学級全体に徹底することで、園児同士のトラブルを起こさせないようにする。
- ・トラブルが起こったら、落ち着いてから行動を振り返る機会を設ける。その際にはTTで対応し、いきなり叱咤激励せず、本児の気持ちに共感しながら接することを共通理解しておく。

### ウ 保育実践

○テーマ 「豊かな秋、楽しい秋～動物園をつくろう～」

○保育計画

ね ら い	主 な 内 容
○身近な動植物に関心をもつことができる。	・楽しかった動物園での思い出を振り返り、何が一番楽しかったのかを一人ひとりが発表しながら、動物の種類や名前を思い出す。
○動物園での体験をもとにイメージや言葉を豊かにすることができる。	・自分が描きたい動物をパスかコンテを選び、画用紙に伸び伸びと描く。
○感じたこと、考えたことなどを自由に描いたり作ったりすることができる。	・動物園の動物や建物、オリ、木などを紙粘土で自由につくる。
○自分の考えたことや思ったこと、気付いたことを友達や担任に伝えようとするとともに、相手の思っていることに気付くことができる。	・自分が作った絵や紙粘土に着色する。 ・動物園の回りにはる旗をマーカーで描く。 ・協力して大判用紙に着色し、動物園の土台をつくる。
○動物園を作る過程で、想像する楽しさを味わうとともに、友達と一緒に作業を進める楽しさを知ることができる。	・自由に切ったりはったりした折り紙を動物に見立て、必要な部分を描き加える。 ・友達の折り紙を見て、何に見えるか話し合う。 ・着色された土台の上に、動物の絵、紙粘土、折り紙を友達と協力してレイアウトした後、旗をはりつけて自分たちの動物園を完成させる。

※本計画に関連して、動物が主人公の絵本や歌を取り上げる。

本：「月のうさぎ」「くいしんぼねずみチョコとガリ」「十二支のはなし」

歌：「森の熊さん」「どんぐりころころ」「ぞうさん」「空にらくがきかきたいな」

※本計画後、学芸会の劇「十二支のはなし」に取組み、自分も持っている動物のイメージを動きや言葉などで表現し、演じて遊ぶ楽しさを味わう活動につなげていく。

○本時のねらい 自分が描きたい動物を伸び伸びと描くことをとおして、動物に対するイメージや言葉を豊かにすることができる。

○活動の流れ（概略）

時刻	活動	教師の援助・配慮事項	A児に対する援助・配慮事項
9:00	○登園する。	○体調のすぐれない幼児はいないか、一人ひとりの表情や動きをしっかりと見る。 ○全員のトイレと身支度が終わったことを確認し、本日の活動内容を伝える。 ○各園児が前時まで発表した、印象に残っている動物の絵カードと単語カードを提示しながら園児と会話するとともに、各自が描く動物を確認させる。	○あいさつの際に、恥ずかしがって素通りすることが多いので、周辺の園児も含めて「あいさつをするとかっこいい」「先生は楽しみにしているよ」等と語りかけ、あいさつを促す。 ○前時に本児が語った動物の絵カードをもう1枚用意して、補助教員がそばで本時の活動を確認する。また、おもちゃの時計を使って何時まで描くのか伝える。
10:00	○絵を描く。	○パスとコンテで描いた動物の絵を見せ、どちらの道具で描いてみたいか問いかける。 ○園児が自由に選べるように、絵の具や画用紙をいくつか用意する。 ○パス組とコンテ組に分かれて、自由に絵を描かせる。 ・パス組→コンテ組の順番で描かせる。 ・待っている間は折り紙を使った自由な活動をさせる。 ○描くことが苦手な幼児には、次の援助をすることにより、活動への参加を促す。 ・図鑑や絵カードを見本に描かせる。 ・図鑑や絵カードを見せたり、動物園での思い出を聞いたりしながら、その動物の特徴的な部分を描かせる。その他の部分は必要に応じて、教員が描き足すようにする。	○本児が選んだ道具の組から始め後半の自由な折り紙遊びまで集中を途切れさせないようにする。 ○補助教員と一緒に、描く部分を確認しながら描くようにする。 ・「お顔大きかったね」「耳はどこにあったかな」「他には何があるの」等と問いかける。 ・周囲の園児が描き足していくものを模倣して描かせる。 ・本児と補助教員が交互に部分を描くようにすることで、やり取りを試みる。 ○折り紙を大量にとるので、折り紙が1枚置ける大きさの盆に、1枚置いてから自分の席にもっていくようにさせる。 ○補助教員は何を折っているのか聞いたり、丁寧に折れている部分を見つけて隣の友達に紹介したりして友達との仲立ちをする。 ○他の園児の道具や折り紙を取り上げようとするなど、トラブルが生じたときには、集団から少し離れた場所に連れて行き、何がしたかったのか尋ね、したかったことをするにはどうしたらよいかを教える。
11:00	○絵を見ながら、動物の名前や特徴を話し合う。	○時間がきたら描く活動を終え、全員の作品を並べて、うまく描けている作品を紹介したり、がんばっていた部分を称賛したりする。 ○時間内に描くことができない場合は、食後の時間や自由遊びの時間に描く機会を設定する。	○本児の描いた作品を取り上げ、がんばったことや発見したことなどを必ず紹介するようにする。
11:30	○降園の準備をする。	○身支度が終わった者から席に着くように伝える。 ○絵本の読み聞かせをしながら、全員がそろそろまで待たせる。	○他の園児とトラブルがあったときには、全員がそろそろ前に、周囲とうまくやっていくための行動を具体的に示す。 ・「～したかったから」「～してごめんね」等を友達に伝える。
11:45	○降園する。	○本日の活動を振り返り、楽しかったこと、がんばったことを話し、一人ひとりを笑顔で見送る。	○一日の様子を保護者に伝えて、引き継ぐ。

## エ 保育後の協議



### <授業者の自評>

- ◇園児たちの思い出を事前に把握しておいたため、一人ひとりの園児の思いを言葉で確認（やり取り）しながら描く活動を進めることができ、園児たちは表現し、伝えることの喜びを味わうことができた。
- ◇園児を2グループに分け、時間差で描く活動を一度に行おうとしたが、描きたい動物や思いがバラバラで、時間を要した。また、待ち時間をもてあましてしまう園児もいた。
- ◆補助教員が、本児と交互に動物の部分を描き、一緒に描いていくことで、作品を仕上げることができたが、本児が一人で続けて描こうとしたときに、その動きを中断してしまうことがあった。一人でできたという達成感を味わわせるためには、本児の様子を見て柔軟に対応する必要がある。
- ◆折り紙を使った活動のとき、補助教員が本児と周辺の園児の様子を見守りながら、折っている動物や折り方、動物に対するイメージ等を話題にして間に入ることで、友達とかかわる機会を得ることができた。
- ◆本児が他の園児とトラブルを起こしたときに、補助教員が対応し、その思いに共感しながら対応するように努めたが、すぐに謝ることができなかった。

### <支援内容・方法の検討の概要>

- ◇トラブルが起こったときに、落ち着いた状況で本児の話を聞こうとしたことはよかった。相手の幼児の話もよく聞き、それを伝えるようにして、一人ひとりの園児が納得できるように声かけをするようにすれば、他の幼児が本児のことを理解することにつながる。
- ◇図鑑などを用意したことは、幼児の関心を深めるには有効であった。また、絵や折り紙の制作過程で、園児の小さながんばりを見逃さないようにし、励ましや手助けをすることは大切である。
- ◆本時のように、補助教員と一対一でやり取りをしながら活動に取り組むことが定着してきたら、本児の好きな活動を通して、友達とのかかわりがより多く生まれるようにしてみてもどうか。
- ◆描くことがあまり好きではなかったり、集団に入ることが難しかったりする本児のような場合、担任は本児が気付いたことに共感したり、本児なりの表現を認めたりする等、本児の気持ちを大切にされた対応をするとともに、それを他の園児の前でしっかりと伝え、認めることで、意欲的・主体的な活動につなげるようにする。



## オ フォローアップ

### <支援の内容・方法の工夫>

#### ①活動に集中させる工夫

- ・興味あるものとそうでないものの課題を交互に準備し、本児に自信をもたせるとともに、自分のやりたい活動を選ぶ機会を適宜設定し、園での1日の生活に意欲的に取り組ませる。
- ・担任が、本児の言葉をつないで文章にし、それを本児に言葉で返す形で自分の思いを確認させながら、安心して活動に取り組めるようにする。

#### ②集団への参加の工夫

- ・本児の好きなパズルを取り入れ、園児が互いのやり方を模倣したり、完成までの時間やパズルの難易度（ピース数）等の目標を設定して、繰り返し挑戦したりする等の工夫により、園児同士のかかわり合いのある活動を設定するとともに、遊びを発展させていくように援助する。
- ・無理に誘われることがストレスになる場合もあるので、支援の中で一人でくつろいでもよい場面があることを教員が理解するとともに、他の園児も認めるようにして情緒の安定を図る場を確保する。

### <幼児の状況>

- ▽本児は、周囲の状況の理解がよいので、見通しをもつことで、決まった時間に自分の席に座っていられるようになった。
- ▽誘われて一緒に遊ぶ場面が見られるようになったが、自分の主張を押し通そうとするため、小さなトラブルはなくなっておらず、物を投げたり大きな声を出したりすることもある。引き続き、本児だけでなくすべての園児の話をよく聞くように心がけている。



### (3) 課題に集中することが難しい幼児

#### 〔要約〕

課題に集中することが難しい2人の幼児が在籍するクラスにおける支援の事例である。取り組ませようとする課題を細分化して、一つひとつ確認しながら進めることによって、指示に従って取り組むことができるようになってきた。また、目の前の課題に安心して取り組ませるために、園でのその日の生活全体に対する見通しをもたせるようにしたことが効果的であった。

#### ア 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



A児	B児
<ul style="list-style-type: none"> <li>作業手順等をやってみせると理解できるが、自ら取り組もうとすることは少なく、声かけや手を添える等のきっかけが必要である。</li> <li>一つのことが気になり始めると、そのことからなかなか離れられない。</li> <li>大人に甘えることが多く、すぐに「できない」等と援助を求めたり、口答えになったりすることが多い。</li> <li>自分の好きなことや決まったやり方をなかなか変えられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉に説明や指示をしているときにまったく聞いてなかったり、別のことを始めたりする。</li> <li>何かをやろうとすると、周囲の状況に関係なく、すぐ行動に移してしまう。</li> <li>教員が丁寧に、細かく説明したり教えたりしようとする、故意に違うことを始めたり、腹をたてたりする。</li> <li>思いどおりにならないと大声を出すので、友達が遊びたがらない。</li> </ul>

#### イ 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

A児	B児
<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいことや経験のないことに不安を感じるので、ルールや手順などを分かりやすく教える。</li> <li>できることを増やしたり興味関心を広げたりすることでこだわりを減らすようにする。</li> <li>視覚的に予定をはっきり知らせておくとともに、変更は早めに知らせる。また、活動の終了もはっきりさせておく。</li> <li>友達の気持ちやその場の状況などを分かりやすく説明するが、指示の言葉はできるだけ短くして、他の話題（気になること）に移らないよう心がける。</li> <li>まず注意を引いて、その上で指示を与えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スモールステップで達成可能な目標を設定し、「できた」「やった」と思える経験を重ねる。</li> <li>指示通りに行動できたときは称賛し、意識して聞いていればしっかり行動できることを実感させる。</li> <li>教えることや指示の内容は、一度に一つとするように気をつけるとともに、一つの指示による行動ができてから次の指示を出す。</li> <li>復唱により指示の理解を確認する。</li> <li>大事なことは絵や文字で表し、視覚に訴えるようにする。</li> <li>「～をしたら、～をする」と約束事を決める。できたらしっかり称賛する。</li> </ul>

#### ウ 保育実践

- テーマ 「お楽しみ会を盛りあげよう～飾りつけを楽しもう～」
- 本時のねらい 折り紙やマーカーでサンタの顔を飾りつけることをとおして、サンタに対するイメージや自分が感じたことなどを自由に表現することができる。
- 活動の流れ（概略）

時刻	活動	教師の援助・配慮事項	A・B児に対する援助・配慮事項
9:00	○登園する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○元気にあいさつを交わしながら、一人ひとりの動きや表情を見て健康状態を確認する。</li> <li>○当番に仕事をしよう声をかける。</li> </ul>	○一日の流れをホワイトボードに書いておき、全体に説明するとともに、不安に感じている場合には個別に声をかけ、説明する。

9:30	○好きな遊びをする。	<p>○大太鼓、長縄、ドッジボール等を出しておき、園児に選択させる。また、友達を誘って遊ぶように伝える。</p> <p>○大太鼓については、事前に流しておいた音楽に合わせて自由に叩かせるようにして、興味をもって活動できるようにする。</p>	<p>○A児には、自由遊びの間に、「いつ」「何を」「誰と」するかを書いた小さなホワイトボードを使って、前日に伝えた内容の再確認と予定の変更点の確認をする。</p> <p>○A・B児と一緒に遊ぶ園児を事前に決めておき、関係する園児に伝えておく（依頼しておく）。</p> <p>○一緒に遊んだ友達とそのままサンタづくりの作業に入るように声をかける。</p>
10:00	○サンタの顔を描く。	<p>○サンタのつくり方を教師が全員の前で実演しながら説明する。</p> <p>○サンタの材料（紙コップと折り紙）を園児に渡す。</p> <p>○はじめに顔の部分をはってから帽子、目、ヒゲをつけるようにする。</p> <p>○教師はかかわりすぎないようにして、自由な表現を引き出すことを基本とする。</p> <p>○折り紙をはることが難しい園児にはマーカーを使わせる。</p> <p>○作業への取りかかりが難しい園児には、他の園児の作品を例示したり、次のように声をかけたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンタはどんな顔をしているかな。</li> <li>・サンタを家の人に見せてあげよう。</li> <li>・プレゼントをもってきてもらえるよ。</li> </ul> <p>○のりをつける場所を知らせて、帽子をつけるようにする。</p> <p>○作業が終わった園児から片付けをさせる。</p>	<p>○B児には、作業の手順をカードにしておき、一つの作業が終わるごとにしっかりと称賛し、次のカードを提示する。</p> <p>○作業の手順ごとの見本を用意しておき、作業の経過や結果をイメージさせる。</p> <p>○はさみ、のり、マーカーなど、手順ごとに使う道具だけを机の上に並べることで、作業に集中させる。</p> <p>○教師の意図とは異なる作業を行っても、すぐに否定せず、サンタづくりにつなげていく。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帽子に顔を描いた。 →顔付きの帽子ができたね。</li> <li>・帽子をはさみで切った。 →寒いから、ふさいであげよう。</li> </ul> <p>○のりをつける場所に印をつけておく。</p> <p>○一つの手順が終わるごとにカードにチェックを入れて、作業の進み具合と終了を明確にさせる。</p>
10:40	○おやつを食べる。	<p>○くじでペアになった園児が並んで座るように伝え、迷っている幼児には座る場所を指示する。</p> <p>○牛乳を飲むように伝える。</p>	<p>○A児は、誰と座るかが分かっていると、登園時から落ち着かないので、ローテーションに従ってペアを決めておく。</p>
11:30	○降園する。	<p>○今日のがんばりを称賛するとともに、つくったサンタで教室を飾りつけることを伝え、翌日以降の活動に期待感をもたせる。</p> <p>○荷物を忘れないようにもって帰るように声をかける。</p>	<p>○A児には、次の日の予定を確認しながらホワイトボードに書き込んでいくことで、安心して登園するように伝える。</p> <p>○B児には、今日がんばった作業とその手順を振り返ることで、達成感を味わわせる。</p>

## エ 保育後の協議



### <保育者の自評>

- ◇小さなホワイトボードやカードを使って、活動の予定や進捗状況、活動の終了を確認しながら進めたため、いつもより落ち着いて取り組むことができた。
- ◇自由遊びの時間や作業の合間を利用して個別に対応することで、園児は自分の思いや考えを聞いてもらったり、一つひとつの活動に納得して取り組めたりしたので、課題に集中することができた。しかし、丁寧な支援のために時間を要し、全体としての活動が遅れたり、待ち時間ができてとまどっている園児が出てきたりした。
- ◆サンタを早く作りたいという気持ちが強く、他の園児に材料を配っている間に、教師の説明を聞かずに作業を始めてしまう園児もいた。材料を配り終えてから道具を配ったり、待つことができる園児から配ったりするなど、配る物や園児の順番を工夫すればよかった。
- ◆サンタの顔をつくる活動では、折り紙だけでなく、マーカーという選択肢を設定したことで、折り紙が苦手な園児もしっかりと活動することができた。また、マーカーは時間短縮の点でも効果的だった。

### <支援内容・方法の検討の概要>

- ◇課題に集中することが難しい園児に対して、少し離れた場所に移動して、まず教師への注意を向けさせてから、その上で指示を与えたことは効果的な対応だった。
- ◇できるだけ丁寧に園児の話をお聞きしたり、説明したりしながら進めたことで、園児は安心して取り組んでいた。時間的な面も考慮すれば、補助教員との事前の打合せができるとうい。
- ◇他のことをしたがつている園児に、「サンタの目を描いたらね。」「ヒゲをつけたらね。」と指示した担任に対して、「あー言えばこう言う。」と答えていた。これは、担任とのかかわりをもっと求めているためか、指示が多すぎることに原因があるのかもしれない。
- ◆指示を細かくすることは大切だが、自由に活動させる場面や園児同士のかかわり合いを大切にすることも必要である。
- ◆ホワイトボードによる予定の確認や、カードによる手順の説明及び進捗状況のチェックは全体に対しても有効だと考えられる。その上で、ミニホワイトボード等、個別用のものを準備するとよいのではないかと。そうすれば、特定の園児がいつも最初から特別の支援を受けているというイメージが軽減されるというメリットも生まれる。



## オ フォローアップ

### <支援の内容・方法の工夫>

#### ①活動に集中させる工夫

- ・活動の内容や手順を絵カードや写真等で分かりやすく伝える。同時に、言葉による指示は、具体的で一度に一つにするなど必要最小限にとどめ、園児が混乱しないようにする。
- ・話をしっかり聞き、励ますことを基本とするが、興奮したり拒否的な態度が強くなったりしたときは、あえて働きかけないで、少し離れた場所に移動し、落ち着かせるようにする。

#### ②教材等の工夫

- ・作る物や材料、作る手順や利用する道具を複数用意し、本児に選択させたり、進み具合に応じて有効な選択肢を提案したりする等して、「できた」「やった」という実感をもたせる。

#### ③教師の役割分担

- ・指示に従って活動する場面と自由に活動する場面とを組合せながらめりはりをつけるとともに、本児のエネルギーを発散させる場を確保する。また、教員間の事前の打合せにより、担任と補助教員が個別に支援する場面と支援の内容を明確にしておく。

### <幼児の状況>

- ▽A児は、作業内容や手順の理解はスムーズなので、一つ一つの活動内容と見通しを伝えながら進めることで、作業中に他の話題を話すことは減ってきている。最近では指示の復唱により、自分のことを確認するとともに、活動が終わる度に、担任と一緒に自己評価を行っている。
- ▽B児は、指示どおりにできたときの称賛を求めて、課題に集中して取り組むことができる場面が増えてきた。「～してから、～する」というルールを本児の様子を見ながら整理し、日々の保育活動全体を通して守らせるようにしている。



**\* 解説**

これまでに取り上げた3事例では、臨床心理士や地域コーディネーター等の専門家を招へいたの事例検討が行われ、高機能自閉症、アスペルガー症候群、ADHD等の発達障害を念頭においた助言がなされました。園での日頃の様子から、担任は何らかの「気づき」をもっていますが、保護者は、障害を受容できていないケースです。

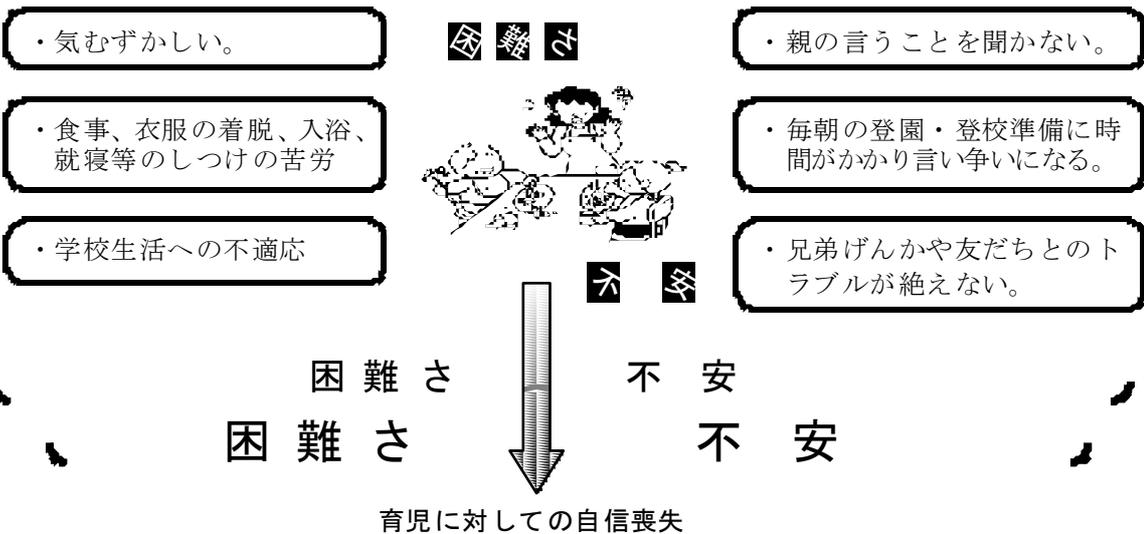
そのため、専門家からは、園生活でいかに支援していくかという助言とともに、保護者との信頼関係を大切にしながら、保護者が我が子の状況があるがままに受け入れ、医療機関等への相談につなげていくための支援を受けました。

保護者が、我が子の障害を受容していく過程を下図にまとめています。



保護者は育児に関する困難さや不安を感じています。子どもの支援に当たっては、家庭と学校がそれぞれの役割を果たすとともに相互の連携が大切です。

- ◆ 育児に対しての困難さや不安が積み重なると、「愛情不足」、「親失格」ではないかと感じるようになり、育児放棄の状況に陥ったり、逆に強く子どもに当たり、そのことが虐待につながる場合もあると指摘されることもあります。

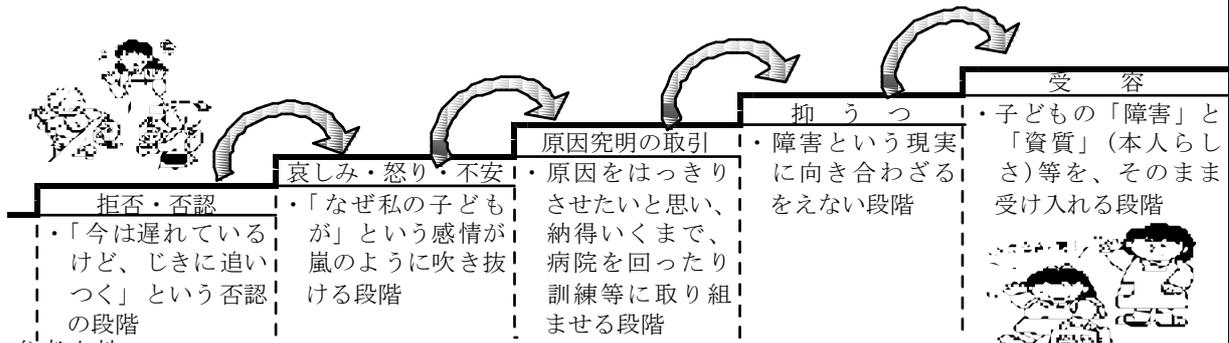


育児における困難さや不安、子どもの不登校等の不適應行動の背景には、発達障害が潜んでいる場合があると指摘されることもあります。

このため、早期発見が早期支援に結び付くように、相談・支援体制を構築することが大切です。

**【保護者の障害の受容】**

保護者が、我が子の障害を受け止めるまでに、ドローター (Drotar, D) は、次のような段階を必要とするとしています。保護者の思いは、これらの段階を行きつ戻りつする場合があります。



\* 参考文献

「わかってほしい気になる子 - 自閉症・ADHDなどと向き合う保育 -」 田中康雄著 学習研究社 2004年

## 2 小学校

### (1) 書くことが苦手な児童<3年生>

#### 〔要約〕

書くことが苦手な4人の児童が在籍する通常の学級における国語の授業研究をとおした支援の事例である。漢字の成り立ち等を調べながら「漢字ブック」作りを行うことにより、漢字に興味をもって学習することができるようになってきた。特に、書くことに対する負担の軽減や学習への見通しをもたせるためにワークシートを活用したことが効果的だった。

#### 1 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



A 児	B 児	C 児	D 児
<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心があることには集中して取り組むことができるが、継続して取り組むことが難しい。</li> <li>・聞いていないように聞いていることが多い。</li> <li>・話すことは積極的にできるが、書くことは苦手で消極的になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補足説明をして、課題が理解できると、自分なりの考えをもって、発表することができる。</li> <li>・気持ちが乗っている時は集中して学習に取り組むが、それを持続することが難しい。</li> <li>・書くことが苦手で、板書をノートにまとめることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気が散りやすく、学習中でも突然席を離れ、教師の注意も聞き入れにくい。</li> <li>・表現する意欲は高いが、気持ちや考えを表す語彙が少ない。</li> <li>・課題が理解できたときは、積極的に発表したり、ノートに自分の考えをまとめることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙が少なく、漢字の読み書きが十分できない。</li> <li>・課題を理解することが難しいが、例を示すなど、手がかりが得られると、自分で学習に取り組むことができる。</li> <li>・自分の考えを表現することが苦手である。</li> </ul>

#### 2 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

A 児	B 児	C 児	D 児
<ul style="list-style-type: none"> <li>・机上には、必要最低限の物を出すようにさせたり、声かけをして注意を喚起したりする。</li> <li>・きちんと話を聞けたり、一文でも書けたりしたときは、その場ですぐに称賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前向きに学習に取り組む様子が見えたときは、その機会を逃さず称賛する。</li> <li>・課題が十分理解できずに戸惑っている様子が見られたときは、何をすればよいのかを具体的に指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を設定した後、解決の見通しがもてたかどうかを必ず確認するようにし、自信をもって学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>・指示は具体的に行うように留意する。</li> <li>・漢字等の補充指導を放課後、個別に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話をしながら、理解できていることと理解できていないことを確認し、理解できていない場合は、例をあげて説明したり、ヒントを示したりする。</li> <li>・語彙を増やしたり、漢字練習をしたりする補充指導を放課後個別に行う。</li> </ul>

#### 3 授業実践

○教科及び単元名 第3学年 国語「言葉っておもしろいな『漢字と友だち』」 第7/12時

○単元計画

次	時	主な学習活動	評価規準
一	2	・漢字に込められた昔の人の知恵を知り、図書室等で漢字の成り立ちを調べる。	・漢字の成り立ちに関心を持ち、漢字の成り立ちを調べている。
二	3	・「漢字たんじょう物語」、「漢字の書き方歌」、「大発明、おもしろ漢字たんじょう物語」を作って紹介する。	・漢字の成り立ちに沿った「漢字たんじょう物語」、漢字の筆順を追った歌、漢字の組合せによる新しい漢字のたんじょう物語を作り、紹介している。
三	7 本時 第2時	・低学年向けの漢字ブックを作成し、1・2年の各学級にプレゼントする。	・進んで話し合いに参加して、低学年向けの漢字ブック作りに興味をもって取り組んでいる。 ・作品を推敲し、書き方を工夫するなど、分かりやすい本にしようとしている。



○**時のねらい** 漢字の成り立ち等について学習したことをもとに、各自が1・2年生向けの「漢字ブック」作りの計画を立て、友達の意見をもとに必要な修正をすることができる。

○**本時の流れ（概略）**

学 習 活 動	支 援 と 評 価	A～D児に対する支援と評価
<p>1 前時までの振り返り、漢字ブック作りの目的を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を生かすために、古代の人々は、生活の中の様々な場面から上手に漢字を作り出したことを想起させる。</li> <li>・相手意識や目的意識をもたせるために、「低学年向けの漢字ブックを作る」ことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前に机上の学習道具の整理等、学習環境を整えさせたり、前時までの学習を想起させるように、個別に対話をしたりする。</li> <li>○個別に声をかけて課題の理解ができてきているのかを確認し、必要に応じて補足説明をする。</li> </ul>
<p>1・2年生向けの「漢字ブック」作りについて話し合おう。</p>		
<p>2 各自が漢字ブック作りの計画を立て、修正点について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容</li> <li>・方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを深めさせるために、以下の支援をする。</li> <li>①取り掛かりやすいように、書き出しの話型を示す。</li> <li>②まず、自分の計画をノートにまとめさせる。</li> <li>③話し合いでの他の児童からの意見（質問、賛同、付加等）をノートに整理させ、確実に修正ができるようにさせる。</li> <li>④話し合いに当たっては、修正のポイントが明確になるよう助言する。</li> </ul> <p>【 評価 】 ノート、挙手、観察</p> <p>◎：友達の意見に自分の工夫を加えて、自分の計画を修正している。</p> <p>○：友達の意見に沿って、的確に自分の意見を修正している。</p> <p>△：どのように修正していいのかわ分からず、活動が停滞している。</p> <p>*△の児童に対しては、修正の方法を具体的に助言する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「①（漢字）の紹介をする。</li> <li>②（漢字）の成り立ちは、…」のように、漢字ブック作りの手順を示したワークシートを配付し、スムーズに取りかかれるようにする。</li> <li>○以下の個別支援をする。</li> <li><b>A児</b>：手順を一つクリアするごとに○をつけて称賛するとともに、次の手順について理解できているのかを確認する。</li> <li><b>B児</b>：立てた計画のよいところを称賛し、自分の考えを発表するように促す。</li> <li><b>C児</b>：ワークシートをもとに、計画を立てる手順を具体的に説明する。</li> <li><b>D児</b>：手順を一つずつ確認しながら学習を進めるようにさせ、戸惑っているときは、例を示すなど、具体的な助言をする。</li> </ul>
<p>3 自分の修正箇所を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修正箇所を中心に発表するようにさせる。</li> <li>・修正がまだできていない児童に対して、次時までに修正を終わらせておくことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ワークシートに必要な事項がすべて記入されているのかを確認し、未記入の場所がある場合は、放課後、個別指導をし、計画を立てることができるようにする。</li> </ul>

□ は、中心課題

## 4 授業検討



### <授業者の自評>

- ◇活動にスムーズに取り掛かることができるようにワークシートを用意し、書く量が少なく、活動の手順の見通しが持ちやすかったため、A～D児が、活動に集中することができた。
- ◇他にも活動の見通しがもちにくい児童がいたので、ワークシートを使わせたが、効果的だった。
- ◆どの児童も計画を立てることはできたが、「漢字ブック」の作成に当たっては、書く活動が中心になるため、A～D児等、書くことに強い抵抗を示す児童には、あらかじめ項目ごとに記入枠を示した用紙を準備したい。
- ◆ワークシートを使わずにノートを使って計画を立てた児童の中に、ユニークなまとめ方をしているものがいくつかあったが、他の児童に紹介する時間がなかった。授業時間中はなかなか時間がとれないので、掲示をして紹介するなど、方法を工夫したい。

### <支援内容・方法の検討の概要>

- ◇ワークシートが用意されていたので、担任がA～D児の個別支援に時間をかける必要がなく、他の児童に対しても机間指導の中で個別支援をする時間が十分とれていた。ワークシート等を今後も効果的に活用するとよい。
- ◇B児が発表したか、その際、他の児童がB児の計画のよい点を発表し、また、漢字の成り立ちについて、もっと詳しく調べた方がよいと他の児童が助言すると、B児がワークシートにそのことをすぐ記録する様子が見られ、児童相互の好ましいかかわり合いが見られた点がよかった。
- ◆漢字の習得に課題がある児童にとって、漢字の成り立ちなどを学習する本単元の学習は効果的であると思う。漢字ブック作りを継続し、興味を持って漢字の学習ができるようにするとよい。
- ◆毎回ワークシートを準備することは担任にとって負担が大きいと思われる。ワークシートは、他の児童にとっても有効な支援の方法となるので、同じ学年等が協力して準備するような校内の体制づくりをしていく必要がある。



## 5 フォローアップ

### <支援の内容・方法の工夫>

#### ①ワークシートの活用

- ・国語の学習だけでなく、他の教科等の学習においてもワークシートを活用し、児童の実態に応じて書くことの負担を軽減したり、見通しをもって学習したりできるようにし、積極的に学習に取り組むことができるようにする。
- ・同学年等で、協力してワークシートを作成するとともに、作成したワークシートは、次年度以降も利用できるように整理して残すようにする。
- ・児童自身がノートに学習したことを整理しながらまとめることも大切な学習となることから、一律にワークシートを与えるのではなく、書くことに抵抗がある児童の補助的な道具として活用する。

#### ②ペア学習、小集団学習の工夫

- ・児童相互の良好な人間関係をもとに、個別に支援が必要な児童に対して、教師による支援だけでなく、児童相互のかかわり合いの中で必要な支援が行われる機会を設定する。

#### ③漢字ブック作りを通した漢字学習

- ・本単元の学習成果を生かし、新出漢字及び苦手な漢字の習得に当たっては、漢字ブック作りをさせ、児童が興味をもって漢字学習ができるようにする。

#### ④一人ひとりのよさが認められる場の設定

- ・A～D児については、毎時間少なくとも複数回称賛できる機会を教師が意図的に設け、できた喜びや満足感を味わわせ、学習に対する自信をもつことができるようにする。

### <児童の状況>

- ▽B、C児は、放課後の個別学習を自分から申し出るなど、漢字学習に対して前向きに取り組む様子が見られ、学習中は、周囲の児童からの支援で活動にスムーズに取り組めるようになった。
- ▽D児は、指示の理解が難しいため、一つひとつの活動に取りかかるまでに個別の支援が必要である。また、A児は、保護者の協力を得て、集中して学習に取り組める時間を少しずつ延ばすように支援している。



## (2) 通常の学級における複数の児童<5年生>

### 〔要約〕

3人の特別な配慮を要する児童が在籍する通常の学級の事例である。

学級担任と校内コーディネーターによる実態把握をもとに、校内委員会で「めりはりのある授業展開」、「学習意欲の喚起と継続」など4つの授業改善の視点を設定して授業実践を行い、その成果を検証した。一人ひとりに応じたきめ細かな個別支援のための「授業形態の工夫」が今後の課題である。

### 1 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



児童 A	児童 B	児童 C
<p>&lt; 実態 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員や友達の注意を引くための、場にそぐわない発言が多いが、周囲の児童は気にしていない。</li> <li>・ 意に沿わない指示に対し、教室から出たり暴れたりする。</li> <li>・ 受容すると幼児語で甘える。</li> <li>・ 調子がよいときは、積極的に学習に取り組む。</li> </ul> <p>&lt; 所見等 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現力が不足</li> <li>○ 社会性が未発達</li> </ul>	<p>&lt; 実態 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手の態度や言葉に対して、短絡的な言動を返す。</li> <li>・ 本人の意に沿わない指示に対して、攻撃的になったり、その場から離れたりする。</li> <li>・ 困っている友達の手助けをする優しさがある。</li> </ul> <p>&lt; 所見等 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全般的な知的発達の遅れ</li> <li>○ 状況判断の誤学習</li> </ul>	<p>&lt; 実態 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他者の視線や言葉に敏感で情緒不安定になりやすい。</li> <li>・ 友人関係のトラブルを引きずり、気分転換が難しい。</li> <li>・ WISC-III 検査(*)の結果はIQ=102で、記憶の項目が良好であったが、言語理解に弱さを示す。</li> <li>・ 専門機関で相談を受けている。</li> </ul> <p>&lt; 所見等 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広汎性発達障害</li> </ul>



〔校内コーディネーターによる授業観察での所見〕

項目	A児	B児	C児
視覚的な提示物に対する反応	○	△	○
聴覚的な刺激（指示理解）に対する反応	△	○	△
集中できる時間の程度	短い	短い	波あり
学習外行動の頻度	多い	多い	少ない



### 2 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した授業改善の方法〕

授業改善の視点	具体的な方法
ア めりはりのある授業展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡潔な指示</li> <li>・ 教師の声の大きさ、速さ</li> <li>・ 明瞭な活動の区切り</li> <li>・ 学習の流れがはっきり分かる板書計画</li> </ul>
イ 学習意欲の喚起と継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的活動・操作の活用</li> <li>・ 興味をもてる課題提示</li> <li>・ 短時間の活動の組合せ等、テンポのよい学習展開</li> </ul>
ウ 教材・教具の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視覚的な情報と聴覚的な情報の組合せ</li> <li>・ 児童の興味関心を考慮した教材・教具の作成</li> </ul>
エ T1、T2の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導、個別指導</li> </ul>

\* WISC-III・・・個人の多面的な知的機能の特性を把握する検査

- ・ 包括的な一般指数を、言語性、動作性、全検査の3つの知能指数（IQ）で測定することができます。
- ・ 検査結果の分析から得られる4つの指数群（言語理解、知覚統合、注意記憶、処理速度）の値から、子どもの指導に有効な特徴を得ることができます。

### 3 授業実践

〔校内委員会での検討に基づく授業の展開〕



- 教科及び単元名 第5学年 算数「整数の見方」
- 本時のねらい 身近な生活の中にある整数の仲間分けをすることをとおして、整数は、偶数と奇数に類別できることが分かる。
- 準備物 数字カード、綱引きカード、学習プリント 等
- 授業の流れ（概略） \*「ア～エ」は、校内委員会で検討した授業改善の視点(P23参照)

学 習 活 動	ア～エについての手立て
<p>1 学習のめあてと流れを知る。 「みんなが日ごろ使っている数には、いろんな秘密があります。今日は、整数の秘密を見つけるための2つのクイズを考えて、最後にチャレンジ問題に挑戦します。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>整数のひみつを見つけて、チャレンジ問題に挑戦しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「クイズ①」、「クイズ②」、「チャレンジ」の3つのキーワードを強調して、学習の流れを提示（ア）</li> <li>・児童が興味をもちやすい「クイズ」形式にすることによる学習意欲の喚起（イ）</li> </ul>
<p>2 10人の子どもの綱引きの組み分けを通して、1から10までの整数を分類し、偶数と奇数の特徴を話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>青組（□、3、5、7、□） 黄組（2、□、6、□、10）</p> </div> <p>①「4つの□の中に入る数は何でしょう。」 ②「理由を考えてください。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>偶数：2で割り切れる整数 奇数：2で割り切れない整数</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会で体験した綱引きを教材化（ウ）</li> <li>・綱引きカードを提示し、これを操作しながら問題に挑戦（イ、ウ）</li> <li>・正解の場合はシールを貼って賞賛（イ、ウ）</li> <li>・机間指導、個別指導で考える手がかりのない児童への支援（エ）</li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: small;">*いくつかの□の数字を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数字やキーワードだけを記入すればよい学習プリントの活用（ウ）</li> </ul>
<p>3 男子が偶数、女子が奇数のカードを持ち、小さい数から順に整列し、偶数と奇数が交互に並んでいること及び「0」が偶数であることを見つける。 「並び方のきまりに気が付きましたか。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>女①、男②、女③、男④、女⑤、男⑥、女⑦、男⑧、女⑨、男⑩</p> </div> <p>①「0のカードは、どこになりますか。」 ②「0は、偶数と奇数のどちらになるのでしょうか。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>0</b>、女①、男②、女③、男④、女⑤、男⑥、女⑦、男⑧、女⑨、男⑩</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動を通したきまりの発見（イ、ウ）</li> <li>・偶数は青、奇数を黄で色分けした数字カード、「0（表：赤、裏：青）」のカードの提示（ウ）</li> <li>・「偶数と奇数が交互に並んでいること」と「0が偶数であること」を関連付ける学習展開（ウ）</li> </ul>
<p>4 大きな整数が、偶数と奇数のどちらになるのか簡単に見分ける方法を発表する。</p> <p>①「今日のチャレンジ問題は、大きな整数の見分け方です。」 ②「10枚のカードに好きな数を書いてください。」 ③「二人組になってください。」 ④「相手の数字カードを引きます。」 ⑤「数字が偶数か奇数のどちらか、当てっこ競争をしましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム化による意欲の喚起（イ、ウ）</li> <li>・ゲームの方法を板書で説明（ウ）</li> <li>・ゲームの方法の理解と、一の位に着目すればよいという見通しをもたせるための、一斉指導による練習問題（ア、イ）</li> <li>・簡潔明瞭な指示（ア）</li> <li>・ゲームを楽しめるように助言等を行う机間指導（エ）</li> <li>・ゲーム終了後、学習プリントを利用した本時の学習のまとめ（ウ）</li> </ul>

「 」内は、主要な教師の発問及び指示

□□□□ は、板書計画

## 4 授業検討



### <授業者の自評>

- ◇ 3人の児童の実態に応じた支援の方法を考え、準備に時間を要したが、3人とも進んで発表したり、友達とかかわったりするなど、楽しそうに学習に参加している様子が見られ、大変うれしかった。
- ◇ 校内委員会で、具体的な授業改善の方法を検討することができたため、児童理解が深まるとともに、児童の実態に合った支援の内容・方法を選択することができた。
- ◇ 具体的な活動・操作は、児童自身の問題解決に有効であり、意欲的な学習の取組につながった。
- ◇ 3人の児童の実態に配慮した支援は、他の児童にとっても、「分かる授業」、「楽しい授業」につながった。
- ◆ 複数の活動・操作を1時間に盛り込む場合は、活動・操作に時間を要して、その後の思考が十分深まらないことがあるため、時間配分を考えて活動・操作の内容を検討する必要がある。

### <支援内容・方法の検討の概要>

- ◇ 一人ひとりの児童の実態を考慮した支援の内容・方法は、すべての児童にとっても有効な支援となる。
  - ・ ゲーム的な要素を取り入れることで、すべての児童にとっても、学習に参加しやすい雰囲気をつくることができる。
  - ・ 視覚的な教材・教具、具体的な活動・操作を活用することが、すべての児童にとって「分かる授業」につながっていた。
- ◆ 机間指導の際、特別な配慮を要する児童に重点を置くことはやむを得ないが、他の個別支援等を求めている児童に気付きにくくなるため、教師からの支援を求めるためのサインを学級内で決めておくとよい。
- ◆ 一斉指導の中での実態に応じた支援の工夫だけでなく、少人数の中で、個別支援に要する時間をより多く確保し、3人の特別な配慮を要する児童だけでなく、他の児童に対しても一人ひとりのニーズに応じた支援を行うことができるように授業形態を工夫するとよい。



## 5 フォローアップ

### <支援の内容・方法の工夫>

#### ア めりはりのある授業展開

- ・ 特に簡潔な指示と授業の流れがよく分かる板書計画に留意する。

#### イ 学習意欲の喚起と継続

- ・ ゲーム的な活動を取り入れたり、具体的な活動・操作を取り入れたりする。
- ・ 一つ一つの活動の時間を短くして組み合わせ、テンポのよい授業展開を工夫する。

#### ウ 教材・教具の工夫

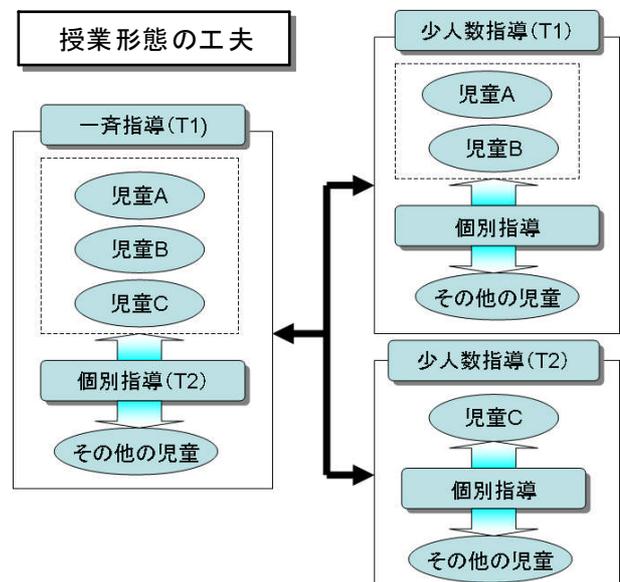
- ・ カード類、具体物などの視覚的な情報提示に留意する。
- ・ 毎時間活用したカード、具体物などを整理して保管し、他の学習でも活用できるようにする。

#### エ T1、T2の役割分担

- ・ 一斉指導でのT1だけでなく、学級を2つのグループに分けた少人数指導を学習内容に応じて実施し、3人の児童を含め、より一人ひとりのニーズに応じた支援を行うようにする。

\* T1：担任

T2：校内コーディネーター（専科教員）

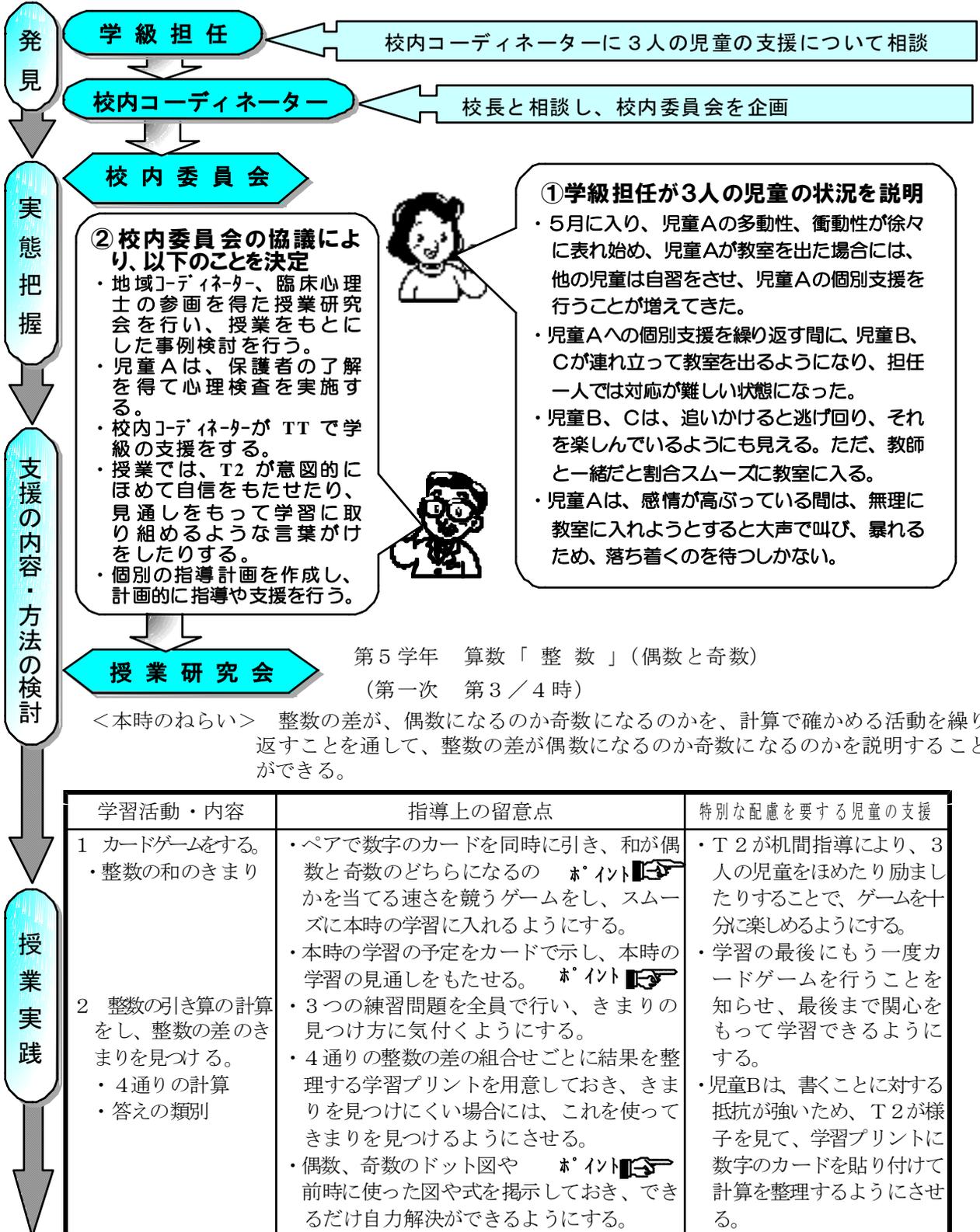


### (3) 対人関係に課題のある児童<5年生>

#### 〔児童の実態〕

児童A：感情の高ぶりを自分で抑えられず、注意を引くものがあると教室から出て行く。<ADHD>  
 児童B：学習面に遅れがあり、直感的に行動する傾向がある。  
 児童C：感情表現や社会性が十分に育っていないこともあり、幼稚な言動が見られる。  
 児童Bと連れ立って教室から出て行くことが増えてきている。

#### 支援の流れ



<p>3 自分で見つけた整数の差のきまりを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・偶数－奇数＝奇数</li> <li>・偶数－偶数＝偶数</li> <li>・奇数－偶数＝奇数</li> <li>・奇数－奇数＝偶数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者それぞれのよいところを称賛し、児童が互いのよさを認め合い、何でも言える雰囲気づくりをする。</li> </ul> <p>※ポイント </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T2が机間指導により、よいところを見つけて称賛し、発表する自信と意欲がもてるようにする。</li> </ul>
<p>4 カードゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整数の差のきまり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめのゲームと同じようにペアでゲームをし、学習したことを確かめるようにさせる。</li> <li>・次時の予告をし、次時の学習に見通しがもてるようにする。</li> </ul> <p>※ポイント </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T2が机間指導により、ほめたり励ましたりすることで、ゲームを十分楽しむことができるようにする。</li> </ul>

**事例検討**

支援の評価と修正

**③事例検討の際、臨床心理士を交え、今後の対応について、以下のことを確認**

＜認知・行動特性や障害の状態への対応＞

- ・言語による指示の出し方 → 短い言葉、話のポイントを要約、身振りや手振り
- ・課題提示の方法 → 言葉だけでなくカード等による視覚的な提示
- ・課題の質と量の加減 → 達成可能な内容、集中できる量
- ・個別の評価 → スモールステップ、意図的に評価場面を設定し承認の機会を確保

＜学習の流れの中での支援＞

- ・導入時の意欲喚起 → 具体物の提示、ゲームの活用、言葉による注意喚起など
- ・展開時の操作活動の導入 → 実際に行うことによる感覚的な理解
- ・展開時の思考と活動の時間配分 → めりはりをつけてテンポよく

＜授業場面での支援の方法＞

- ・板書計画 → 文字の大きさ、文字数を少なくし簡条書き
- ・提示物 → 注意喚起のための図、写真、絵などの活用

**【臨床心理士からの助言】**

- ・現在の心情を理解するように努め、情緒面へのかかわりに重点を置くこと。
- ・「語りかける」対応が必要であること。
- ・TTにより、個別の対応を行うことが今は必要であること。

**校内委員会**

フォローアップ

**④学級担任が状況を報告**

- ・事例検討会で確認した支援を行うことで、3人の児童が落ち着いて学習に取り組める日が増えてきた。
- ・特にTTで支援を行う時間は、発表したり、進んで友達とかかわる様子が多く見られるようになってきた。
- ・担任に他の児童にも目を向ける余裕が出てきた。
- ・3人の児童の個別の指導計画を作成し、児童Aについては、保護者と協力して個別の教育支援計画を作成した。

**⑤今後の支援についての確認等**

- ・T2の学級内でのかかわりを3人の児童から他の児童にも広げていき、児童相互のかかわりの中で学習に取り組めるように支援する。
- ・児童Aについては、T2による別室での個別指導を週2時間実施し、引き続き情緒の安定を図る。
- ※校内委員会で支援の在り方について検討した上で授業研究会を行うことで、教材研究の段階から児童への個別支援について考えることができた。
- ※臨床心理士から、授業の中での3人の言動について、心理的な側面からの助言を得ることができ、児童理解を深めることができた。



### 3 中学校

#### (1) 集中して取り組むことが難しい生徒<1年生>

##### 〔要約〕

授業内容の理解が不十分で、集中して課題に取り組むことが難しい3人の生徒が在籍する通常の学級での数学の授業研究をとおした支援の事例である。視覚の手がかりを活用して課題をとらえやすくしたり、学習プリントを工夫したりすることにより、学習意欲が向上し、授業への集中度が高まってきた。特に、具体物の操作と学習プリントの図がつながるようにしたことで、操作した結果をそのまま書き込んでいき、学習の流れに沿って自分で取り組めるように心がけたことが効果的だった。

#### 1 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



生徒 A	生徒 B	生徒 C
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な学力がついていないため、学習意欲が低く授業中の手悪さや居眠りが目立つ。</li> <li>一対一で話しかけると、その内容を理解することが多いが、少し複雑な内容の指示の理解は難しい。</li> <li>抽象的に考えることが苦手な簡単な四則計算はできるが、文字を用いて関係や規則性を式にしたり、意味を読み取ったりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確に音を聞き取ることが難しく聞き漏らしがある。また、新しい言葉を覚えるのが苦手である。</li> <li>音声による指示の理解が難しいため、一斉授業での理解が不十分である。</li> <li>筆算や暗算などの計算問題ではできるが、文章題では、式を立てて解答することが苦手である。</li> <li>決まった時間は自分の席に座っている等、状況理解はよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師からの発問がない場合でも自分の思ったことを大声で発言し、授業を中断させることが多い。</li> <li>注意すると、その指示を聞いて静かにすることができるが長続きしなかったり、同じことを繰り返したりする。</li> <li>なかなか集団行動がとれないため、友達ができにくい。</li> <li>一つの課題に10分程度集中して取り組むことができる。</li> </ul>

#### 2 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

生徒 A	生徒 B	生徒 C
<ul style="list-style-type: none"> <li>なるべく具体的なものを用意して、丁寧な説明を加えるようにする。</li> <li>自分が困ったときに、担任や補助教員に、何を、どのように支援してほしいかを伝えられるように練習する。</li> <li>宿題やプリントのできそうな課題に印をつけて問題の質や量を調整するなど、多くの問題に慣れさせるのではなく、問題を少なくした状態から始め、学習の意欲を失わせないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名前を呼んで、注意を向けたことを確認してから、短く要約して、ゆっくり、はっきり指示する。</li> <li>友達がやっているのを見せる、指示を復唱させる、メモを利用させるなどして、聞き漏らしを防ぐ。</li> <li>課題に関係する図を示したり、板書したりして、視覚的に確認できるようにする。</li> <li>文字数やフォント、罫線や余白等を本生徒が使いやすいものに改善していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考える、操作する、話し合う、発表する等の活動の組合せを工夫するとともに、それぞれの活動を短時間で構成する。</li> <li>本生徒に理解を示す生徒と同じ小集団の中で、一緒に活動する経験を重ねる。</li> <li>授業の中で集中すべき場面を特定するとともに、板書の工夫やカードの利用により、学習課題を明確にする。</li> <li>発言のルールを決め、学級全体も含めて適宜指導する。</li> </ul>

#### 3 授業実践

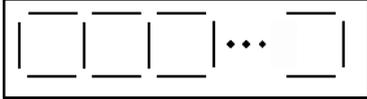
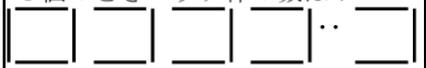
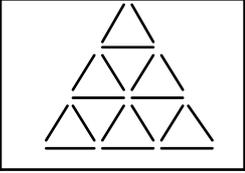
○教科及び単元名 第1学年 数学「文字を数量で表そう」 第一次 3/3時

○本時のねらい

- 文字を使った式の意味を理解し、説明することができる。
- 課題解決を図る中で、変化の規則性や特徴に気付き、文字を使った一般的な式を導くことができる。



○本時の流れ（概略）

学習活動・内容	指導上の留意点	生徒A～Cに対する支援												
<p>1 課題の把握</p> <p>・操作活動</p>	<p>○マッチ棒を使いながら、正方形を1～4個まで並べていき、マッチの本数を聞く。</p> <p>○挙手→指名により答えることを適宜学級全体に指導する。</p> <p>○1～4個までのマッチの本数を確認したのち、次のように問いかけ、自由に答えさせる。 「正方形が32個の時は何本になるだろうか。」 「正方形が160個の時は。」</p> <p>○正答の生徒には、その理由を後で発表してもらうことを伝える。</p>	<p>○宿題を確認し、習慣化していることを称賛するとともに、宿題を見ながら前時の内容を想起させる。</p> <p>○巨大なマッチ棒の模型を見せ、興味を喚起させる。</p> <p>○2～4個まではマッチ棒の模型の数をかぞえることで正答が導きやすくなるので、生徒A～Cが挙手をしていたら優先的に指名する。</p> <p>○図を配布し、課題を視覚的にとらえることができるようにする。</p> 												
<p>正方形がn個のときに、マッチ棒は何本になるだろうか。</p>														
<p>・具体的な個数での式表示</p> <p>・規則性の発見と一般化 <math>4 + 3 \times (n - 1)</math></p>	<p>○正方形を8個並べるまでのワークシートを配布する。</p> <p>○8個並べたときの本数の数え方を考えさせ、いくつかを発表させる。</p> <p>○難しい生徒には2個の場合の立式をやってみせ、3個以降を立式してみるように伝える。 【正方形3個の場合】 <math>4 \text{ (本)} + 3 \text{ (本)} \times \frac{2}{(3-1)} \text{ (個)}</math></p> <p>○多様な考え方を紹介する。</p> <p>○どの考え方が最も簡素で美しい解き方かを話し合う。</p> <p>○表やグラフに表してみた生徒や他のケースでも応用できることを示唆した生徒を高く評価する。</p> <p>○導入時に正答を導き出していた生徒には事前に担任がその理由を聞いておき、その内容により、タイミングをみて指名する。</p>	<p>○具体的に考えられるようにワークシートを工夫する。</p> <p>①正方形が1個増えるごとに棒の本数を書くスペースを設ける。</p> <table border="1" data-bbox="991 824 1417 1093"> <tr> <td>正方形が</td> <td>マッチ棒は</td> </tr> <tr> <td>1個のとき</td> <td>本</td> </tr> <tr> <td>2個のとき</td> <td>本</td> </tr> <tr> <td>3個のとき</td> <td>本</td> </tr> <tr> <td>4個のとき</td> <td>本</td> </tr> <tr> <td>8個のとき</td> <td>マッチ棒の数は？</td> </tr> </table>  <p>②マッチ棒（実物）を配布し、ワークシート上で具体的な操作をおこなって理解を助け、答を導かせる。</p> <p>③式を記入するスペースを設け、補助教員が具体物を使いながら式を完成させていくことで、具体→半具体→抽象の関係を確認させる。</p>	正方形が	マッチ棒は	1個のとき	本	2個のとき	本	3個のとき	本	4個のとき	本	8個のとき	マッチ棒の数は？
正方形が	マッチ棒は													
1個のとき	本													
2個のとき	本													
3個のとき	本													
4個のとき	本													
8個のとき	マッチ棒の数は？													
<p>2 文字を使った一般化の意味</p>	<p>○これまでの取組を振り返り、規則性を発見する方法と一般化のメリットを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変わらない部分と変わる部分</li> <li>・変わる部分を文字で表現</li> <li>・一般化による簡素な表現と利便性（正方形が何個でも対応可能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒A：正方形のときと同じ方法で取り組めばよいことを助言することで意欲をもたせる。</li> <li>・生徒B：式の一覧から、数字が変わる部分と変わらない部分があることに気付かせ、変わる部が文字で表現されることにつなげる。</li> <li>・生徒C：一般化した式のnに正方形の数（2～8）をあてはめて検証させ、一つ確かめるごとに称賛し、自信をもたせる。</li> </ul>												
<p>3 練習問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正三角形の場合</li> <li>・正六角形の場合</li> </ul>	<p>○正方形の時の方法を想起させ、5個とn個の時の本数を求めさせることで、規則性発見の練習をする。</p>													
<p>4 発展問題</p> <p>・ピラミッドの場合</p>	<p>○マッチ棒でピラミッドをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピラミッドがn段の時の棒の数</li> </ul> <p>○増え方の規則性を考えさせる。</p> <p>○次時までの任意の宿題とする。</p>	<p>○図を配布し、課題を視覚的にとらえることができるようにする。</p> 												
<p>5 まとめと次時の予告</p>	<p>○本時の活動を振り返り、変化する数量の規則性に気付けば、文字の使用により一般化できる可能性があることを確認する。</p> <p>○考え方の違いによって式の形も変わるが、人類はより簡素で美しい式を追究してきたことを伝える。</p>	<p>○正答よりも、意欲的に考えようとする姿勢を評価する。</p> <p>○補助教員や教科担当が、適宜、間に入り、周囲の生徒と意見交換をさせ集団への参加意識を高める。</p>												

 は、中心課題

## 4 授業検討



### ＜授業者の自評＞

- ◇生徒が自由に答えることができる導入部分で、生徒A～Cを指名して、授業への参加意欲を高めるようにした。
- ◆ワークシートに加えてマッチ棒を使わせるようにすることで、生徒Aは具体物の操作とプリントへの記入を交互に行い、比較的集中して取り組むことができた。
- ◆課題に関係する図を配付することで、生徒Bは課題を視覚的に確認しながら、安心して取り組むことができた。
- ◆細分化された操作活動が記載されたワークシートによって、生徒Cは見通しをもって活動に取り組むとともに、思考の結果をその都度確認し、達成感を味わうことができた。また、練習問題のときに、一般化した式に実際に数値をあてはめて検証させたことで、自分の取り組んだ結果に自信をもつことができたが、他の生徒と異なる活動になったことが残念そうだった。

### ＜支援内容・方法の検討の概要＞

- ◇いろいろな意見が出やすく、自由に発言できる場面では、生徒A～Cも積極的に授業に参加していた。だれでも参加しやすいような活動の設定は大切だが、そういうときこそ、発言の際のルールを明確にしておく必要がある。さらに、同じ学年の教員等が協力して、機会を見つけては指導し、教科や学級をこえた共通のルールになるようにするとよい。
- ◇活動の流れを詳細に記載したワークシートにより、生徒がスモールステップで取り組めたことがよかった。数学の時間では難しい面もあるが、穴埋めの部分との組合せを考慮しながら、自分の考えを書き込んだり、他の生徒の意見を書きこんだりする自由記述欄を設定し、その記述内容を適宜取り上げ、生徒同士のかかわり合いにつなげられるとよい。
- ◆音楽や体育、技術家庭科等のように作業や活動が中心となる教科と異なり、生徒が参加することが難しい場合には、生徒の発達段階に合わせた課題やワークシートを複数種類準備しておくことは有効である。この場合、正方形の重なりのない（「 $4 \times n$ 」を導く等の）課題やドリルのこなせる課題を用意する。
- ◆他の生徒と異なる課題を学習する場合、本人及び保護者に事前の了解を得ると同時に、授業の中で本人に選択させる機会を与えることも重要である。
- ◆視覚的な手がかりは、他の生徒にも有効なので、ワークシートや板書の工夫に加えて、コンピュータを活用して数の変化の規則性を分かりやすく伝える方法を検討してみてもどうか。



## 5 フォローアップ

### ＜支援の内容・方法の工夫＞

#### ①視覚的手がかりの活用とワークシートの改善

- ・板書については、情報量を調整し、頻繁に消したり書いたりすることのないようにする。
- ・動画を静止させたり、写真画像を拡大させたりするとともに、見る時間を確保する等、映像を積極的に活用し理解を助ける。
- ・ワークシートは、穴埋め、ドリル的な内容により達成が見える形にする。同時に「仮説（自分の考え）」「考えたこと」等の欄を設けることで、思考力や判断力の向上を図る一助とする。その際、補助教員が支援したり、他の生徒の意見やアドバイスをメモするよう促したりする。

#### ②一人ひとりを生かすための学級や小集団での学習の工夫

- ・発言のルールを常に学級全体に指導するとともに、必要に応じて個別に指導する。
- ・授業での評価場面を生徒に提示し、学級全体で授業に集中していこうとする雰囲気をつくる。
- ・授業の導入時をはじめ、授業の中で積極的に発言しているときの生徒A～Cの言葉を授業の後半に生かすよう心がける。
- ・小集団学習では、生徒が一人で考える時間を確保する。その上で、集団の編成や補助教員の活用等により、一人ひとりが責任をもって考えたり発言したりする環境を整えることで、生徒同士をかかわり合わせるようにする。

### ＜生徒の状況＞

- ▽生徒Aは、学級全体で一人ひとりのよさを認めていこうという支持的な雰囲気と、授業の導入部分の工夫、補助教員の活用等により授業への参加意識が高まりつつある。しかし、学習内容の理解の面では個別支援の場の必要性について検討する必要がある。
- ▽板書の工夫やカードの利用等の学習環境の改善により、学習意欲の向上が見られた。特に生徒Bは、授業への集中度が高まったと自己評価している。
- ▽生徒Cは、課題を細分化したことで、一つ一つの活動の終わりを常に確認し、安定して授業に参加することが多くなった。また、授業中のきまりを守ろうとする気持ちが芽生えつつある。



## (2) 時間制約の中で活動することが苦手な生徒<1年生>

### 〔要約〕

活動の切り替えや時間的な制約ある中で活動するのが苦手なため、集団への参加が難しく、集団での活動時には配慮を要する3人の生徒が在籍する、通常の学級における英語の授業研究をとおした支援の事例である。ふりがなカードや複数のワークシートを活用して、授業への参加意欲を高めるとともに、その授業時間の目標（到達点）を設定し、落ち着いて授業に取り組めるようになってきている。ゲーム的な活動の際に、「いつ」、「だれと」、「何を」、「いつまでに」、「どのくらい」等を具体的に決めて学習に臨むようにしたことが効果的だった。

### 1 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



生徒 A	生徒 B	生徒 C
<ul style="list-style-type: none"> <li>・物事の切り替えや時間の制約がある中で活動するのが苦手である。</li> <li>・一斉指導の中では指示が伝わらず、移動教室に遅れて行ったり時間内に課題に取り組むことが難しかったりする。</li> <li>・順番に指名されても答えられないことが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的な発達に遅れがあり、一斉指導の中では理解が困難で学習面でも行動面でも個別の支援を必要とする。</li> <li>・集団での活動が苦手なので、グループ活動時は、配慮を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着きがなく、注意を集中して物事に取り組むことが難しい。</li> <li>・学習に飽きると、周囲の生徒に話しかけてしまい、授業が騒々しくなることもある。</li> <li>・集団での活動が苦手で、グループ活動時は配慮を要する。</li> </ul>

### 2 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

生徒 A	生徒 B	生徒 C
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業が終わったら、次に行く学習内容や学習場所を常に確認し、安心して次の行動に移ることができるようにする。</li> <li>・授業中は個別に声をかけ、活動が終了する条件（この問題が終わったら、〇〇分になったら等）を伝える。</li> <li>・自分が指名されることが予想される部分を個別に指し示し事前に知らせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず全員が参加できる場面を作り、しっかり認めて自信につなげる。</li> <li>・相手の目を見ること、ジェスチャー等を使って、相手に伝えようとする気持が大切であることを伝えるとともに、積極的な姿勢が見えれば、しっかりと称賛する。</li> <li>・基本文等は暗記するように促すが、必要に応じて括弧抜きプリントを用意する。</li> <li>・ふりがなカードを配布し、自信をもって参加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、活動を細分化し、集中しやすくしたり、見通しをもちやすくしたりする。</li> <li>・グループ活動の際には、チェックリストを利用し、すべてのメンバーとペアで活動したり、音読練習の際には回数を掲示したりする等、活動の終了を明確にすることにより見通しをもたせるようにする。</li> <li>・話し相手リスト、声の大きさを視覚的に表したカード等を利用し、集団活動にスムーズに参加できるように支援する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究会を行い、授業をもとにした事例検討を行う。</li> <li>・保護者の了解を得て3人の心理検査を実施する。</li> <li>・個別の指導計画を作成し、計画的・継続的に指導や支援を行う。</li> </ul>		

### 3 授業実践

○教科及び単元名 第1学年 英語科「Program6」(Whenの用法) 第2/5時

○本時のねらい Whenの用法を理解し、相手に時を尋ねたり、答えたりすることができるようになる。

○本時の流れ（概略）

学習活動・内容	指導上の留意点	生徒A～Cに対する支援
<p>1 英単語小テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コース（5問、10問）別</li> <li>・生徒による相互採点</li> </ul> <p>2 復習音読と音読発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を計り、1分間で取り組ませる。積極的に取り組めるように出す内容を決めておく。</li> <li>・スクリーン（電子情報ボード）に解答を映し出しておく。</li> <li>・音読を5回以上行い、全体の前で音読発表をする。</li> <li>・様々な方法（範読後、CDの後、CDと一緒に、友達とペアで等）で音読練習をし、あきないように何度も声を出す場面を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aが取り組めていなければ声をかける。</li> <li>・Bに個別に声をかけるとともに、単語カードに書いた解答を渡して正しく採点できるようにする。</li> <li>・Cには、1分間がんばったら終わることを事前に確認しておく。</li> <li>・補助教員はA、Bとペアを組み、称賛して自信をつけさせてから全体の前で発表させる。</li> <li>・練習時に最もスムーズに取り組めた方法で発表させる。</li> <li>・生徒間で教え合う雰囲気を作る。</li> </ul>
<p>Whenを使って会話をしてみよう。</p>		
<p>3 進出文型の音読</p> <p>4 進出文型を用いたコミュニケーション活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①1週間のスケジュール</li> <li>②ワークシートへの記入</li> <li>③全体発表</li> </ul> <p>5 Whenの用法をノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CDを利用して、音読させる。</li> <li>・動画を準備し、視覚にも訴えて、「When～？」の使い方の理解を助ける。</li> <li>・数名の生徒を相手にしてやり方を実演する。</li> <li>・基本文型をスクリーンに映しておき、尋ねる時、ワークシートに記入する時の参考にさせる。</li> <li>・早くできている生徒はペアを替えて取り組ませる。</li> <li>・ペアで協力して発表できる雰囲気を作る。</li> <li>・誰の発表がよかったかを聞き、生徒相互の推薦による模範発表を行い、美しい発音について考えさせる。</li> <li>・まとめる内容をスクリーンに映し出す。</li> <li>・赤字で示した重要な部分は、必ずノートに記入するように指示する。</li> <li>・早くできた生徒にはワークの問題に取り組ませる。</li> <li>・次時の予告をし、学習に見通しがもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Bをはじめ、不安に感じている生徒にふりがなカードを配布するとともに、教師は目線ががんばりを認め、意欲的に取り組ませる。</li> <li>・戸惑っている生徒に声をかけ、一緒にやりながら理解を促す。</li> <li>・Bには基本文のカードを利用しての個別練習に取り組ませる。</li> <li>・A、B、Cには例文のカードに従って取り組ませる。</li> <li>・Cには声の大きさカードを利用して、声の大きさに留意させる。</li> <li>・A、Cにはペアチェックシートを利用し、3人以上の生徒と取り組ませる。</li> <li>・A、B、Cができていることを確認してから例文カードを使って発表させ、自信をつけさせる。</li> <li>・Aの手が動かないときは個別に声をかける。</li> <li>・早くできた場合には次のように指示する。  <b>生徒A</b>：ワークの問題に3問取り組む。  <b>生徒B</b>：基本文のカードを5回視写する。  <b>生徒C</b>：マーカーでチェックした解答しやすい5つの問題に取り組む。</li> </ul>

## 4 授業検討



### <授業者の自評>

- ◇学習意欲を喚起するために導入時にゲームを行うようにしているが、本時ではペアでの学習時間を確保するため、ゲームを行わなかった。しかし、補助教員による声かけや、行うべき活動のチェックリストを活用することにより、生徒A～Cは、1時間の授業に取り組むことができていた。
- ◇ペア活動の前に補助教員が相手になって練習を行い、しっかり称賛してから生徒同士の活動に移るよう促したことで、活動に不安を抱えている生徒も安心して取り組むことができた。また、事前に自分が話す内容を基本文・例文カードに限定したことも有効であった。次の段階として、限定した複数の例文の中から、自分で即座に選択し、使わせるようにすることで、一人で判断し、取り組む経験を積ませたいと考えている。
- ◆外国語活動という教科の指導上の特徴として、短い言葉で、身振りや手振りを踏まえての表現が重視されるため、教員からの指示の出し方も有効に働いていたと思う。ただし、活動が多くなると、生徒の注意が教員に向いていることの確認が不十分になりやすかった。
- ◆生徒A～Cに配布したプリントの括弧内に記入する内容を色分けしてスクリーンに映したことで、どの部分に何を記入すればよいか分かりやすくなり、スムーズに書き込むことができた。本時の課題についてもカードやスクリーンを利用して、視覚的に分かりやすくする工夫を行えばよかった。

### <支援内容・方法の検討の概要>

- ◇ふりがなカードやチェックリスト、問題数の異なるワークシート等、生徒の実態に合わせた教材の利用が効果的だった。達成可能な内容、集中できる量、取り組むための時間の設定等、課題の質と量の加減を今後も改善していくとよい。
- ◇座学だけでなく、生徒がペアになって会話する活動は、直感的な理解の促進だけでなく、生徒のエネルギー発散という効果もあるのではないかと。ただし、ペア活動や発表活動を取り入れる場合には、その活動の終わりをきちんと設定し、めりはりのある授業になるよう心がける必要がある。
- ◇生徒の様々な活動に区切りをつけることはスモールステップ化につながり、意図的な評価場面を数多く設定し、生徒のがんばりを認める機会を確保することになる。
- ◆活動だけに注目するのではなく、「Whenはいつ、どんな時に使うのか。」「時間を聞くとときの日本語との違いは何か。」等、生徒自身が落ち着いて思考できるような時間配分が求められる。
- ◆英語はコミュニケーションを重視する教科でもあるので、声の大きさ、テンポ、アイコンタクト等について丁寧に指導することで日常生活にも応用していけるようになるとよい。
- ◆スクリーンを利用して視覚的に理解を促すことは大切なことである。明確で具体的な指示の視覚化、映し出す文字の大きさの配慮、文字数を少なくした箇条書きの活用、注意喚起のための図、写真、絵等の活用について今後も検討していくとよい。



## 5 フォローアップ

### <支援の内容・方法の工夫>

#### ①学習課題に関する工夫

- ・カードやプロジェクターを利用して課題を分かりやすく提示する。
- ・課題の内容や量を複数用意することで、配慮を要する生徒が見通しをもてるようにするだけでなく、学習の進みが速い生徒へも対応する。

#### ②授業場面での工夫

- ・スモールステップでの支援に加えて、生徒が取り組める場面、称賛される場面を設定する。
- ・箇条書きや写真、図の活用等、板書計画や提示物を他の教科でも工夫する。

### <生徒の状況>

- ▽生徒Aは、自分なりの目標を達成しようと努めるようになったので、コミュニケーション指導に重点を置いている。
- ▽配慮のある授業を行うことで、全体にも分かりやすい授業となり、生徒間でも相手を思いやる言動が増えた。特に生徒Bは、称賛されることで自信をつけ、取組が前向きになったが、引き続き教科指導のための個別指導を必要としている。
- ▽生徒Cは、「時間内に○人と練習する」、「○分間取組む」、「問題に○問取組む」等、教員と相談しながら、その時間の目標を設定することで、比較的落ち着いて授業に参加するようになってきたが、補助教員による支援がない場合には難しい状況が続いている。



### (3) 一斉の指示を聞くことが難しい生徒<2年生>

#### 〔要約〕

複数の指示を理解することや活動の見通しをもつことが難しいため、授業に集中できず、それが周囲の生徒にも影響し、集団全体が落ち着かない状態になることもある通常の学級における、理科の授業研究をとおした支援の事例である。学習課題を生徒の生活との関連から導き出すとともに、その課題を視覚的の手がかりによってとらえやすくすることに加え、班学習においては、学習プリントの活用と補助教員の支援により、一人で考える時間を確保する等の工夫を行ったことで、授業への参加意欲が高まってきている。また、実験の手順（実験の準備から片付けまでの流れ）をある程度パターン化し、フローチャートやカードにして示すことにより、スムーズに、安心して実験に取り組み、実験結果の考察につなげることができた。

#### 1 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



生徒 A	生徒 B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に向けられた指示という意識がないため、活動の内容や手順、用意する物などの説明を聞いていないことがある。</li> <li>・教師の説明を聞いていても、実際に行動するときに、何をすればよいのか迷ってしまう。</li> <li>・一度に複数の指示を出されると、覚えていられないことがある。</li> <li>・何から先にやればよいのかという優先順位をつけることが難しく、周囲の人の行動とずれることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の理解が十分でなく、個別の支援を必要とする。</li> <li>・一つのことに集中し続けることが難しく、10分もたたずに、すぐ次のものに興味が移ってしまうことが多いが、興味のあることには、かなり集中して取り組むことができる。</li> <li>・周囲の音や友達の動きが気になるなど、刺激の影響を受けやすく、不必要な刺激をカットできない。</li> <li>・見通しをもつことが難しいため、注意が持続できないようである。</li> </ul>

#### 2 支援の方針の検討

〔校内委員会で検討した支援の内容・方法〕

生徒 A	生徒 B
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書き込み式の学習プリントや配布資料を準備するとともに、声かけや机間指導を心がけることで、一人で取り組める場面を増やすようにする。</li> <li>・授業では、これまで学習してきた内容や方法をできるだけ生かすようにするとともに、適宜確認させることで、自信をもって取り組むことができるようにする。</li> <li>・学習のまとめを模式図で示したり、教師と一緒に完成させたりすることで、理解を助けるとともに、自分の考えを整理させる。</li> <li>・分かりやすい指示の工夫をする。</li> <li>・補助教員と一緒に指示を復唱することにより指示を理解しているか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座席は窓側を避けるとともに、机の上には使用する教材やプリントだけを置くように声かけをする。</li> <li>・どこで何をするかを具体的に示すなど、一時間の授業の流れだけでなく、その日の学習内容や時間の流れを掲示する。</li> <li>・指示の内容を具体的にするとともに、話の前に注意を喚起するような声かけをする。</li> <li>・理科や技術家庭の授業など、実験や作業をとまなう授業においては、「実験や作業の目的をカードで確認する」「準備をする」「活動（操作・実験）する」「記録する」「考える」「プリントに記入する」という一定の流れを明確にし、それぞれの作業を短時間で構成する。</li> </ul>

### 3 授業実践

○教科及び単元名 第2学年 理科2分野「酸素はなぜ必要なのか」 第三次 5/10時

○本時のねらい 実験をとおして、呼吸のしくみや肺のつくりとはたらきについて知る。

○本時の流れ(概略)

学習活動・内容	指導上の留意点	生徒A・Bに対する支援
1 学習の雰囲気づくり 2 課題づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○落ち着いた雰囲気になるよう、静かになるまで待つ。</li> <li>○前を向いてきちんとあいさつを行う。</li> <li>○吸う息と吐く息の違いについて考えられることを口頭で説明する。</li> <li>○質問に対して自由に答えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・方向の違い(身体に入る、外に出る)</li> <li>・成分の違い(酸素、二酸化炭素)</li> </ul> </li> <li>○小学校の時の実験を想起させることで、既習事項を確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・石灰水を使った実験</li> <li>・体外に排出される二酸化炭素</li> </ul> </li> <li>○呼吸と物の燃焼の共通点に着目させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「二酸化炭素が発生するのはどんなときだろうか」</li> <li>・「なぜ体内から二酸化炭素が出るのだろうか」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験道具を教室の前方に置かないようにし、必要に応じて、事前に決めておいたサインを使い、静かにすることを個別に促す。</li> <li>○必要に応じて個別に声をかけ、活動への関心を喚起するとともに、補足説明を加える。</li> <li>○学級全体あるいは、個別に声をかけて復唱させ、課題が理解できているかを確認する。</li> <li>○実験時の写真やVTRを準備し、小学校の時にに行った実験を想起しやすくするとともに、その時の様子から、ポイントになる部分をおさえておく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・石灰水を白くする吐く息</li> <li>・吐く息の中の二酸化炭素が関係</li> </ul> </li> <li>○補助教員が個別に声をかけ、自分の思いつきや考えを自由に述べる場を設定する。</li> </ul>
物の燃焼のしくみはすべて同じだろうか。		
3 実験 ・物の燃焼と二酸化炭素の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○確かめる方法を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を検証する。(既習事項) 酸素→二酸化炭素</li> <li>・教師が準備した物を燃やし、二酸化炭素が出るか確かめる。ろうそく、紙、葉、スチールウール、粉末カルシウム</li> </ul> </li> <li>○各班にプリントを配布し、実験道具を取りに来るよう指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実験の手順プリントを配布する。</li> <li>○班の中で、個別に声をかけ、日常生活での様子を想起させながら、物を燃やしたときの様子を自由に述べさせ、後のまとめにつなげる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・煙・熱・臭い・焦げや灰等</li> </ul> </li> <li>○学期を通して決めている各班の役割を事前に確認しておく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験道具を取りに行き確認する</li> <li>・実験結果をプリントにメモする</li> </ul> </li> </ul>
4 実験結果の考察 ・二酸化炭素が発生する理由 ・炭素の存在と特質	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班の結果を発表させ、板書する。</li> <li>○炭素の存在に気付かせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化炭素が出た物と出なかった物との違いに着目させる。</li> <li>・前時の学習内容(有機物と無機物)の視点で確認する。</li> <li>・有機物の燃焼→二酸化炭素発生</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○机上にはプリントと筆記用具だけを出しておくように伝えるなど、学習環境を整えさせる。</li> <li>○表にした実験結果と前時のプリントを提示し、炭素の有無と二酸化炭素発生の関係に気付かせる。</li> </ul>
物の燃焼のしくみと呼吸の共通点は何だろうか。		
5 呼吸のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○呼吸と有機物の燃焼の共通点から呼吸のしくみを整理させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・燃焼 ・二酸化炭素の発生</li> <li>・エネルギーの発生と消費</li> </ul> </li> <li>○呼吸のしくみの模式図から、体内には炭素が存在し、燃焼によって二酸化炭素が発生することに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○呼吸のしくみの模式図のプリントに、黒板に書かれた赤色文字を写すように伝える。</li> <li>○本時の学習内容がプリントにきちんと書き込めたかどうか、机間指導などで確認した後、プリントを提出させる。</li> </ul>
6 肺のつくりとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>○配布した肺の模式図をもとに説明する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交換器としての肺</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体内で発生した二酸化炭素を体外に排出し、燃焼のための酸素を体内に取り込むために、自分の身体はどうしているかを問い、肺のはたらきに気付かせる。</li> </ul>
7 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前を向いて挨拶を行う。</li> </ul>	

## 4 授業検討



### <授業者の自評>

- ◇班での活動における役割を事前に決めておくとともに、実験の流れをプリントにして確認しながら進めることで、落ち着いて取り組むことができていた。
- ◇実験結果を表にしたり、模式図を利用したりすることで、規則性に気付くことができ自信をもって授業に参加していた。
- ◆補助教員がそばについて、実験の様子を振り返るとともに、学習プリントの記入状況を確認しながら取り組むことができた。しかし、十分な考察のためには、自分の考えを述べたり、他者の意見と比べることが大切であり、補助教員がそばについて、実験の様子を振り返りながら、生徒の仲立ちをする等、班活動における話し合い活動の工夫を行う必要があった。
- ◆導入時に小学校の教科書の図版やVTRを示すことで、小学校時の実験を想起させることができ、スムーズに授業に入ることができた。しかし、補助教員が小学校時の学習内容を引き出そうとしたが、難しかった。簡単な実験なので、教師が実際にやってみせれば、思い出しやすくなるし、思い出せない場合でも、その場で実際に見たことをもとに課題づくりにつなげていけたのではないかと思った。

### <支援内容・方法の検討の概要>

- ◇実験や実習等、生徒の動きが多い場合は、実験の流れや役割分担等を事前に明確にしておくことが必要であるが、プリントやカードにして伝えたことは有効であった。小集団で活動する場面は、学級等のより大きな集団における活動の練習にもなることから、集団活動において自分の役割を果たしたという経験を、今後も蓄積させていくことが大切である。
- ◇理科の実験や技術家庭の実習、あるいは、保健体育の実技等は、ただ自由に活動させるだけでは授業の流れがつかなくなったり、活動があつて学びがなかったりする状況に陥りがちとなる。プリントの工夫や補助教員の活用等を検討するとともに、日頃から教科等の枠をこえて、小集団活動のルールや学習の方法を指導しておく必要がある。
- ◆理科の実験の場合は、実験のどこをどのように観察すればよいか、観察の記録をもとにどのように考察していけばよいかを個別に声をかけながら指導するとよい。また、小集団での話し合いでは、友達の意見や集団としての結論をメモするよう促し、日常生活の中で自分に必要なことをメモにとる習慣につなげていくようにすることが大切である。
- ◆日常生活の経験から抱いている自然に対する様々な疑問から始まる授業を構想することが大切だが、自分が抱いた疑問を検証、考察し、結論を得ることで達成感が味わえるよう、配慮を要する生徒の素朴な疑問（「人はなぜ呼吸するのか」、「なぜ吸う息と吐く息の成分が違うのか」、「なぜ呼吸が激しい時とそうでない時があるのか」等）を学級全体の学習課題にまで高めることで、配慮を要する生徒も含め、すべての生徒が興味関心を持ち、集中して取り組めるように努めるとよい。



## 5 フォローアップ

### <支援の内容・方法の工夫>

#### ①授業を構成する活動の組み立ての工夫

- ・生徒の的確な実態把握を常に心がけ、そこから支援方法を改善し成功体験を重ねさせる。  
「一つのものに集中できる時間は。」「教科や活動による違い、授業中と他の時間の違いは。」「興味のあることや好きなことは何か。」「集中の仕方や度合いはどうか。」
- ・一単位時間の授業の学習活動を様々な視点で組合せ、実際に試み、評価・改善していく。  
得意な部分に充てる時間を長くして、一つの活動時間を延ばしていく。  
生徒の得意な部分を、適宜、組み合わせ、得意な部分を徐々に減らしていく。

#### ②落ち着いて参加し、集中して取り組むための工夫

- ・授業に参加することが難しい生徒の疑問リストを作成し、そこから授業を構想する。
- ・実験や実習の手順書を準備し、活動の流れを事前に伝えるようにする。
- ・黒板の特定の場所、特定の色で書いた部分だけ視写する等、作業量の工夫をする。
- ・指示を短くする、一つの行動ができたなら次の指示を出す、大事なことは絵や文字で表す等の工夫をする。
- ・小集団に参加したり、学習内容の理解を確認したりするための補助教員の支援を明確にする。

### <生徒の状況>

- ▽生徒Aは、活動の手順書に従って自ら活動することが増えてきた。現在は、短い言葉で一つずつ出される指示をメモするとともに、活動の優先順位を適宜考えさせるようにしている。
- ▽生徒Bは、興味のある実験に長い時間取り組めるようになったので、引き続き授業の組み立てを工夫し、一つの活動時間は短くても結果的に一時間の授業に取り組めることをめざしている。



## 4 高等学校

### (1) こだわりが強く、周囲への配慮が苦手な生徒<3年生>

#### 〔要約〕

規則にこだわったり、状況に関係のない発言をしたりすることが多いため、友達との関係がうまくいかない生徒が在籍する高等学校の事例である。

校内委員会で校内全体での支援を協議するとともに、学校行事への参加や卒業に向けた支援について臨床心理士や地域コーディネーターから定期的に相談支援を受けた。また、授業においては複数の教員を配置し、学級の安定化を図ったことで、学校生活や授業に落ち着いて参加することができるようになってきた。



#### 1 実態把握

##### 生徒A

- ・中学時から本人両親ともに障害について認識している。
- ・周囲への配慮が難しく、自分の思いをすぐ口に出してしまう。
- ・曖昧な表現を文字どおりに受け取ってしまい、冗談が通じない。
- ・大きな声で叱責されたり、予定が急に変更されるとパニックになりやすい。
- ・こだわり行動やパターン化した行動を取りやすい。

##### 学校での様子

- ・複雑な、あるいは予期せぬ出来事に対して、大きな声を出したり、教室から出て行ったりする等の行動をすることがある。落ち着いた状態であれば、教師の指示を聞くことができる。
- ・曖昧な表現を理解することが難しく、相手の言葉をそのまま受け取ったり、相手との距離感が分かりにくかったりするため、トラブルになることがある。
- ・校則を厳守し、他の生徒にも同じ態度を求め、固執するため、友達からかかわられることが少なく、一人でいることが多い。
- ・英語が得意で、授業への参加も積極的だが、意の向くままに質問してしまう。的外れな質問に他の生徒が影響を受け、授業が中断してしまうことがある。
- ・性急に答えを求めがちなので、授業のペースとずれが生じることが多い。
- ・休憩時間は、活字の方を好んで、進路指導室で雑誌を見ていることが多い。

#### 2 支援の経過

	月	校内の支援及び体制づくり
入学前	3	・入学前における中学校からの引継 (高校：校長、教頭、教務主任、校内コーディネーター 中学校：校長、元担任)
	4	・保護者・本人と学年関係者との面談(今後の校内体制、家庭での様子の確認等) (校長、教頭、校内コーディネーター、学年主任、担任、副担任)
1年次	4	・各教科担当者に読本配布 ・全職員にアスペルガー症候群に関するレポート配布 ・保護者と担任のノートによる連絡
	5	・パニック時の対応(3箇所落ち着ける場所を確保)
	6	・担任が他の生徒へ説明 ・担任が専門家訪問、専門家が来校し、授業参観
	7	・各教科担当者、専門家との質疑応答
	11	・全職員研修(事例研究)「アスペルガー症候群について」
	2	・各教科担当者にアンケート実施(改善すべき点について)
	3	・校内事例研究「改善に向けて」→職員会議で報告 ・保護者、関係者で1年間の総括・来年度への展望について協議

2 年 次	4	・担任以外での特別支援の担当者を決める（連絡ノート担当） ・英語の授業の複数教員配置（ライティング）
	5	・保護者、本人、新担任、学年関係者の面談
	7	・専門家と関係者との面談 ・修学旅行参加に向けて専門家と関係者の面談（1回目） ・全職員研修（事例研究）「発達障害について」 ・各教科担当者にアンケート実施（1回目）
	9	・修学旅行参加に向けて専門家と関係者の面談（2回目）
	2	・校内事例研究「改善に向けて」→職員会議で報告
	3	・各教科担当者にアンケート実施（2回目） ・保護者、関係者で1年間の総括・来年度への展望について協議
3 年 次	4	・担任以外での特別支援の担当者を決める（連絡ノート） ・英語の授業の複数教員配置（ライティング） ・保護者、本人、新担任、学年関係者との面談
	5	・進路についての専門家、保護者、関係者の面談
	7	・オープンキャンパス参加
	9	・受験大学の方向性をほぼ決定（専門家を交えて）
	12	・保護者、本人、学級担任、担当者の面談（受験大学最終決定）
	1	・大学入試センター試験受験（特別受験措置のうえ）
	2	・私立大学受験、公立2次試験受験（特別受験措置等なし）
	3	・卒業式

### 3 支援のポイント

- 入学前における中学校との連携
- 全校体制による支援
  - ・全教職員の理解（障害理解、対象生徒の特性等）
  - ・校内委員会の設置
  - ・学年を中心とした支援チームの結成
  - ・特定の授業におけるTT（質問への対応等）
  - ・担任以外の特別支援担当者による支援（連絡ノート）
  - ・事例検討の開催と職員会議での報告・協議
- パニック時の対応（クールダウンできる複数の部屋の確保）
- 進路決定のための支援
- 他の生徒の理解
- 他の生徒への配慮
- 専門家の参画による支援（授業、学校行事、進路等）

#### クールダウンの場所

- ・保健室（養護教諭）
- ・教育相談室（教育相談課）
- ・家庭科準備室（副担任）



### 4 3年間における成長

- 状況に応じて変動はあるが、パニックの回数は3年次の後期にはかなり減少した。本人が環境に慣れてきたことと、パニックを抑える力がついたことが要因の一部と言える。
- 他者とのかかわり方において、かなりの成長が見られた。場面に応じた対応を心がけることができるようになっただけでなく、自分の感情を抑えることにより他者に受け入れられたという気持ちの芽生えも見られた。
- 修学旅行に参加できたことが大きな自信になった。
- 受験をねばり強く乗り切ることができ、本人の高校3年間の大きな目標を達成することができた。
- 学校側は、常に専門家や保護者と連携し、試行錯誤の連続であったが、本人の進路実現に向けて協力しながら進めることができた。

## (2) パニックを起こしやすい生徒<1年生>

### 〔要約〕

集団行動を苦手とし、自分自身でコントロールできない場面に遭遇するとパニックになる生徒に、地域コーディネーターの助言を受けながら全校で支援に取り組んだ事例である。

特に、入学前の情報収集や受け入れ体制づくり、「授業実施上の留意点」を全ての教員が確認して支援に当たったことが効果的であった。

### 1 実態把握

〔学級担任による行動観察等〕



#### 生徒 A

- ・本人は中学時代に「アスペルガー症候群」の診断を受け、父親から告知を受けている。
- ・集団行動を苦手とし、自分自身でコントロールできない場面に遭遇するとパニックを起こす。
- ・パニックを起こした後は自己嫌悪に陥り、それが大きな不安要素になっている。
- ・「大きな声での叱責」や「全体が集まる場面」での緊張や「集団」への不安感が強い。
- ・学習への取組はまじめで、考査の成績も良い。出席状況も良好であるが、クールダウンすることができる別室が必要である。

### 2 支援の経過

月	校内の支援及び体制づくり
	<p><b>【入学前】</b></p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験前に中学校長から事情説明</li> <li>・受験上の配慮、他の受験生との関係等を含めて対応の確認</li> <li>・合格発表後、中学校の特別支援学級の担任と学年主任を招いて、中学時代の指導・支援の詳細を聞く。研修講師依頼。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育職員研修会 「汎汎性発達障害の生徒について」 講師：中学校教諭</li> <li>・仮入学当日、保護者との面談(個別の指導計画の作成等)</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両親・本人との面談(生徒指導課長、学年主任、教育相談係、養護教諭、担任)</li> </ul>
	-----
	<p><b>【入学後】</b></p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コーディネーターの来校を求め、状況説明と集団宿泊指導参加に向けての対応についてアドバイスを受ける。</li> <li>・職員研修会(転入教員対象。当面の対応における留意点を説明)</li> </ul> <p style="text-align: center;">┌ 情報収集は、担任、教育相談担当が随時実施 ┐</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談委員会・特別支援教育委員会 (校長、教頭、教務主任、教育相談係、養護教諭、学年主任、担任) クールダウンしている時は、別室登校規定に準じ、出席扱いとする。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育研修会「発達障害の理解・啓発」 講師：地域コーディネーター</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議での情報交換 出席状況(欠1、早退2)、授業への出席意欲(大)、卒業への希望等について</li> </ul>

- 10 ・保護者との面談（学年主任、教育相談係、養護教諭、担任）  
入学後の様子、短期目標、長期目標、集団行事に向けての対応等
- 11 ・地域コーディネーターの来校を求め、授業参観や本人との面談を実施。担任等との面談、アドバイスを受ける。
- 12 ・特別支援教育研修  
授業参観や面談の結果を受けてのアドバイス 講師：地域コーディネーター

### 3 授業実施上の留意点



- 大きな声で叱責をしない（他の生徒に対しても）。
- 指示内容を具体的に伝える。
- その授業での学習内容・目標等について最初に伝える。
- 雑談と授業の区別がつきにくい。「ちょっと脱線するけど・・・」などと明示してから雑談にはいる。
- 数学などは、作業内容がはっきりしており、混乱が少ないようだ。
- 国語などは、言語から場面や心情を想像するような内容はもともと不得意とするところなので、あらかじめ選択肢を与えたり、分からないと言う回答も可であることを伝えておく等の工夫が必要。
- 作業の手順がはっきりしていると対応しやすいので、ドリル形式のプリント等の活用も有効
- 質問すると、自分が答えたがるので、指名してから質問をする等の工夫も必要（他の生徒との関係で）
- パニックが起きたときは、担任、養護教諭、教頭がその場から離れさせ、クールダウンできる場所に移動させる。3名がいずれも不在のときは、授業担当や近くにいる教員も対応する。
- ◆パニックが起きた場合の他の生徒への支援
  - 本人の行動傾向について説明し、対応の協力を要請。その場合、特に「病名」を明示する必要はない（先入観や偏見を与えないため）。

#### [ 実施後の感想 ]

- 地域コーディネーターのアドバイス等もあって、「授業実施上の留意点」に基づいて、具体的な対応が取れるようになってきた。
- パニックへの対応方法が了解されているので、対応しやすい。

### 4 今後の支援の確認事項

- 体育の個人指導や授業改善を通して、本人の「授業への参加意欲」に応える努力を続ける。
- 「得意・不得意」という観点から、「向き・不向き」という観点への転換も必要である。
- 地域コーディネーターのアドバイスは具体的で、担任を始め、授業担当者にとっても大きな支援となっているので、今後も継続して指導を受ける。
- 今年度、2か月間ではあったが、人的措置を取ってもらい、担任の精神的負担感の軽減に大いに役立った。
- 来年度から、選択授業が大幅にふえるため、スムーズに対応できるかが当面の課題である。（教室移動・受講メンバー・2年次3年次生の合同授業・新入生との関係等）

### (3) 発達障害等の生徒が複数名在籍する高等学校における支援

#### 〔要約〕

同一校に、発達障害等の生徒が複数名在籍している高等学校における事例である。それぞれの生徒の特性に応じた個別の支援を行うことで、いずれの生徒も安定した学校生活を送っている。

#### 1 障害のある生徒

- ①数学、理科に落ち込みが見られ、運動が苦手な **生徒A (LD)**
- ②授業中、説明を聞いた直後や質問に対して、すぐに聞き返す **生徒B (ADHD)**
- ③場の状況や相手の立場を理解しないままの言動が目立つ **生徒C (高機能自閉症)**
- ④小学校レベルの漢字が読めない **生徒D (知的障害)**



#### 2 対象生徒の実態

①生徒A (LD)	②生徒B (ADHD)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学、理科に落ち込みが見られ、運動が苦手。</li> <li>・素直でにこやか、授業に真面目に取り組む。</li> <li>・連絡事項を細かく確認し、間違いがないように行動する。</li> <li>・自分で決めて実行するため、アドバイスによる変更ができない。</li> <li>・教員との関わりを好み、頻繁に職員室、保健室に行く。</li> <li>・友人のことを気かけ、アドバイスや援助をするが、お節介と受け取られることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中、説明を聞いた直後や質問に対してすぐに聞き返す。</li> <li>・思ったことがすぐ口に出てしまう。</li> <li>・数学が極端に苦手である。</li> <li>・人間関係を築くのが極端に苦手であり、周りの人への不信感が強い。</li> <li>・教員に対する不信感も強く、特に、若い男性の教員を嫌う傾向がある。</li> </ul>
③生徒C (高機能自閉症)	④生徒D (知的障害)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな話をするが、場の状況や相手の感情や立場を理解しないことがある。</li> <li>・含みのある言葉の意味が分からず、表面的に受け止めてしまう。</li> <li>・強いこだわりがあり、限定された興味だけに熱中する。</li> <li>・特定の習慣や手順に従うことにこだわる。</li> <li>・スカート丈が短く、それに対して指導されると、特異な行動を取る。</li> <li>・授業中は、特に問題ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校レベルの漢字が読めない。</li> <li>・アルファベットが理解できず、パソコン等でのローマ字入力が難しい。</li> <li>・授業中は真面目に聞いているが、理解していないと思われる。分からなくても、質問することができない。</li> <li>・字を書くことに時間を要する。</li> <li>・友人との日常会話はほぼ普通にできる。</li> <li>・バスケットボールが比較的得意である。</li> </ul>

#### 3 支援の経過

##### (1) 校内支援体制

- 校内委員会の設置
- 校内コーディネーターによる連絡調整
- 事例検討会の実施
- 職員研修会の実施「発達障害への理解と対応について」

##### (2) 個別の指導

###### ① 生徒A (LD)

- ・中学校からの情報をもとに、学年会で情報交換を行う。
- ・不登校傾向に陥った時は、家庭訪問を実施し、中学校時代の担任にも状況を話し、アドバイスをもらう。
- ・本人の送迎のために母親が来校した時は、養護教諭が母親との情報交換を行う。
- ・学年会を頻繁に開いて、情報交換を行っている。

## ② 生徒B (ADHD)

- ・中学校の担任から情報提供をしてもらう。
- ・1学年当初、中学校の復習をする基礎課外を実施する。
- ・1年次の数学は少人数による習熟度指導を行う。
- ・放課後、数学の補講を行い、課題等で繰り返し学習しているが、定着しにくい。
- ・保護者会時には、相談部も母親との面談を実施している。
- ・学年会を頻繁に開いて、情報交換を行っている。

## ③ 生徒C (高機能自閉症)

- ・4月当初、スカート丈が短く、生徒指導部より指導するが、改善は見られない。
- ・学年主任、担任が出身中学校を訪問し、中学3年時の担任と学年主任から情報を収集する。
- ・母親との面談 (担任、相談担当が対応)
- ・学年会で対応を検討するとともに、校内委員会で支援方針等について協議する。

## ④ 生徒D (知的障害)

- ・1年次の2学期、教科担当より学習の理解の状況について報告がある。
- ・学年会において、情報交換を行い、今後の方針について検討する。
- ・保護者了解のもと、個別知能検査 (WISC-III) を実施する。
- ・結果をもとに、学年会で今後の対応等を協議し、職員会議で全教職員へ周知する。
- ・英語、数学は基礎課外、少人数の習熟度指導で対応し、情報はTTで対応する。
- ・他の教科は、授業時間外で個別に対応する。
- ・保護者会では、コーディネーター、英語科教諭も参加して母親との情報交換を行う。

## 4 成果と課題



### ◆【成果】

#### ① 生徒A (LD)

- ・小、中学校では不登校。高校入学後も、一時期、不登校傾向が見られたが、現在は欠席もほとんどない。

#### ② 生徒B (ADHD)

- ・欠席、遅刻もなく、楽しそうに学校生活を送っている。
- ・少人数や個別の指導を通して、教職員との人間関係ができた。
- ・限られた人間関係の中で、少しずつクラスメートと交友を深め、クラスマッチや野球応援などの活動にも積極的に参加するようになった。

#### ③ 生徒C (高機能自閉症)

- ・生徒や教職員が、本人の特性について理解し、こだわり部分に触れないことで、安定した状態で学校生活を送ることができるようになった。

#### ④ 生徒D (知的障害)

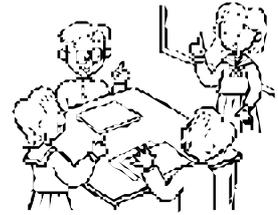
- ・欠席、遅刻もなく、楽しそうに学校生活を送っている。
- ・部活動にも、休まずに参加している。

### ◆【課題】

- 発達障害があると思われる生徒及び保護者への医療機関での受診の促し方の検討
- 事例検討会等の実施による、より効果的な指導の在り方等の検討
- 社会自立に向けた支援の在り方の検討 (社会では、学校のような細やかな支援は難しい。)
- 進路指導を行う際の配慮等の検討
- 現実に即した校内支援体制の確立 (一定のシラバスや教科書を用いた一斉授業だけでなく、個別の指導が必要であるが、教職員数には限りがある。)

## ※ 高等学校段階等における主な発達障害の特徴（例）

### ◆ 学習障害（LD）



#### 【中学（13歳～15歳頃）】

##### ■ 行動面

- 生活場面において、自分の興味を最優先に考えてしまう。
- 親や保護者と衝突することがあり、時に、不登校傾向が見られることがある。

##### ■ 学習面・コミュニケーション

- これまでに学習した漢字を、あまり覚えていない。
- 作文などを書くと、コマ切れの文章が多くなる。
- 平仮名の多い文章を書く。また、漢字の多い文章を読むのが苦手である。
- 暗算は苦手で、特に繰り上がりがある場合は混乱してしまう。
- 数学や理科において、ユニークな発想が認められる。

##### ■ よく見られる生活場面

- 「どうせ、自分にはできない。」等、自尊心を低下させていることがある。
- 強そうに見える年長者に対して、非常に怖いというイメージを抱くことがある。
- 創造性に富み、個性的な中学生に映ることもある。

#### 【高校・青年（16歳頃～）】



##### ■ 行動面

- 自分が困っても、支援を求めることをしない。
- 人に挨拶しなければならないことは分かっているが、突然の訪問者等、マニュアル通りでない場合は対応できないことが多い。
- 調理などでは、切ること、煮ること等、手順よくかつ段取りよく進めることができない。

##### ■ コミュニケーション

- 漢字を覚えたり、書いたりすることが苦手である。
- 相手の話を聞いて、内容を理解することが難しく、断片的な理解をしてしまう。
- 得意な教科はとて集中して取り組めるが、苦手な教科になるとほとんど手がつかない。

##### ■ よく見られる生活場面

- 自分の書いたものや作った物に対して、他のものと比較してコンプレックスを感じる。
- 野菜の新鮮さが、そうでない同じ野菜で比較しなければ分からない。
- 不安・いじめ等により、不眠・痛み・疲れ等の身体的な訴えをすることがある。

### 【 支援 】

- ◆自分が困った時に、何を、どのように支援してほしいのかを、周囲の人に具体的に伝えられるように、日頃から繰り返し練習しておくことも一つの方法である。
- ◆製作活動においては、速さや段取りのよさだけを追求させるのではなく、確実性も評価の対象とする。
- ◆社会生活を視野に入れ、書くことへのプレッシャーを継続させないようにするためにも、パソコンを活用させて、文字に対する苦手意識を軽減する。
- ◆人間関係、自信の喪失等で大きなストレスを抱えてしまうケースもあるので、定期的な教育相談による状況の把握が大切である。

## ◆注意欠陥／多動性障害（ADHD）



### 【中学（13歳～15歳頃）】

#### ■不注意

- 授業中、人の動きや周囲の音等に反応しやすく、集中して学習に取り組むことが難しい。
- 自分が移動した場所に、学習用具や持ち物を置き忘れることが多く、その場所がなかなか思い出せない。

#### ■多動性

- 落ち着きなく手や体を動かし、姿勢の悪さや落ち着きのなさが見られる。
- 教室やその他の教室を、しきりに行ったり来たりする。

#### ■衝動性

- 親と些細なことで衝突することが多い。
- 自分の話したいことを一方的に話した後は、人の話をあまり聞かず次の行動に移る。

#### ■よく見られる生活場面

- 学習等に対して、無気力や投げやりな態度が見られることがある。
- 気分が変動しやすく、不安感、抑うつ感を抱きやすい。
- 二次的な問題として、自傷、非行等の問題を起こすこともある。
- 学習意欲の低下から、不登校に陥ることもあり、昼夜逆転の生活になることもある。
- 日々の活動を忘れることがしばしば見られる。
- 言動に関し、年齢に比べて幼さを感じさせることがある。

### 【支援】

- ◆「あなたの話は聞くから、まず、私の話を聞いて。」等、はじめに話す時のルールをしっかりと説明する。
- ◆気が散らないように、教師に近い最前列に座らせることが有効なこともある。
- ◆友だちや大人等、本人の理解者がいることを意識させることが大切である。
- ◆一生懸命に取り組んでいる姿勢をしっかりと認める。
- ◆スケジュール表等を利用し、生活の見通し、計画性等のある規則正しい生活づくりに配慮させる。
- ◆日々の生活でいくつかの約束事を決めておき、繰り返し確実に実行させていく。

### 【高校・青年（16歳頃～）】

#### ■不注意

- 会話に意識を向けることが困難で、参加することができない。
- 一つのことをどうにか最後までやり遂げるが、何かを忘れたり、やり残してしまう。

#### ■多動性

- じっと座っている活動が苦手で、いつも何かしていないと落ち着かない。

#### ■衝動性

- 母親の些細な言葉に反発しやすく、興奮して自室の壁を叩き、穴をあけるほどの行為を伴うことがある。
- ほしい物があると、衝動買いをしてしまう。
- 気が短く、ストレスや欲求不満に耐えられない。

#### ■よく見られる生活場面

- 豊かな創造性、鋭い直感、高い知性を示すことがある。
- きちんとできていても、本人は実力を発揮できず、目標を達成できていないという感覚をもつ。
- 慢性的な自尊心の低さを感じている。
- 物事を先延ばしにし、物事への取りかかりに時間がかかる。

- 決められたやり方、適切な手順を守ることが困難である。
- 片付けをすることが苦手で、片付けるよりも先にどんどん物がたまっていく。
- 行動障害、不安障害、気分障害といった情緒障害の併存が多い。
- 頻繁に強い刺激を求め、退屈な状態に我慢ができない。
- 周囲の状況に注意が払えず、けがや交通事故を起こしやすい。
- 自分から心配の種をあれこれ探す傾向が見られる。
- 後のことを考えず、人に頼まれると何でも引き受けてしまう。

### 【 支援 】

- ◆スケジュール表を手元に置き、自分自身で日々の活動を確認できるようにする。
- ◆周囲の人に、苦手なことは伝えておき、サポーターを増やすことが大切だが、いつも援助を受けるばかりでは自尊心が低下するので、可能と思われる内容には取り組ませてみるといった配慮が必要である。
- ◆欠点ばかりが目につくときは、自分のことをよく理解してくれている人に長所を聴く。
- ◆思いついたらすぐ連絡できる携帯電話やスケジュール表を活用する。
- ◆タイマー、電子辞書、食器洗機等をうまく利用し、日常生活での支障を軽減する。
- ◆青年期に入ると、以前のような多動は減少することもあるが、反面、知らず知らずのうちにストレスがたまっていることもあるので、本人の話をよく聞くようにする。

## ◆アスペルガー症候群・高機能自閉症



### 【中学（13歳～15歳頃）】

#### ■人との関わり

- タイムスリップ現象が起こり、かつていじめられた等の迫害的な記憶がフラッシュバック\*し、対人関係がうまく築けなかったりする。

#### 〔フラッシュバック\*〕

- ・強い心的外傷を受けた場合に、後になってその出来事が、突然鮮明に思い出されたり、同様に夢に見たりする現象

#### ■コミュニケーション

- 上下関係を考慮した言動が苦手である。
- 校内外で初対面の人に対して、顔見知りであるかのように自分のことを話し始めることがある。

#### ■よく見られる生活場面

- 暗黙の了解、ルールがよく理解できない。
- 物に対して、人に語りかけるように話しかける場面が見られる。



### 【 支援 】

- ◆不適切な言動に対して、感情的に叱ると、「拒否された」という気持ちだけが強く残るので、冷静に、分かりやすく丁寧な説明や指導を行う。
- ◆本人の長所を理解している者が身近にいることを伝えておく。
- ◆周囲からの働きかけをいじめと誤解した場合は、すぐに説明し誤解を解いておく。
- ◆イライラした時などは、すぐ行動で表すのではなく、支援を求めるサイン等、担任への意思表示の仕方を教えておく。
- ◆フラッシュバックが起こった時は、まず、場を換えて落ち着くまで待つ。

### 【高校・青年（16歳頃～）】

#### ■人との関わり

- 友達との対応で、いきなり「絶交」と言ってみたり、これまでの会話の内容とは無関係な話をしたりすることがある。

## ■コミュニケーション

- 苦手な状況や場面になっても援助の依頼ができない。
- 相手とコミュニケーションがうまく図れないことを強く意識し、自分から話すことを極端に避けてしまうこともある。

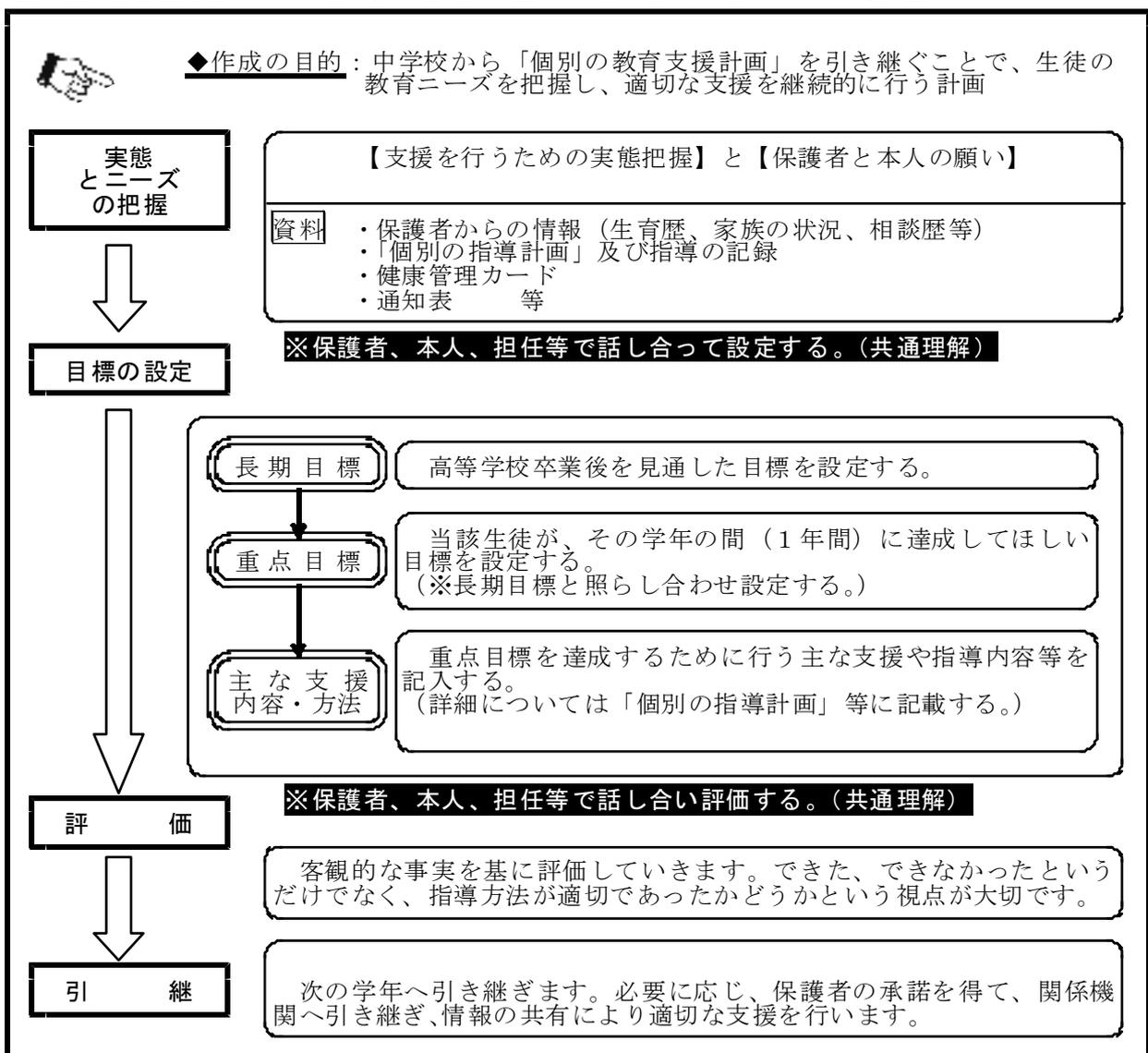
## ■よく見られる生活場面

- 不得意なことを安請合いしてしまう。
- うまくできていると思いきみ、周囲の配慮や助言を受け入れない。
- 人とかかわりたいと思っているが、そのやり方が不器用で結果的にトラブルとなる。

### 【支援】

- ◆いけないことは禁止するとともに、許される条件を明確に示す。また、うまくいかない場合の代替の方法を提案する。
- ◆できるだけ成功体験を味わわせ、できなかった場合も一方的に責めない。
- ◆必要なルールやマナーは事前に伝えておき、守れたときには、その場で評価する。
- ◆会話の途中で、話の内容が頻繁に変わるようであれば、一度間をおいてから、まず一つのことを話させるようにする。

## 【資料 高等学校での「個別の教育支援計画」作成の手順と活用例】



## V 校内支援体制の充実

### 1 校内支援体制の機能の充実

本県では、小・中学校等における校内委員会の設置、校内コーディネーターの指名などの校内支援体制の整備を積極的に進めており、全国的にもトップクラスの整備状況となっています。

特別支援教育のより一層の充実のために、学校や地域の実情に応じた校内体制づくりと同時に、その機能の強化が求められています。

#### A 中学校での取組<大規模校>

##### 【校内支援体制機能の充実】

- 校内委員会の活性化(実態調査、情報交換、事例検討等)
- 定期的な校内研修の開催<短時間の開催、回数の確保、全教員参加>
  - ・特別支援教育に関する研修の校内研修計画への位置付け(研修機会の確保)
  - ・開かれた校内研修(地域の小・中学校及び幼稚園・保育所等への開催案内)
  - ・個別の教育支援計画の作成に関する演習及び事例検討
  - ・学級経営の在り方と指導や支援のポイント
- 「授業の展開例」「指示の出し方」「視覚的教材の例」「掲示物の作成・掲示法」等
- 校内コーディネーターを各学年に配置
- 各学年単位での事例検討や研修の開催による機能強化と効率化

##### 《第1段階》

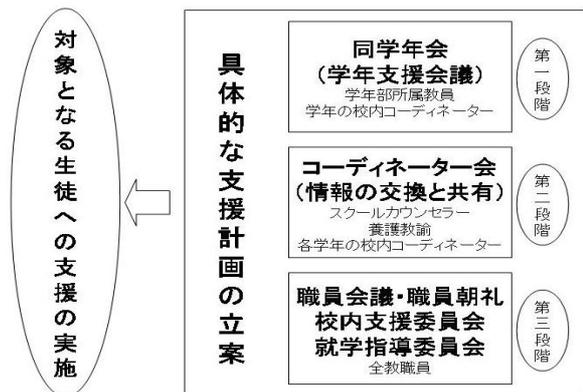
- ・同学年会の開催  
気になる生徒の情報交換、具体的な指導や支援について協議

##### 《第2段階》

- ・コーディネーター会の開催  
各学年コーディネーター、教育相談担当(チーフ兼務)、スクールカウンセラーの参画による指導や支援の方法の検討

##### 《第3段階》

- ・全教員による支援体制  
気になる生徒への支援についての共通理解<職員会議、職員朝礼等>



中学校における校内支援体制

#### B 小学校での取組<小規模校：各学年単学級>

##### 【校内支援体制機能の充実】

- 校内支援委員会を全教職員で組織<全教員で全児童を支援できる小規模校のよさ>
- 「支援資源シート(校内支援用)」の作成
- 児童生徒の長所や能力などの個性を生かした支援の実践記録
- 校内支援委員会における支援の方針等の検討
- 全教職員が日々の実践記録や研修記録を整理・保管するファイルの作成
- 校内支援体制の見直し
  - ・校内コーディネーターが中心となった事例の検討
  - ・校内コーディネーターが児童への指導や支援を行う時間の確保
  - ・参観日等に、校内コーディネーターが保健室で待機できる校内体制<保護者からの相談に即時対応>

平成19年度 支援資源シート

学年	児童氏名	担任	
家庭環境と保護者の思い等			
	長所と様子等	記録・支援等	反応や効果(○…☆…●…)
1学期			
2学期			
3学期			
次年度対応への引き継ぎ			

支援資源シート(校内支援用)

【特別支援教育に関する全体構造図の作成】

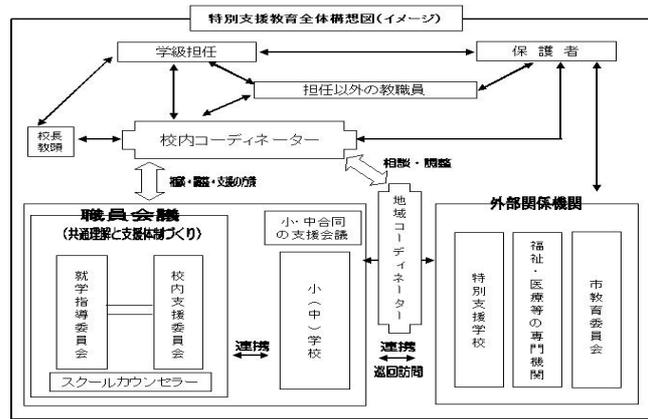
○特別支援教育推進のための構想図の作成

<作成の意図>

- ・校内支援委員会の役割の明確化
- ・校内コーディネーターの役割の明確化

↓ 全教員で確認

- ・校内支援体制の機能を強化



特別支援教育全体構想図 (イメージ)

【中学校時期の発達段階を考慮した校内支援体制の整備－進路指導を中心に－】

○発達障害のある生徒への支援の充実に向け、進路指導に焦点を当てた校内支援体制の整備

○定例職員会議において、全教職員の参加による校内支援委員会を開催

○本人の学習に対する意識、授業中の取組、成績の変化等を全教職員で繰り返し検討

○本人や保護者が希望する卒業後の進路の実現に向け、全教職員が「一人一支援」の協働

特別支援教育体制

一人一支援体制による気になる子どもへの一人一支援  
生徒の進路を見据えて、卒業までの期間に継続して行える支援

	生徒B	生徒B
校長	将来の夢を踏まえた進路指導を個人面接を通して、今後の目標や見通しを持たせる。	将来の夢を踏まえた進路指導を個人面接を通して、今後の目標や見通しを持たせる。
教頭	授業中に提出したプリントやノートに励ましの言葉を書く。授業後に会話をする。	選択社会の時間に個別指導(地名や人物名を通して漢字力を定着させること)を行う。
教諭A	社会科の学習を通して漢字力をアップできるように支援する。	家庭との連携を図り、授業中眠らないように基本的な生活習慣を身に付けさせる。
教諭B	自主学習ノートを活用し、基本的な問題を用意する。	机やロッカーの整理をさせる。
教諭C	週2回30分程度、基礎的な内容の補習を行う。集中力が続くように、できるだけ側について指導する。	週2回30分程度、基礎的な内容の補習を行う。
教諭D	人との接し方で、特に、言葉遣いや挨拶がきちんと大きな声でできるようにする。できていれば褒める。	授業中、眠らずに1時間が受けられるようにする。
養護教諭	保健室を利用したときには、マナーの指導をする。声かけをする(挨拶)。	衛生週間を身に付けさせる。(爪が長い場合は、確認させ行動へ)保健室利用時には、歯磨きチェックを行う。

一人一支援分担表

C地域での取組<大規模小・中学校>

【「支援ミーティング」の開催】

学級担任の気付きを基に、支援を必要とする児童生徒の実態を全教員で共通理解し、関係機関との連携を深め、支援に結び付けるための校内支援体制を工夫した。

○目的

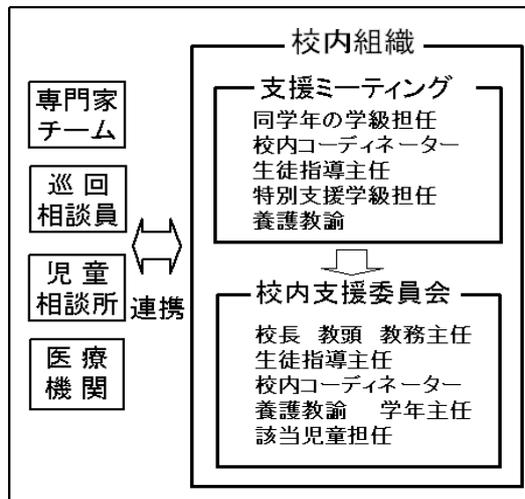
- ・支援を必要とする児童の実態把握
- ・具体的な指導や支援について協議

○参加者

- ・学級担任
- ・校内コーディネーター
- ・養護教諭
- ・生徒指導主任
- ・特別支援学級担任

○「校内支援委員会」での検討

- ・全校体制による指導や支援が必要と判断された場合



校内支援体制

【「個別の記録シート」の作成と活用】

- 「支援ファイル」
  - ・協議内容や児童生徒についての情報を記録
  - ・各学年用の「支援ファイル」
  - ・支援の記録の累積と次学年への引継
- 目的
  - ・児童生徒理解の深化と支援の見直し
- 記録者
  - ・学級担任と校内コーディネーターが整理
- 内容
  - ・日々の実践記録の整理
  - ・児童生徒の課題だけでなく、長所も記述
  - ・これまでの対応と今後の支援
- 活用
  - ・「支援ミーティング」や「校内支援委員会」での参考資料

	児童生徒の実態		主な支援の方法・内容等	
	長所	課題	これまでの対応	今後考えられる支援
学習面				
行動面				
その他				
保護者の願い			他機関からの情報（心理検査等を含む）	

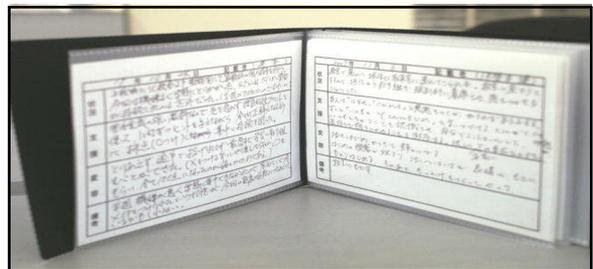
「個別の記録シート」の様式

【「オーダーメイドマニュアル」の作成と活用】

- 目的
  - ・教員間で児童生徒への支援の共有化（個々の場面での指導や支援をマニュアル化）
  - ・適切な支援の共通理解と不適切な対応の回避
- 作成方法
  - ・支援にかかわった教員が記載し、記録を累積
- 効果
  - ・特定の児童生徒に対する支援だけでなく、他の児童生徒への支援の参考資料となった。
  - ・学級担任一人で問題を抱え込む状況はなくなり多くの教員の支援を受けながら、学級経営、学習指導を進めていくことができた。
  - ・中学校では、学級担任以外に各教科や部活動顧問などとの連携につながった。

年 月 日 ( ) 記載者 ( )
状況:
支援:
変容:
備考:

オーダーメイドマニュアル様式



オーダーメイドマニュアル

【「特別支援教育 Q & A」の作成】

- 小学校で、校内コーディネーターが作成したものを基に作成
- 校内の全教員に配付
- 新しく着任した教員にも配付し、常に手元に置いて活用



Q & A表紙

特別支援教育 Q & A (改訂版) 目次

～ クラスの中の気になる子のために ～

頁	目
Q 1	「特別支援教育」に関する動向はどのようになっているのでしょうか？ ①国の動向 一冊余と基本的な考え方 ②県の動向 一山口県特別教育ビジョンの概要
Q 2	学習障害（LD）とはどのような障害でしょうか？
Q 3	注意欠陥・多動性障害（ADHD）とはどのような障害でしょうか？
Q 4	高機能自閉症、アスペルガー症候群とはどのような障害でしょうか？
Q 5	ソーシャルスキルトレーニング（SST）とはどんなものですか？
Q 6	行動療法とはどのような指導法ですか？
Q 7	該当児の保護者に連絡指導教室などのように動いたらよいのでしょうか？
Q 8	盲・聾・養護学校や特殊学級等の教育の現状は？
Q 9	望ましい校内支援体制の在り方はどのようなものなのでしょうか？
Q 10	該当児の保護者とのように連携をどういけばよいのでしょうか？
Q 11	就学指導はどのような流れで行われるのですか？
Q 12	県内の相談機関にはどのようなところがありますか？

Q & A目次

## 2 校種間の連携

発達障害を含め障害のある幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを的確に把握し、長期的な視点に立ち、医療、保健、福祉、労働等の関係機関と連携して支援を継続できるツールとして、「個別の教育支援計画」の作成を推進しています。

幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導や支援を長期間にわたり、校種間を超えて継続していくためには、各学校において、「個別の教育支援計画」を引き継ぎ、活用していく体制とともに、校種間の引き継ぎの仕組みづくりについて、地域や学校の実情に応じた工夫をすることが求められます。

校種間での支援の継続ができる体制作りは、保護者も安心して学校に教育を委ねようという気持ちにつながり、早期発見・早期支援や保護者と学校との信頼関係の構築につながります。

### A 地域での取組

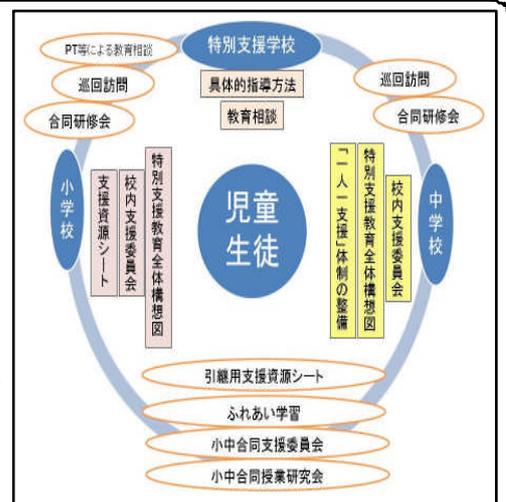
- 小・中学校情報交換会(相互参観)と「出前授業」の活用
- 中学校区にある小・中学校の校内コーディネーターによる情報交換会
  - ・実態把握ための記録用紙「児童生徒実態調査票」の書式の統一化
- 入学前に実施する小・中学校連絡会への校内コーディネーターの参加
  - ・一斉指導の中での学習内容を理解しやすい個別の支援の方法
  - ・効果的であった指導や支援の方法
  - ・効果がなかった、あるいは逆効果であった指導や支援の方法
- 幼稚園・保育所と小学校の連携
  - ・就学時健康診断、仮入学、幼稚園・保育所の学芸会等での事前の実態把握と連絡協議
- 小学校入学前の小学校と幼稚園・保育所との連絡協議会
- 幼稚園・保育所の職員の校内研修会への参加

実態調査票		平成 年 月 日現在 【記入者: 】	
児童・生徒名		小学校( ) 学年( ) 組	
在学校・学年・組		標準学力検査	
その他		C R T: 国語 / 算数	
発達障害の記録	その他		
	・心理検査 ・社会生活能力検査 ・定期テスト 等		
困っていること(課題)		児童・生徒の長所	家庭での様子・保護者の願い
学習面	児童・生徒の様子 (実態の把握など: 名前・特徴等)	これまでの対応 (今まで行った実態の対応と効果等)	今後考えられる対応 (望まれる今後の実態)
	生活行動観察 対人関係等 その他 実態 把握		

児童生徒実態調査票

### B 地域での取組

- ふれあい学習
  - ・中学校の英語の授業への参加、部活動の体験、小・中学校合同運動会等の実施
  - ・6年生の児童が中学校の学校生活に適応しやすくなることをねらいとして実施
- 授業研究会
  - ・小学校から中学校への学習面での支援の継続
  - ・中学校入学前後の児童生徒の学習や生活面での様子に基づいた授業の進め方
  - ・一人ひとりの課題に応じた指導や支援 等
- 「支援資源シート(中学校への引き継ぎ用)」を活用した小・中学校の連携の強化
- 小・中学校合同の授業研究会の計画的な実施と授業改善等



【支援資源シートを活用した小・中学校の連携の強化】

- 児童一人ひとりの課題に応じた支援を小学校から中学校へ継続
- 「支援資源シート（中学校への引継ぎ用）」の作成  
 <小学校の校内コーディネーターと6年の担任とが協力して作成>
- 入学時の校内支援委員会で、生徒の課題、指導や支援の方法を全教職員で共通理解

支援資源シート～よりよい中学校生活に向けての引継ぎ～			
		平成 年度	
児童氏名	性別	中学校に在籍している兄や姉	
家庭の様子（保護者の状況、本人への期待等）		6年担任のコメント（性格、学級内での様子、得意な面など）	
実情や支援	1・2年	3・4年	5・6年
○効果あり			
●効果なし、逆効果			
学習			
生活			
友人関係			
出欠状況			
その他			
支援資源シート（中学校への引継ぎ用）			

【小・中学校合同の支援会議の実施】

- 小・中学校の全教職員が参加し、全児童生徒の課題に応じた指導や支援について協議

【6月の支援会議（中学校会場）】

- 中学校1年の生徒を対象に実施した実態調査を基にした協議
  - ・「中学校生活への安心と不安に関するアンケート調査（中学校版）EASY」
  - \*EASY：(Expectation and Anxiety for Junior High School Life Assessment in Yamaguchi)
- 中学校生活での様子について情報交換、具体的な指導や支援方法について協議

【11月の支援会議（小学校会場）】

- 小学校6年児童一人ひとりの特徴や具体的な支援の引継ぎのための情報交換

【小・中学校合同の授業研究会の計画的な実施と授業改善】

- 小・中学校合同の授業研究会を年間2回実施
- 授業研究に先立ち、各学校の校内研修会において、授業を参観するための視点を整理

【1回目の授業研究会（6月：中学校会場）】

- 1年の生徒を対象に数学科の授業
  - ・生徒が理解しやすい指示、視覚的にとらえやすい教具の提示法などについて協議
  - ・小学校6年時と比較した生徒の状況について協議

【2回目の授業研究会（11月：小学校会場）】

- 6年の児童を対象に国語科の授業
  - ・コミュニケーション能力の向上と中学校入学を意識した発表や話し合い活動に重点を置いた学習展開
  - ・指導や支援をいかに中学校に滑らかに移行するかという視点からの協議
  - ・中学校入学に向けて養いたい力など指導や支援の方向性の確認

## C地域での取組

### ◎小・中学校間で支援の継続を図ることができるシステムの確立

- 小・中学校の教員による情報交換会
  - ・支援の必要な児童生徒の実態と支援の方向性の確認
  - ・個別の指導や支援の計画についての見直し
- 小・中学校間相互の授業公開・参観
- スクールカウンセラーの参画
  - ・中学校に配属されているスクールカウンセラーによる小学校の保護者の心理的援助
- ボランティア等の外部人材の参画

小学校から中学校への滑らかな支援の継続が重要ですが、その際、小学校における児童一人ひとりの困難さへの支援の継続だけではなく、中学校生活を視野に入れた支援や、児童の多くが自己洞察が深まる思春期にさしかかった時期であることにも留意しなければなりません。

発達障害のある児童の場合、適切な行動ができない経験が重なると、自己肯定感を保ちにくくなり、不適応行動等の二次的な問題が生じることがあります。

### 【「個別の教育支援計画」の作成と活用】

- 「個別の教育支援計画」を活用した小学校から中学校への支援の継続
- 「支援ミーティング」の記録と「個別の記録シート」の累積による個別の教育支援計画の作成と見直し
- 「支援ファイル」や「オーダーメイドマニュアル」による個別の教育支援計画の見直し及び次学年への支援の引継
- 校内研修での事例検討会の実施
  - ・全教員の特別支援教育の理念、自立という視点、個別の支援の充実についての理解
  - ・的確な実態把握とPDCAサイクルによる「個別の教育支援計画」の充実

### 【特別支援学校のセンター的機能の活用】

#### ◎特別支援学校のセンター的機能を活用し、「合同支援会議」を開催する地域支援システムの確立

- 特別支援学校の地域コーディネーターが連絡・調整
- 小・中学校が連携して実施

#### 【第1回合同支援会議】

- 来年度中学校に入学する、個別の支援が必要だと考えられる児童についての情報交換等
- 参加者
  - ・地域コーディネーター
  - ・小・中学校の校内コーディネーター
  - ・生徒指導主任 ・教育相談担当
  - ・スクールカウンセラー ・養護教諭
- 成果
  - ・中学校の教員は、児童の特性と小学校での指導や支援について知ることができた。
  - ・小学校の教員は、中学校入学までの支援の見直し、高学年での支援の充実を図った。

#### 【第2回合同支援会議】

- 中学校入学を控えた児童の保護者を交えての合同支援会議
- 参加者
  - 地域コーディネーター、小・中学校の校内コーディネーター、該当児童の担任、保護者、近隣の特別支援学校教育相談担当
- 効果
  - ・保護者の思いを聴き、中学校の受け入れ体制の整備に有効であった。
  - ・公開授業と同日開催し、支援が必要とされる児童生徒の学習場面での様子を基に、支援の継続性や有効性と今後の支援の方向性について協議できた。



合同支援会議（イメージ）

### 3 保護者や地域への理解・啓発 –リーフレットの活用等–

発達障害を含め障害のある幼児児童生徒一人ひとりの実態を的確に把握し、早期から適切な指導及び必要な支援を行うことが重要です。このため、小・中学校等における校内支援体制の整備や地域における医療、福祉等の関係機関と連携した相談支援体制の整備とともに、保護者や地域に対する理解・啓発も必要となります。

#### A 中学校での取組

##### 【保護者や関係機関との連携】

- 特別支援教育に関する理解・啓発用リーフレットの作成・配布
  - ・学期末の個人懇談時に、小・中学校のすべての保護者に配付
- 自治会との連携
  - ・自治会の回覧板を活用した理解・啓発
  - ・リーフレットの地域の方々への回覧
- 各幼稚園・保育所との連携
  - ・理解・啓発用リーフレットの掲示
- 就学時健康診断(小学校)での配布
- 仮入学(中学校)での配布

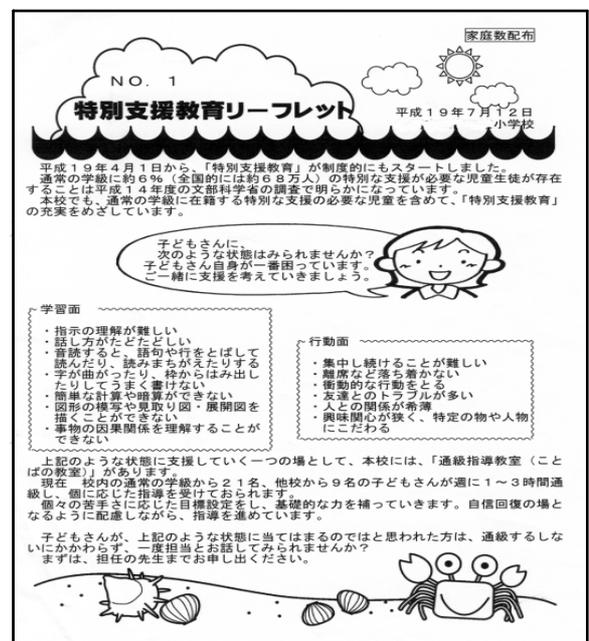


リーフレットの例

#### B 小学校での取組

##### 【リーフレットの作成と配布】

- 目的
  - ・保護者に対する支援や特別支援教育への理解・啓発
- 作成・配布
  - ・各学期末の懇談会前に作成・配付
- 活用
  - ・担任が支援の必要な子どもの保護者と話し合う際の参考資料
- 内容
  - <1学期>発達障害のある子どもの状態と通級指導教室の紹介
  - <2学期>通級指導教室に通級している子どもの学習の様子や保護者の思い等
- 効果
  - ・発達障害の子どもの学習面、行動面における困難さと具体的な姿が書かれているので保護者は自分の子どもの姿と重ね合わせて支援の必要性を感じた。
  - ・通級指導教室を利用する児童や保護者の率直な感想等を紹介したことで、支援の必要性を感じている保護者が安心して教育相談に訪れた。

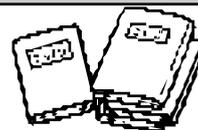


リーフレットの例

##### 【保護者の感想等】

- ・わが子は集中力が続かないのが悩みだったのですが、本人に聞いたところ、授業中は以前に比べて集中しやすくなったと話していました。また、楽しそうに通っているのがありがたいです。
- ・本人が、ことばの教室に行くことが楽しいようです。少しずつ国語が分かるようになり、クラスでの国語の時間も楽しいと言うようになりました。
- ・ことばの教室に通うようになり、少しずつですが、何事に対しても積極的になってきたように思います。字もていねいに書こうという姿勢が見られるようになりました。

## VI ワンポイント事例



### 1 人の話を聞くことが苦手

学校生活  
の様子

人の話を聞くのが苦手なYさんは、いつも周りを見て、友達に合わせて行動しています。簡単な指示は理解することができますが、「服を着替えたら、帽子をかぶって、運動場に集まりましょう。」のような複雑な指示は理解できません。

実態把握

指示内容が複数になると、少しの間であっても聞いたことを覚えておくことが難しい。

周りの音が気になって、必要な話を聞き分けることがうまくできない。

聞いただけで、話の内容をイメージしたり、理解したりすることが不十分である。

考えられる  
支援の手立て

◇必要な情報を短い言葉で端的に伝える。  
◇具体物を提示したり、黒板に書いて説明したりする。



◇座席を最前列にする。  
◇話の前にゲームなどをし、興味をひきつけてから話をする。  
◇見て分かるように、図や絵などを利用する。  
◇聞き取りやすい発音に努める。  
◇声かけをしたり、視線を向けたりして、注意を引きながら話す。

◇ていねいな言葉がけをする。  
◇言葉の意味を図や絵を使って説明する。  
◇興味が持てる課題を設定する。  
◇黒板に順をおって指示内容を書く。

その他の  
支援のポイント

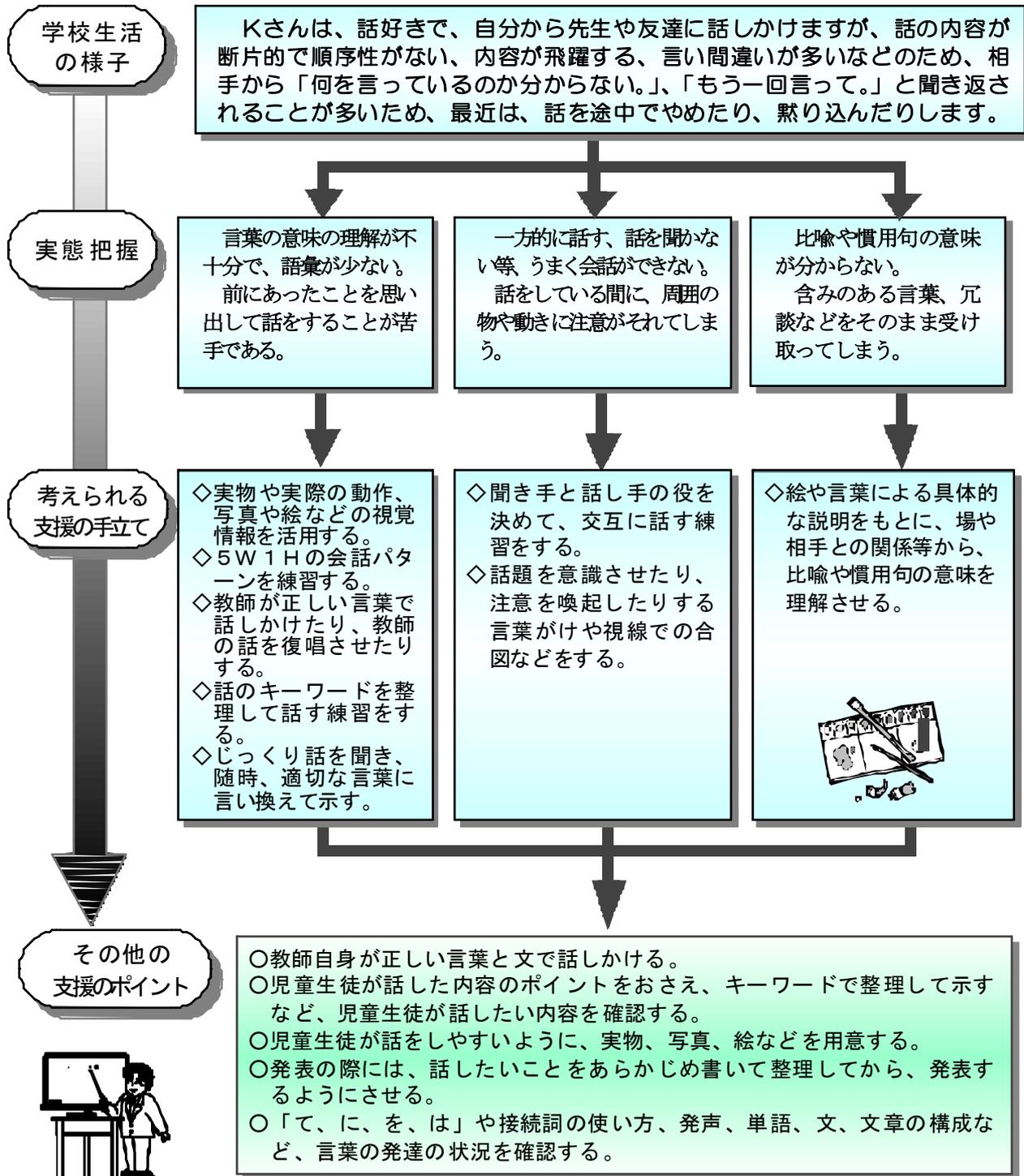
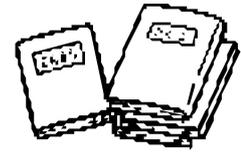
○「これ」、「そこ」、「あちら」、「どれ」のような言葉だけではなく、具体的に示す。  
○教室前面にたくさんの掲示物を張らないようにしたり、学習道具等もいつも整理しておくようにしたりするなど、環境づくりに気を付ける。  
○話した内容が理解できているのかを、声かけや挙手などで確かめる。  
○必要な情報は、「短く、はっきり、ゆっくり」話すようにする。  
○複数の指示をする場合は、一つの指示ができたことを確かめて、次の指示を出すようにする。



#### 【個別的な支援の方法】

- 実際的な学習となるように、日常生活に沿った場面を取り上げたり、活動や体験を取り入れたりする。
- 指示の内容（何をすればよいのか）を考える習慣が身に付くように支援を繰り返す。
- 指示の内容が分からないときや、指示されたことがうまくできなくて困っているときなどに、「分かりません。もう一度教えてください。」など、自分から助けを求める習慣が身に付くように支援を継続する。
- 指示が分からなくて失敗経験につながる体験を意図的に仕組んだり、逆に指示通りに行動し、ほめられる経験を多く仕組む。

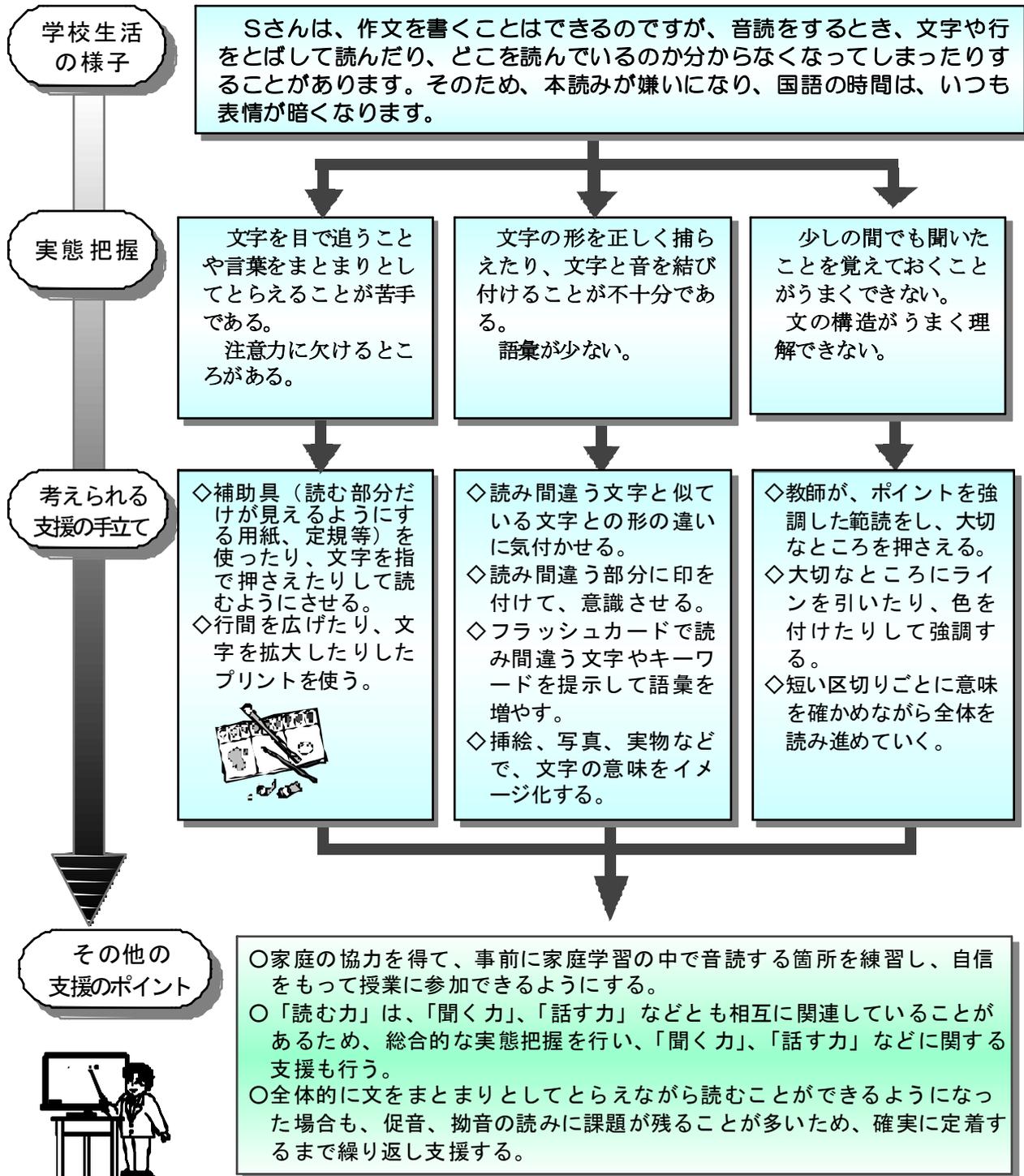
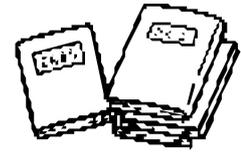
## 2 話をするのが苦手



### 【個別的な支援の方法】

- 語彙を増やすこと、順を追った話ができるようにすることを主なねらいにする。
- 言葉についての関心を高めるため、「しりとり」、「なぞなぞ」などの言葉遊びをする。
- 話の順を視覚的にとらえることができるように、話を絵にし、絵を見ながら順を追って説明をさせる。
- 「いつ」、「どこで」、「だれが」、「何を」、「どのように」等の項目を示し、話の仕方をパターン化して練習する。また、朝起きてからの出来事を順に話をする練習をする。
- 身近な生活場面を取り上げて、場面の状況やそのときの登場人物の気持ちを考えるようにさせる。

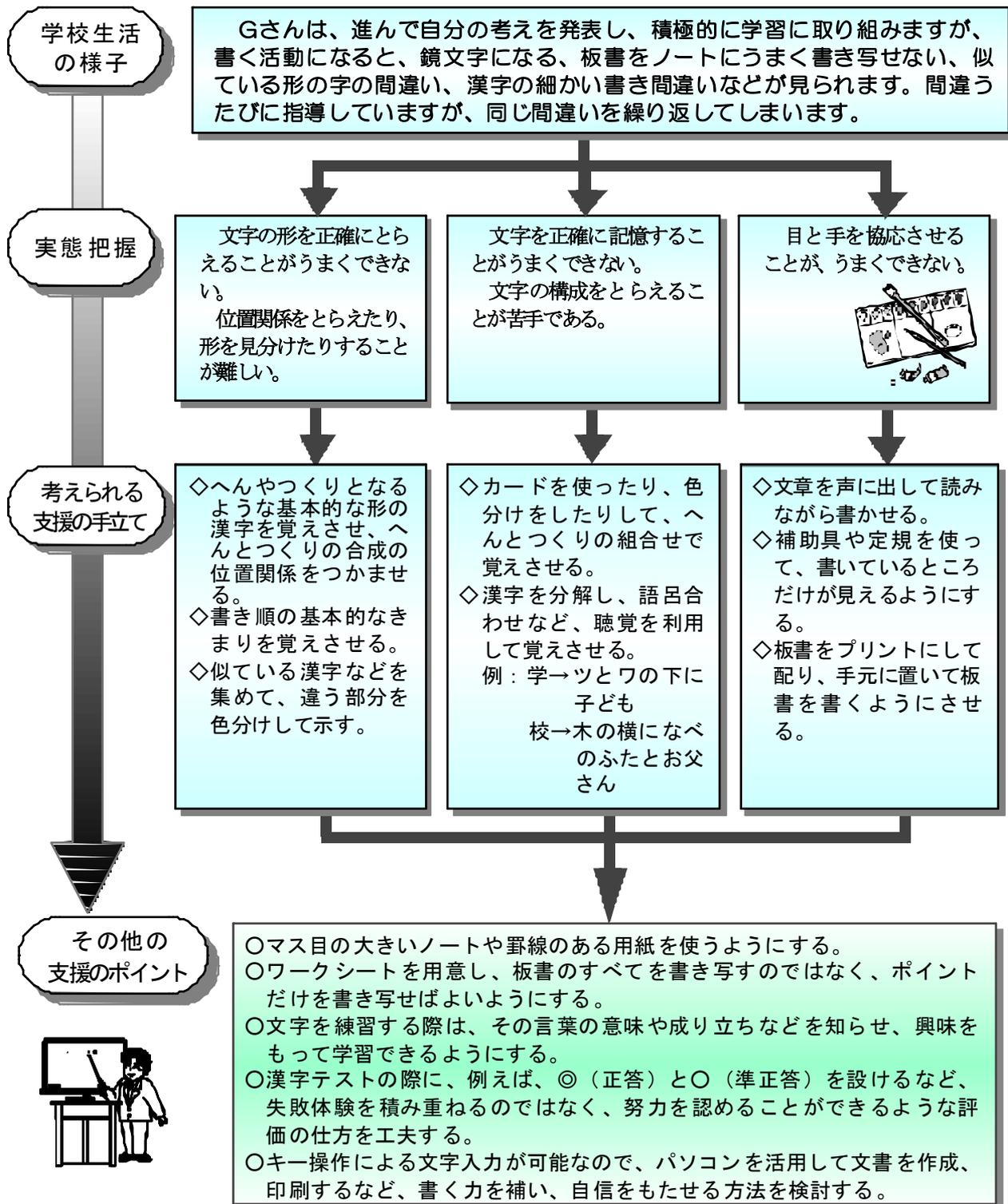
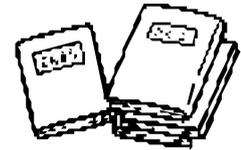
### 3 読むことがうまくできない



#### 【個別的な支援の方法】

- 身近な生活の中にある促音、拗音を含む言葉（「がっこう」、「きょうしつ」など）を使って、促音、拗音の学習をする。
- カードなどを使い、音を視覚的にとらえさせるようにする。  
例：「がっこう」→●●●● 「きょうしつ」→●●●●● 「きゅうきゅうしゃ」→●●●●●●●●
- 文字単位ではなく、文字を含んだ単語として覚えさせる。 例：「きょ」→「きょうしつ」

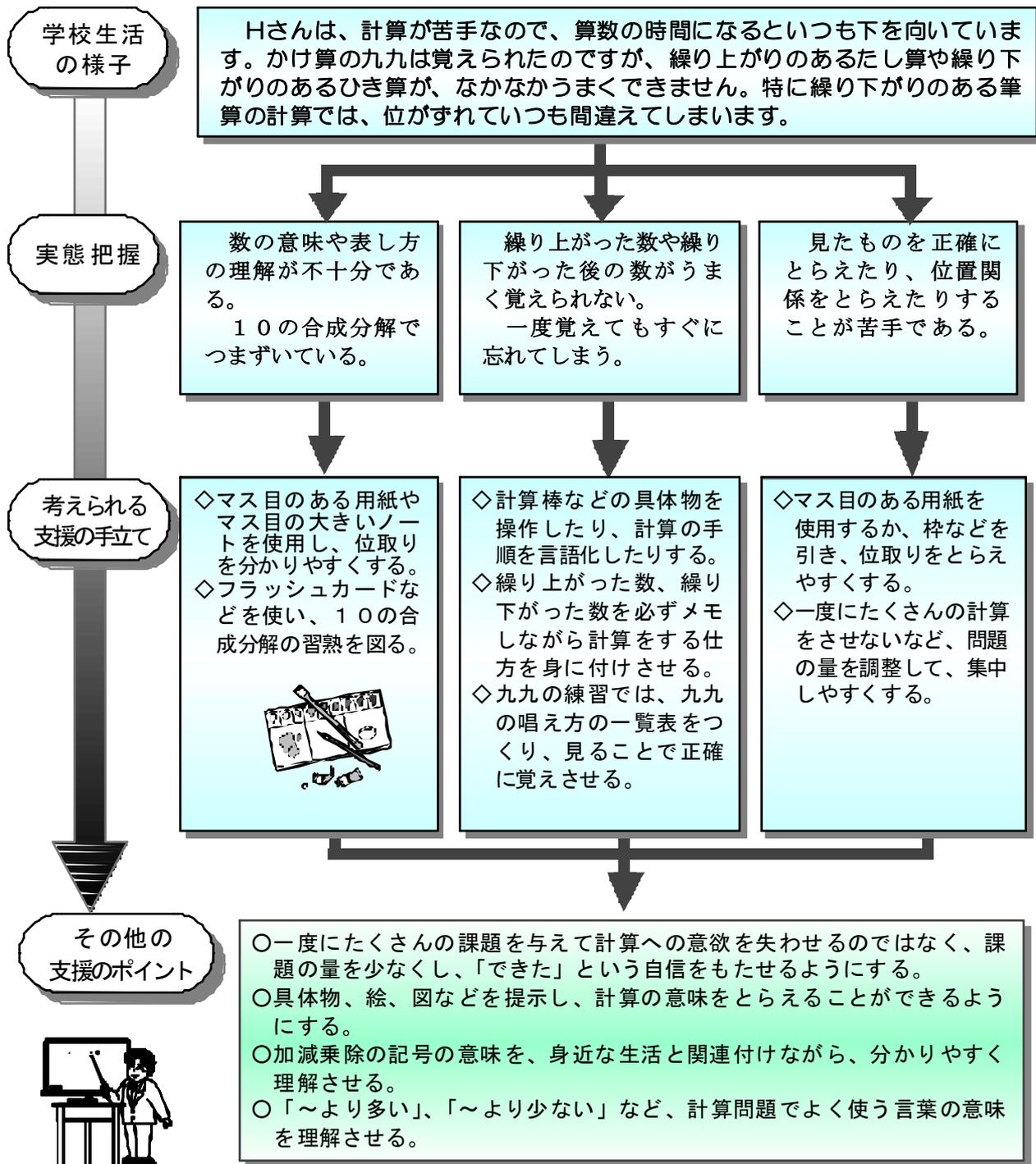
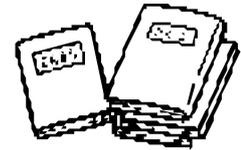
## 4 書くことがうまくできない



### 【個別的な支援の方法】

- いつも間違える文字、書き写す際に間違えるパターンなどを記録しておき、一人ひとりの支援のポイントを見出すようにする。
- 記憶に残る覚えさせ方を工夫する。  
例：漢字の成り立ちなどの付加的な情報の提示、体全体を使った書字学習、似ている漢字の間違い探しのゲーム化、漢字単位ではなくその漢字を含む文章単位での学習など

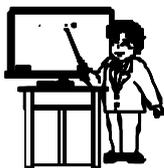
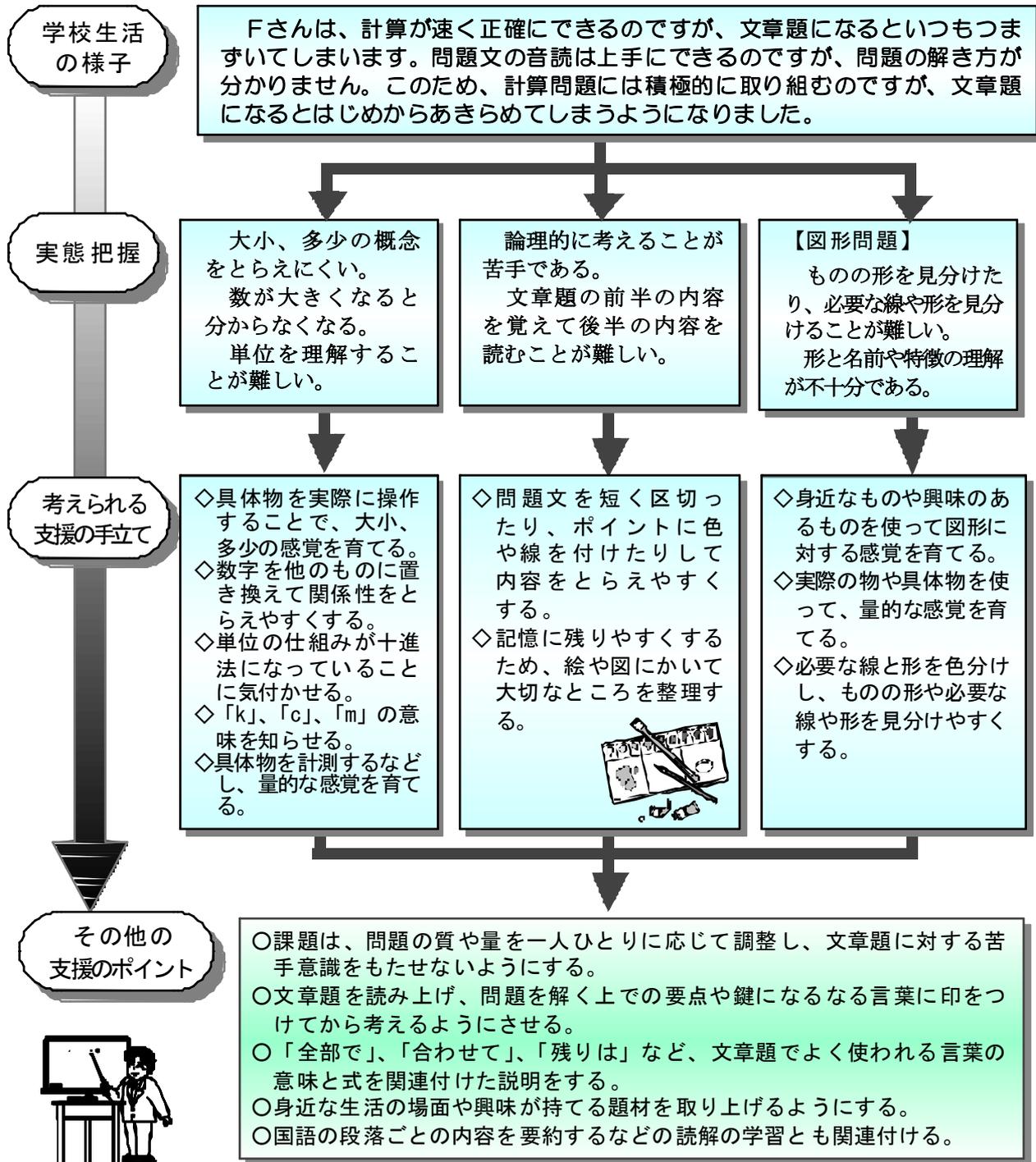
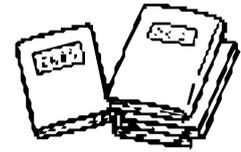
## 5 計算がうまくできない



### 【個別的な支援の方法】

- 「束になった10本の棒」、「1本ずつの棒」等を操作しながら、位取りを理解させる。
- 繰り上がり、繰り下がりについては、おはじき、計算棒などの具体物を利用して意味を理解させる。
- 計算の手順を言語化したり、具体物を操作しながら計算したりする練習を身に付くまで繰り返す。
- 位取りのマスや補助線を入れて、数字を書く場所を確認したり、桁がずれないようにしたりする。
- 筆算の計算の中に矢印を入れて計算の手順を確認したり、繰り上がりや繰り下がりの数を書く場所を決めたりして、計算の仕方を理解させる。

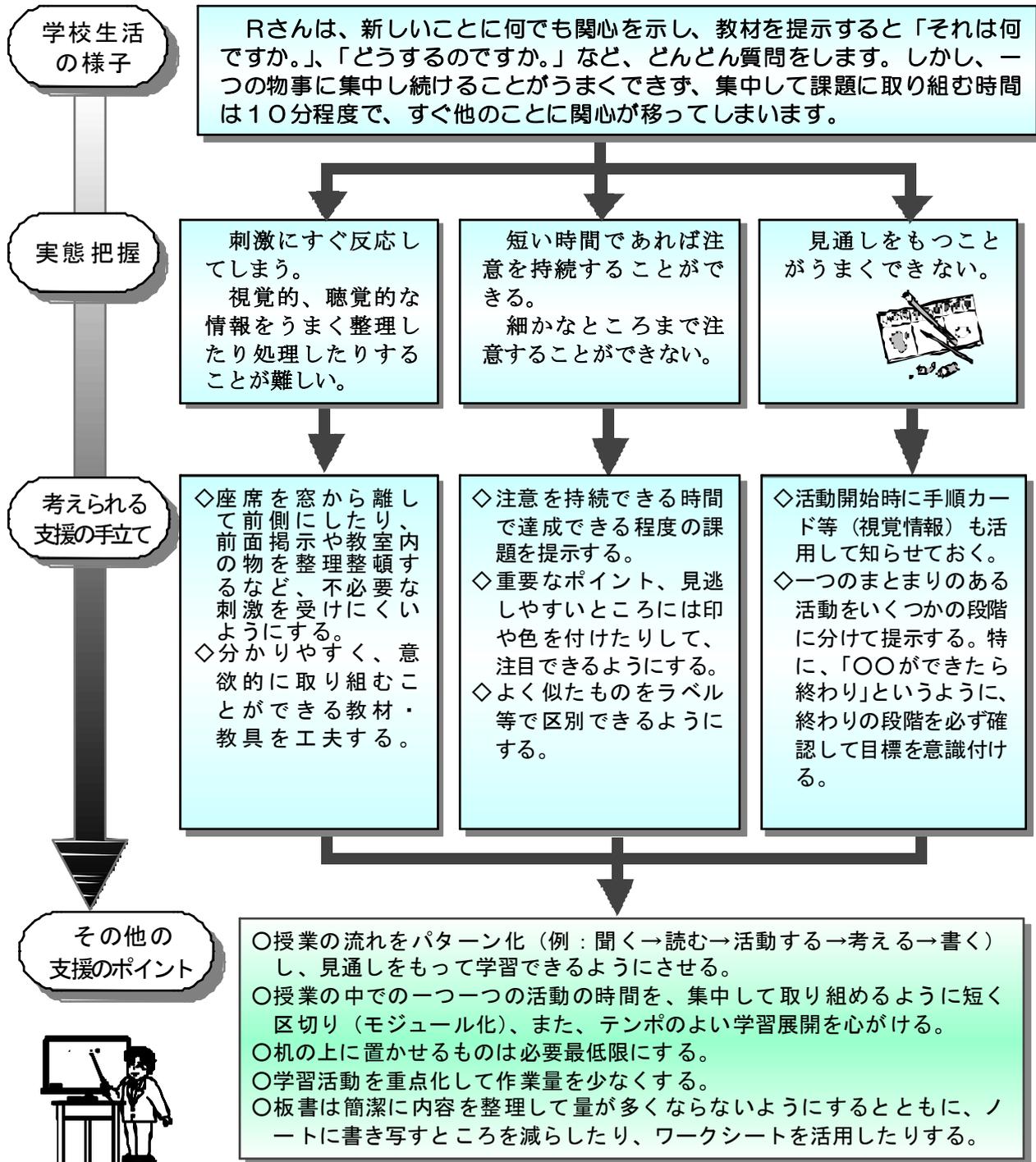
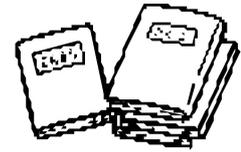
## 6 文章題につまずきやすい



### 〔個別的な支援の方法〕

- 自分の体験をもとに文章題を作ってそれを解く練習をし、身近な生活場面を通して、文章題の意味を理解させる。
- 内容の分かりやすい文章題を使って、児童生徒自身が題意を図示して説明できるように練習する。
- 文章題のポイントとなる条件や求められているものが見つけ出せるように、自問自答の機会を設定する。
- 4コマの絵を時間の流れに沿って並べ、各場面の要点を確認しながら、ストーリーを作り、その中で順に問題を理解させる。

## 7 集中し続けることが難しい



### 〔個別的な支援の方法〕

- 集中して活動できる時間を少しずつ延ばしていくようにし、はじめから長い時間集中するように要求しない。
- 教科等や学習内容・活動によって集中できる時間が異なり、どんなことに興味・関心があり、どのような活動であれば、どの程度集中できるのかなど、児童生徒の実態を把握し、集中できる活動の組合せを工夫する。
- 必要に応じて、学級のような大きな集団ではなく、小集団による学習を経験させる。

## Ⅶ ふれあい教育センターの取組例

### 1 専門家チーム(リエゾン・コンサルテーション・スタッフ：LCS)



発達障害等の幼児児童生徒について、学習習慣や生活習慣が十分確立していないため、集団での学習や生活になじめず、学習・生活の補助や個別指導を行うなど、特別な配慮を要する場合があります。また、パニック状態を示し、授業の進行に支障が生じたり、周囲の幼児児童生徒を含めた安全上の問題が生じたりし、緊急に対応が必要となる場合もあります。

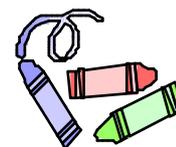
このため、ふれあい教育センターでは、心理学の専門家、地域コーディネーター等の専門家チーム（Liaison Consultation Staff：以下LCS）を学校に派遣し、支援方法や支援計画の作成、学校生活への適応、校内の支援体制の整備について指導助言を行います。そして、幼児児童生徒の校内の相談支援体制の整備を行います。

1 目的	心理学の専門家等を派遣し、発達障害等の幼児児童生徒への相談支援を行うことを通して、幼児児童生徒の学校生活への適応、校内の支援体制の整備を図る。
2 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒、保護者、教員等に対する教育相談</li> <li>・集団及び個別支援のためのアセスメント（心理検査、行動観察 等）</li> <li>・幼児児童生徒に対する指導方法、校内の支援体制、保護者との連携の在り方等についての助言</li> <li>・継続したきめ細かな支援を行うための個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成支援</li> <li>・関係機関等と連携した支援を行うための連絡調整 など</li> </ul>
2 対象	発達障害等があり、特別な支援が必要な幼児児童生徒、並びにその保護者及び教員等
3 専門家チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の専門家（臨床心理士等）</li> <li>・スクールソーシャルワーカー</li> <li>・地域コーディネーター</li> <li>・県教委及び市教委指導主事、並びにふれあい教育センター職員</li> <li>・ケースに応じた関係機関関係者</li> </ul>
4 派遣要請の 手続き	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">学 校</div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">市町教育委員会</div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">派遣要請</div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">やまぐち総合教育支援センター</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">ふれあい教育センター</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">専門家チーム (Liaison Consultation Staff)</div> <div style="margin-right: 10px;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の専門家</li> <li>・地域コーディネーター</li> <li>・県教委、市町教委指導主事</li> <li>・ふれあい教育センター職員 等</li> </ul> </div> </div> <p>・小・中学校からは、市町教育委員会を通して「やまぐち総合教育支援センター」に派遣を要請する。</p> <p>・県立学校からは、直接「やまぐち総合教育支援センター」に派遣を要請する。</p> <p>・派遣要請を受けて、「専門家チーム」の派遣について、ふれあい教育センターと市町教育委員会又は学校が日程等の調整を行う。</p>



## 5 支援の実際

幼児児童生徒、学校等の状況によって支援の方法は変わります。  
 以下は、その一例です。



### ○ケースの概要

**対象** 小学校高学年男子児童  
**状況**

- ・友達とのささいな行き違いなどで、物を振り回すなどの危険な行為が見られた。また、教師に注意されたりすると、友達や教師を攻撃したり、物を壊したり、自分自身を拳で殴るような自傷行為が見られた。
- ・パニックが頻繁に起き、授業の進行に支障があり、また、他の児童の中に本児の影響を受け、離席、多動、教室からの飛び出し等が見られるようになってきた。
- ・特に、暴力行為、自傷行為による安全上の問題が顕著になってきた。



### 学校の対応

- ・保護者との教育相談の機会を持ち、家庭と学校が協力して支援する関係づくりに努めた。
- ・ふれあい教育センター職員や地域コーディネーターから指導助言を受け、よいところを褒めて自信をもたせる指導に努めた。



### 対応後の状況

- ・保護者が時々学校を訪れて授業参観をしたり、連絡帳にコメントを書くようになったりするなど、子どもに対する関心が高まってきた。
- ・少しずつ友達とのトラブルが少なくなってきたが、特定の友達に対する攻撃が激しくなったり、他の学年の児童とのトラブルが見られるようになったりするなど、目の離せない状態が続いている。

### ○LCSによる 対応の概要

#### 問題の端緒

- ・学校からの要請でふれあい教育センターの職員が学校を訪問し、問題の状況を把握した。
- ・学校とふれあい教育センターが協議をし、LCSの派遣を要請することにした。
- ・学校から市町教育委員会にLCSの派遣についての要請があったので、日程調整を行った。

#### 訪問日の日程

時間	内容	学校の出席者
9:00 ~ 9:20	◇打合せ (校長室)	校長、教頭
9:25 ~ 10:10	◇授業参観 (教室)	教頭
10:30 ~ 12:00	◇心理検査 (視聴覚室) ◇状況についての協議 (会議室) ・現状(児童の実態、指導の経過、校内体制等)	校長、担任 校内コーディネーター
12:10 ~ 13:00	◇給食参観 (教室)	
13:00 ~ 14:50	◇心理検査結果及び支援方針の検討 ・心理検査結果の分析 ・家庭の状況、学級での支援 ・支援方針の検討と支援体制の確認	校長、教頭、担任 校内コーディネーター
15:00 ~ 16:00	◇保護者との教育相談	校長、担任
16:00 ~ 16:30	◇今後の対応についての協議	校長、教頭、担任 校内コーディネーター

## 協議の概要

### ＜ 心理検査結果の分析 ＞

- ・語彙が不足しているため、カード遊び等で言語力を伸ばす必要がある。
- ・授業中の支援は、視覚的な教材等の提示が有効であると思われるので、絵や図などを活用するとよい。
- ・承認の欲求が強く、人の話は聞いているので、反応があったときに「やってるね。」「速いね。」「よくできているね。」と褒めて認めることが大切である。
- ・聞き方にあいまいなところがあるので、指示をした場合は確認が必要である。
- ・話を聞いている時は、相手をじっと見ている。これは、本人の必死のサインであるから見逃さないようにする。
- ・学習能力が多少低いので、要求し過ぎないこと。算数の学習は2年生の段階につまずきがあると思われる。障害の有無については、これまでの積み重ねが不足しているところもあるため、もう少し様子を見る必要がある。
- ・パズルが好きで、絵画完成や絵画配列の結果から、注意力があり、見通しがもてれば他の児童と同じように物事に取り組む力はある。

### ＜ 今後の対応 ＞

- ◇校内体制により、週2～3時間、個別指導を行う時間を生み出し、個別指導の中で、教師に認められ、本人が楽しみにできる時間を作る。
- ◇地域コーディネーターによる巡回相談を定期的を実施し、児童に対する個別支援及び担任に対する継続した支援を行う。
- ◇個別の教育支援計画を作成し、長期的な視点に立って継続的な支援を行う。
- ◇小・中学校の連携を強化し、中学校への就学がスムーズに行えるようにする。
- ◇保護者に対して、朝食、睡眠時間、着替え等、基本的な生活習慣の定着についての協力を依頼する。
- ◇今後必要に応じて言語に関する検査（ITPA等）を実施し、より客観的な実態把握を行う。

## ○実施後の感想

### 〔 学 校 〕

- \*本児への個別支援を含めた支援体制が見えてきた。
- \*本児の支援について、校内委員会で全教職員の共通理解を図り、全校体制で対応する。

### 〔 担 任 〕

- \*パニックを少なくするための先手を打つ材料がそろった。
- \*行動の裏側にある「褒められたい」「認められたい」という思いを受け止めたい。
- \*即時に褒めること、繰り返し褒めることを大切にしたい。
- \*自傷行為が心配だったが、勉強ができないこと、意思疎通が十分図られていないことに課題があることが分かった。

### 〔 市教育委員会 〕

- \*保護者との相談、心理検査結果を踏まえた総合的な相談ができたことに意味があり、担任の悩みを解決する糸口も見つかった。
- \*支援についての方向性が定まり、具体的、継続的な支援が明確になったので、今後に見通しをもつことができた。

## ○フォローアップ

地域コーディネーターが約3か月間定期的に巡回相談を行った。本児が学校生活に十分適応してきたと判断し、巡回相談を終了した。

保護者も学校に対して協力的であり、家庭と学校が連携した支援が行われている。中学校へのスムーズな就学に向け、個別の教育支援計画も活用し、継続して適切な指導及び必要な支援が行われることが今後の課題である。

## 2 臨床心理士の参画による相談支援

### 〔要約〕

特別な支援を必要とする生徒の校内体制での支援について、校内委員会で検討後、対応した。しかし、期待した改善が見られなかったため、臨床心理士の参画を得て生徒の実態把握、校内体制の見直しを行って支援を実施した結果、当該生徒と担任との関係の改善が図られた。また、保護者の生徒の問題に対する理解が深まってきた。

### (1) 実態把握



〔学級担任による行動観察等〕

#### < 学習面 >

◇学習能力は高く、学習内容の理解は十分できている。

#### < 行動面 >

- ◇学習中、立ち歩く様子がしばしば見られ、時々教室外に飛び出すことがある。
- ◇集団活動の際、自分がしたいことがあると、我慢できず、友達とトラブルになることが多い。
- ◇周囲の雰囲気は無頓着で、勝手に発言をしたり、相手の気持ちを考えない言動が見られたりするため、周囲から阻害されがちで、当該生徒自身も友達、教師から距離を置いている。



\*担任が、校内コーディネーターに相談し、校内コーディネーターが校内委員会を開催

### (2) 支援の内容・方法の検討（校内委員会）

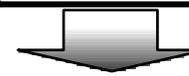
〔校内委員会の概要〕

#### < 担任及び教科担任による支援 >

- ▽発言のルールを生徒と話し合って決める。 → 視線で合図又は挙手・指名
- ▽見通しを持って学校生活を過ごせるようにする。 → 朝のHR、授業の開始時に予定を提示

#### < 校内体制による支援 >

- ▽教頭または校内コーディネーターによるTT指導を行う。 → 特に立ち歩くことが多い国語、数学（週5時間）
- ▽保護者の理解と協力を求める。 → 校内コーディネーターと担任による教育相談の実施



\* 2週間、支援を実施後、校内委員会で指導・支援の評価と以後の対応の検討

### (3) 支援の評価

〔校内委員会の概要〕

#### < 担任から状況の報告 >

- 発言のルールを守れないため、何度も指導したが改善が見られない。
  - 以前にも増して、担任と当該生徒との関係が悪くなったように感じられ、担任を無視する様子が見られるようになった。
- \*担任が、指導に自信を失っている様子が見られた。

#### < 今後の対応 >

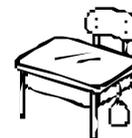
- ▽生徒の心理的な側面からの理解に基づく指導・支援の検討が必要
- ▽担任に対する心理的なサポートが必要
- ▽保護者が問題意識を持って家庭との連携を強化することが必要
- ▽当該生徒の直接の対応を担任に代わって、校内コーディネーターが行う。

} 専門家の招へい



\* 特別支援学校に専門家の派遣を依頼し、臨床心理士と地域コーディネーターが派遣されることとなった。

#### (4) 実態把握及び相談支援



##### ①学校から状況の概要についての説明と課題の整理 \*校長、地域コーディネーター、担任等

- ・学校生活の状況（学習、生活、集団への適応 等）
- ・家庭生活の状況（家族構成、保護者の思い・願い 等）
- ・学校の取組の状況（担任による指導・支援、校内体制 等）
- ・現在の課題（生徒への指導・支援、家庭との連携・協力 等）



臨床心理士 地域コ

##### ②授業参観

- ・学習への取組
- ・他の生徒との関係
- ・教師の支援
- ・掲示されている作品等
- ・教師との関係



##### ③授業参観をもとに対応及び保護者との相談の検討 \*校長、地域コーディネーター、担任等

- ・当該生徒についての理解（心理面、発達段階 等）
- ・必要な支援及び校内体制（担任による支援、TT等の活用 等）
- ・家庭との連携・協力（学校と家庭の一貫した支援）\*保護者との教育相談の内容

##### ④保護者との教育相談 \*臨床心理士、地域コーディネーター、担任、校内コーディネーター

- ・学校での支援について、担任が説明
- ・家庭生活の状況、保護者の気付き等について臨床心理士が心理面から助言
- ・学校での支援、家庭での支援についての協議及び共通理解



##### ⑤校内委員会 \*臨床心理士、地域コーディネーター、校長、担任、校内コーディネーター他全教職員

- 臨床心理士による保護者との教育相談の報告及び保護者に対する支援についての助言並びに検討
  - ・保護者自身の困り感についての理解
  - ・家庭での支援をサポートするための担任及び校内コーディネーターによる継続した教育相談の実施
- 学校での指導・支援についての検討
  - ・当該生徒の自己肯定感を高める支援
  - ・他の生徒との関係改善のための取組の設定
  - ・担任を支援するためのTTの継続

臨床心理士さんや地域コーディネーターさんのような専門の方の話を聞くと自信をもって支援ができます。

#### (5) フォローアップ

##### 〔校内委員会後の状況〕

- 校内コーディネーターと生徒との関係が良好なので、学校生活の悩みについて相談することができる。担任は、校内コーディネーターを通して当該生徒の心情についての理解を深めることができるようになり、これまでの一方的なかかわり方ではなく、多少の失敗は受容し、生徒のよい面を認めようとするかかわり方をするようになった。ただ、まだ自信をもって当該生徒にかかわることができないところがある。
  - これまで子どもに対して消極的だった保護者が、家庭で学校生活の様子を聞いたり、担任からの手紙に返事を書いたりされるようになった。
- ※ 今後、「個別の教育支援計画」を保護者と協力して作成する。



担任



校内コーディネーター

---

【監修者】

かねはら小児科	院長（小児科医）	金原洋治
たはらクリニック	院長（小児科医）	田原卓浩
山口大学教育学部	学部長	吉田一成
山口大学教育学部	教授	松田信夫
山口大学教育学部	准教授	松岡勝彦

(敬称略)

---